

旭
光

野
上
傳
藏
著

特230
729



始



特 230
729



野
上
傳
藏
著



自序

人にすゝめられて激務の中に稿を起し、二箇年に亘り或る警察雑誌に掲載しましたが、勿論その道の者でない私に、小説が書けよう筈もありません。只私が二十年の警察生活を通して、有難く経験した事柄や、私の知り得た實際事件を主材と致しまして、之に幾らかの化粧を施し、主人公である古川巡査を古川警視に仕立てた二十年間の段階的行進に、傑僧、聖者、哲人、その他社会各層の人物を登場させ、現代警察の正しい姿を表はし、一方世間と警察との関連をつとめて面白く書き綴つて見たまで、あります。私がこの書を公刊するまでには、相当期間の躊躇があつ

たのでありますが、先輩、同僚の切なる御すゝめもあり、遂に意を決して改訂を加えました上、新光閣にお願ひした次第であります。幸にもこの書が廣く警察官の方々と其の家族の方々に肩のこらない読みものとして用ひられ、又一般世間の人々にも讀んで頂いて、眞直ぐに警察を理解して貰へることが出来ますならば、警民一體の一歟ともなり得るかと思存するのであります。

野 上 傳 藏

- 一 山寺の老僧……………一
- 二 警察の登龍門……………三
- 三 鹿島立ち……………六
- 四 警察官の力……………八
- 五 コッコ教育……………一〇
- 六 茶 話 會……………一四
- 七 餞別第一號……………一八
- 八 新任巡查と署長……………二〇
- 九 道路と巡查……………二二
- 一〇 下宿屋と巡查……………二四
- 一一 町の顔役と巡查……………二七
- 一二 夜 警……………二九

一三	暴漢と巡査	三四
一四	今井田先生	三五
一五	駐在巡査	三九
一六	夫婦喧嘩	四三
一七	村の有志	四九
一八	變哲部長	五二
一九	山火事	五七
二〇	馬車屋と巡査	六一
二一	新世帯の警察官	六五
二二	水喧嘩	六九
二三	模範巡査	七一
二四	警察官と試験	七五

二五	真面目の病氣	七八
二六	勵ます人々	八一
二七	青年巡査部長	八五
二八	司法事務	八九
二九	拔刀事件	九三
三〇	信仰ばなし	九七
三一	リヤカーの老婆	一〇二
三二	夜巡視	一〇六
三三	警察官の情操	一〇九
三四	清麻呂公と警察官	一一三
三五	營業主任	一一九
三六	妻の最後	一二三

三七	參禪する警察官	一三八
三八	日本精神論	一三三
三九	世間の爲めの警察	一三七
四〇	警察の實務監査	一四一
四一	再婚	一四四
四二	自動車と警察	一四七
四三	警察と願ひ人	一五三
四四	署長と署員	一五八
四五	選挙取締のこと	一六二
四六	警察のお母ちゃん	一六五
四七	念佛巡査	一七〇
四八	聖戦と警察官	一七三

四九	陰膳する妻	一七六
五〇	早魃騒ぎと警察	一八〇
五一	遊興の非常時取締	一八六
五二	おつとめ	一八九
五三	報國營業	一九二
五四	老僧の遷化	一九七
五五	警視と巡査	二〇一
五六	挂冠	二〇五
五七	捨身報國	二一〇

一 山寺の老僧

秋たけて紅葉織りなす山々の景色を坐ながらに
して眺める、とある山寺の庫裏の方丈、日ざしを
うけた椽側に、猫背に座して赤く熟れた庭の柿の
實などがめて居る人は、墨染の法衣を纏ひ、老
眼鏡をかけた老僧、それから五尺ほど離れて端座
して居るのは村の青年。

老僧 鐵涯は視線を青年春吉の方にかへし

鐵涯 オ、そうじゃ、あんたに話したいことがあ
る。今から五年ほど前のことじゃがナア、或村
に百姓嫌ひの青年が一人居つた。此の青年が或
日考へついた事は、こうであつたそうナ、「一

生田舎で牛や烏と暮して居ても骨の折れるばか
りで、何も残りはしない。いつそ一勉強して巡
査になるか、之に限る」と心の算盤をカチツと
弾いたので、それからの俄勉強。今頃その人が
どうなつて居るか、ワシは知らんが、そんな輕
薄な奴に何が出来るもんか、警察も世間も定め
し迷惑なことじゃる。

これを聞いて居た春吉はモジモジしながら

春吉 和尚様、もう親父が私のことを申上げたの
でしようか。

鐵涯 何をいふか。ワシはナア、若い者の参考話
に今の話をあんたにした迄じゃ。何かあんたも
それに似たやうな事でもあるのかな。

春吉 實は……………。

鐵涯 百姓が一番よい、人生これ以上の安所はな
いぞ。考へて見い、人間に生れては誰でも達者

で仕合せで長生をしたいにきまつて居る。その達者になることもほんとうに仕合せに暮すことも長生きをすることも、チャーソンと農村生活に伴ふて居る。百姓の嫌ひな奴が役人になつて、眞面目に働けると思ふか。

春吉 和尚様、私は百姓が嫌ひと云ふ譯じゃありません。

鐵漚 それなら百姓して朝晩親の傍に居つて孝行せう。

春吉 和尚様私は此のまま百姓するよりか、なり得れば役人を勤める方が、私に適して居ると思ふのであります。

鐵漚 あんたが役人に適して居る、自惚れも休み休み云ふて貰はうぜ。國家の爲めに盡すとも云ふのじやらう。智恵のある馬鹿には困つたもんじや。あんたの親父が酒の二合半も飲むと

「上四人が女の子で、かゝり子が欲しいから、

双子明神に夫婦共参りして、三夜の祈願をかけて生れた内の春吉じや、双子様の申し子じや」と自慢して居つた丈け、あんたに對する村中の評判は悪くない。然しワシが眼から見れば、危くて耐まらん。百姓には利巧過ぎる。モツと腹を練れ。

春吉 和尚様有難ふございます。御教訓骨身に徹しました、將來氣をつけます。

鐵漚 ウン、氣をつけニヤならんぞ。あんたも寺の檀徒じや、ワシも責任がある。じやがナア、百姓の子がみんな百姓すると云ふことも出来まい。大臣も坊主も大工も巡查も百姓から出るがよからう。然し準備はあるのか。學問のこともじやが心の支度は出来て居るかな。

二 警察の登龍門

郷里にちかい警察署で、巡查採用試験を受けた春吉は、血みどろの勉強が酬いられて、學科試験合格の通知を受取り、大正九年十月××日〇〇縣巡查教習所に出頭し、體格検査並に口術試験を受くることになつた。試験官M警部の前に呼び出された春吉は、下腹にウンと力を入れ直立不動、「古川春吉であります」と、自己紹介の聲を大きく張り上げたのであつた。

M警部 巡查になりたいか。

春吉 ハイ、なりとうあります。

M警部 ナゼなりたいか、理由を述べて見よ。

春吉 警察官が私に適するからであります。

M警部 君に警察官が適すると云ふことはどうしてわかるか。

春吉 正義の仕事でありますから、私の心が好みます。

M警部 君は正義人道者だナ。然し、月給が欲しいのだらう。恩給が欲しいのだらう。

春吉 違ひます、月給や恩給などはどうでもよいのです。

M警部 成る程、君は聖人だ。それなら無給と云ふ譯にもいかんから、月給十圓で一生懸命國家の爲め働くか。

春吉 働きます。

M警部 オイ嘘をつくなよ。食はずに働くか、嘘を頑張る奴が一番嫌ひだ。

春吉 ハツ生活の出来る丈けあればよいのです。

M 警部 生活費は幾ら要るのか。

春吉 お上の下さる丈けでよいのです。

M 警部 それから云ふて置くがネ、巡查になりた
いと思ふことと、なれることとは違ふぞ、わか
るか。

春吉 ……………。

M 警部 わからんか困つた奴じやネ。

春吉 ハイわかります。女が男になりたいと思つ
てもなれないこと、同様と思ひます。

M 警部 そうだ。頭は悪くないぞ。然し君は體格
が悪い。巡查には駄目だ。眼も悪るいじやない
か諦めよ、ウン。

春吉 私は諦められません。採用して下さい、お
頼みします。

M 警部 悲鳴をあげるな、しつかりせい。

春吉 學科が悪るければ更に勉強します。體格の

方は通して下さい。

M 警部 學科なんざアどうでもよいのだ。人間が
いるんだ。一寸聞いて見るかナア、君は田舎に
居るから蛙のことはよく知つて居るだろふナ。

春吉 ハイ、蛙は知つて居ります。

M 警部 先づ蛙の種類を言ふて見よ。

春吉 ハイ赤蛙、青蛙それから……………。

M 警部 フンもう知らんか。君は蛙を食つたこと
はあるか。

春吉 アツ、食用蛙があります。

M 警部 仲々周章てるのう。そして蛙と蟻とはど
う違ふかネ。

春吉 蟻は概ね薄黒いです、そして大きくてイボ
のやうなものがあります。

M 警部 蟻と蛙とは住むところが違ふかネ。

春吉 ハイ違ひます。蛙は大てい水氣のあるとこ

ろに居り、蟻は大てい乾いた土の上に居りま
す。

M 警部 フンそうか、君は仲々もの知りだが、雨
降りに蟻が庭に出て來はせんかネ。

春吉 ハア、出て來ます……………。

M 警部 支那の孟子は人の性は善なりと云ふて居
るが、君はどう思ふか。

春吉 ハイ、人間は生れ落ちた時は純真そのもの
で、例へば白色であります。段々と大きくなつ
ていろ／＼の汚れに染んで悪性をもつて來るも
のと思ひます。

M 警部 同じ支那の荀子は、人の性は悪なりと云
ふて居るが、君は孟子説か、僕は荀子説だ。

春吉 孟子でもよいと思ひます。

M 警部 どちらか一つにきめて明答せい、迷子で
は駄目だぞ。

春吉 荀子は人は他の動物同様、自由奔放のもの

に生れて居るが、其の後の躰や教育に依つて善
良な人間性になると説くものと存じます。

M 警部 君は一體どちらか。それを聞くのだ。

春吉 ……………。

M 警部 孟子も荀子も讀んだことはあるまい。も
つと勉強して物事に自信をもつて居らんといか
ん。ヨシ歸れ。

あわれ春吉は今日の不首尾に氣力衰へ、フラフ
ラと教習所の門を出て歸途につき、暮色迫る列車
の中に憂鬱の數時間或は鐵涯和尙を思ひ、或は親
父の手前を考へて惱みは胸に宿された。

三 鹿島立ち

危ふかりし巡查採用試験も合格の通知を受けた春吉一家はさすがに朗らかであつた。親父は村中を觸れ歩く、晩酌三合をきばつたり氏神に詣つたりして幸先を祝ひ、母親は小さくても生臭いものを一尾買はんといかんと云ひ、豆腐一丁まで張込んで大ニコニコ。春吉は正嚴寺の鐵涯和尚を訪ねて事の由を語つた。けふの鐵涯和尚の温顔は、ひとしほ優しくほゝ笑むで――

鐵涯 フンもう聞いて居るよ、困つたもんだ。苦勞の旅の始まりかな。ワシはあんたに餞別しようといふ準備をしたところじや。此の四つの封書

に番號がつけてある、第一號は教習所に勉強中、愈々苦しく思ふ時開いて見なさい。第二號は巡查生活三年から四年迄の間に開けて見なさい。第三號は十年勤続後封切つて貰ひたい。第四號は君が警視にもなれたら、其の後開けて見たい時に開けなさい。不幸警視になれなかつたら、全く用のないものぢやからどこかで官を退くときに見ずに焼き捨てよ下さい。ワシはその頃あの世から高笑ひで見居るからなア。要するに、この封書四つがワシの心からなるあんたへの餞別じや。一圓か五圓か、何百圓か、それはあんたの心で受取つて貰ひたい。鬼が出るか蛇が出るか、又開けて悔しき玉手箱かじや。

春吉 有難く頂戴いたします。何れまたお伺ひ致します。

いよ／＼春吉の出發の前夜となつた。親父は

朝早くから羽織を着て走り廻つて居つたが、ニコニコしながら懐中から財布を引張り出した。

親父 ソラ參拾圓やつて置くぞ、落すなよ、五圓紙幣が五枚、五十錢銀貨が十枚じや。俺がチャーンと費ひいゝようにしてある。

春吉 お父さん濟まんネ、都合がついてきたらこの金は直ぐ返すよ。

親父 そんな水臭いこといふなよ。元氣でやれ。内のことは心配はいらんよ。

母親 春吉や、荷物はみんな行李に詰めてあるヨ、富山の入れ薬を入れてあるから、風をひいても腹が痛んでも、錢を費ふことはいらん。あんたにやこの薬が一番よく効く、コリヤと思ふたら直ぐ嚙みなさいよ。

春吉 お母さん濟みません。ア、靜雄、此頃態々

撮つて貰ふたお父さんとお母さんの寫眞はまだ出來て居らんじやつたか。

靜雄 兄さん心配するな。俺がチャーンと取つて來てある、ソラやつて置くよ。

春吉 やあ、そりやあり難う。兎に角靜雄、あとの事は頼んで置くよ。

感傷的な歴史的一夜は明けた。愈々住み慣れし我家を後に長き旅に鹿島立つかと思へば、春吉も萬感胸に迫り、牛小屋の前に立つては「ペーよ、お前とは長い間の友達じや、共に苦勞をしたが、今日はお別れじや、達者で痾癩を起さず弟に可愛がつて貰へ」と心の誠を送り、大根の葉を御馳走してやつた。また足元に附纏ふ猫を抱いては「タマよ、毎晩一緒に寝てグルングルンとやつてくれたが、もう私は居らんぞ、鼠をよく獲つてみんなにほめられよ、日當りのよい椽側では日なた

ポツコをして安樂に暮しなさい」と心を通はせつ
つ頭を撫で、やれば、猫は眼を小さくして喜ん
だ。父と母と弟の三人に送られて、松坂驛から晴
れの首途についたのであるが、母は驛の便所の蔭
に私を呼び止めて小聲で「これはなア、少しじや
が食べたいものがあつたら買ふて食べなさい」と
紙に包んだ小遣を怪しげな手つきでソツと手渡し
てくれた。そして「用心しなさいよ」と言葉を改
め、私の羽織の襟を折り直してくれた。そして眼
には露の玉が光つて居た。後に列車の中で其の母
の心づくしを人知れず聞いて見ると、あゝ金三圓
六十錢！たゞ感泣あるのみ。

四 警察官の刀

〇〇縣巡查教習所に入所した古川春吉は、上官
同僚から「古川巡查」と官職名を呼ばるゝ度毎に、
身の光榮を感じ惠まれたる現在より輝く將來への
掛橋となる理想を心に秘め、規律嚴しい、所内生
活に精進をつゞくるのであつたが、今日は新調の
官服も支給せられ、憧れの帶剣を授與さるゝこと
ゝなつた。

此の日式場に整列した同期生五十名は、何れも
非常な緊張裡に所長S警部の入場を迎へたのであ
るが、所長の顔も、また非常に引緊つて見へた。
式は開始せられて、順次に前進する巡查に對し、

所長は壇上横に備へある佩刀を一本一本手渡しす
るのであつた。

「古川巡查」

と呼ばれた春吉は

「ハイッ」

と明答して前進したのであるが餘りの嬉しさに全
身の戦慄を起し、我を忘れて進退したのであつ
た。曩て全員に對し佩劍の授與を終ると、所長は
徐ろに唇を開かれ、つぎのやうな訓示を與へられ
た。

只今諸君に授與した佩劍は、刀であつても決し
て人を斬る爲めに渡されたものではない。又單
にその身を護る爲めに渡されたものでもない。
陛下の警察官として任命せられ、陛下の赤子で
ある一般民人をお預りする諸君は、その職務を
行ふ爲めには、己れの肉身をも捨てることがあ

ることを知らねばならぬ。世には多くの官吏が
あるけれど、警察官のやうな捨身奉公的な官吏
はないのである。此の點よく軍人に似通ふて居
る、故に、軍人の如く佩劍を許さるゝのであ
る。軍人は外に對する戦ひとして敵人を屠るの
であるが、警察官の場合は假令心よからずして
一般民人の生活を害するやうな不逞な者でも、
之れ皆等しく陛下の赤子であるから、其の佩劍
を抜いて直ちに民人を威壓し、又傷けるやうな
ことがあつてはならないのである。職權的威力
の下に之を取鎮めて、其の善性に還らしめねば
ならないのである。其の佩劍を用ふる場合は極
めて限られた場合であつて、即ち警察官の武器
使用規程があるから、別に詳しく教示する。要
するに、諸君が常に正しい武道を練磨して、腕
に自信を養ふと共に、其の劍を帯びることによ

つて心に強い正しい確信を保ち、所謂威ありて
猛からず、常に其の言動は一般の儀表であらね
ばならないのである。諸君に其の日本刀を帯ば
しむる所以は、實に警察精神保持高揚の爲め
ある。日に三省して内に立派な警察官を見出さ
ねばならぬ。

明治天皇御製に

敷島の大和心をみがぐすば

劍佩ぶともかひなからまし

と御詠みになつて居られる。我が日本の警察官
は須らく其の大和心を、即ち日本精神を、即ち
警察精神を磨かなければ其の劍はどうかすると
民人威壓の邪器となり、又無用の長物となるで
あらうことを恐るゝのである。佩劍の始めの日
に於て此の修養を説いて置く。諸君の警察生活
の一生を通じ、此の尊き歴史的一天を記念して

貰いたい。

其の古川巡査は佩劍着帽の自己の姿を、自習室
の大鏡に寫し、暫し恍惚として打眺め深く心に決
するところがあつた。

五 コツコツ教育

巡査教習所の渡廊下の軒端に撃析と稱する信號
器が懸けられて居る。樫の木か梅檀の木かで造ら
れた平板であるが、仲々神聖な響をもつて居る。

此の撃析は〇〇縣の巡査教習所始まつて以來五
十年の長い年月を信號報國した功勞者である。此
の撃析に教へられ導かれた警察官の數が八千人と
云はれて居り、その關係をもつ誰もが深刻に味は

された音物である。此の撃析も最早老境に入り、
少々健康を害して居るやうに見受けられ、角の方

は磨滅して居り、破れ目さへ見へて居るのである
が、教習所當局は所謂「飼殺し」の腹らしい。毎
日小使さんに厳しく鍛はして居る此の撃析のこと
を、誰云ふとなく、生徒仲間では普通に「コツコ
ツ」と呼んで親しんで居る。或日S所長は訓育の
時間に

して、生徒を規則づける使命をもつて居ると思
ひます。

所長 園田巡査、あの撃析は好いて居るか。

園田 ハイ、好いて居ります。あの音を聞くと心
が引緊まります。

所長 松井巡査、君はどうだ、率直に云ふて見よ。

松井 ハイ、好く時と好かん時とあるやうに思ひ
ます。

所長 フン、面白い答だネ、高尾巡査、君はどう
か。

高尾 好いても居りませんが、又好かんこともあ
りません。

所長 橋本巡査はどうか。

橋本 ハイ、橋本巡査は松井巡査と同じで、好く
時と好かん時とあるやうに思ひます。或る人か
ら聞きましたか、

査

前田 ハイ知つて居ります。ゲキタクと云ひます。

所長 フン、其の通りだ。よく知つて居つた。あ
の撃析はどう云ふ使命をもつて居るか。古川巡
査

古川 ハイ、いろ／＼の信號任務を帯びて居りま

食ふコツコツ寝るコツコツはよいけれど
さても辛いが朝のコツコツ

と云ふ先輩傑作の歌があるそうです。

所長 フン面白い歌だね。君は或る人から聞いた
と云ふたが一體誰から聞いたか。

松本 誰だつたよく覺へません。

所長 歌は純真其のもののやうだが、君の答は純
真じやないのう。僕なんかも君達と同様、あの
撃析に依り教導されたもんだが、其の當時の所
長から聞かされたもんだ。あの撃析は小使さん
が時間を間違へずに打てばよいので、音はきま
つた通りに鳴ればよいのであるが之を聞く生徒
としては簡単な信號に受取つて、ソラ飯だ、ソ
ラ寝るんだ、ヤア起るんだとのみ感ずることは
出来ないんだ。此の教習所にかかる非文化的信
號器を備へて居るには深い譯があるんだ。只信

へば食事にしても、音を聞いて淺間しくも先を
争ふて食堂に飛込むと云ふ態度は、堅く禁じて
ある事柄である。

食事をするには味の如何に拘らず、品の多少
に拘らず、尊い 陛下よりの食を戴き得る恩典
と、健康とを感謝せねばならぬ。又唱ふる言葉
通り官の祿を食む者は、官の爲めに死しても其
の任務を全ふせねばならぬのであつて、コツコ
ツコツと食事の音を聞けば、即應して其の道に
遵ひ正しき食事を有難く戴かねばならぬ。又寝
る撃析を聞いては、けふ一日の存命を感謝し寝
ることにより憂ふことなく悩むことなく樂し
き眠に入ること考へねばならぬ。また起る撃
析を聞いては若い人々は誰しも好まないかも知
れない。人はなにか幸福を味ひまた快感を得れ
ば感謝することを知るのであるが、不快を感じ

號だけならば、現代式の電気ベルが一番よいの
であるが、殊更に此の古器を用ふるのは、古き
心を味はせるのだ。即ち輕薄なる新しい浮いた
心を落着けさせるんだ。由來あの撃析なるもの
は昔の學問所や役所などの聖なるところに用ひ
られ其の板の音を通じて感じ取る尊いものがあ
り、それがあの撃析の重要にして且つ偉大なる
存在價值である。

古川 お訊ね致します。例へば朝起る時に鳴る撃
析は、唯起るんだとのみ聞かずにどう云ふ風に
聞くのでしょうか。

所長 サアそれが大切なところだ。古川巡查のみ
かね、他の者もそれが判らずに居る向があらう。
困つたもんだ。あの撃析の音を聞いて味ひとる
には、常に所長や教官の躰けを眞面目に聞いて
その事その事に心を用ひてせねばならぬ。たと

不幸に陥つては、感謝が起らないのである。然
し大觀すれば快も不快も幸も不幸も皆神佛恩寵
の中の一變化であつて、不快は快の前であり、
不幸は幸の根であると感ずるとき、簡単に不平
不満を云ふことは勿體ないことである。起きる
撃析を聞いては、サア今日も一日元氣で謙虚で
萬物を愛して、心を樂しく國家の爲めに意義あ
る働きをするのだ。雨が降れば雨が有難い、暑
ければ暑い有難い、寒ければ寒いから元氣が
出るんだ、有難い事だと感謝に満ちて起き出る
やうに聞き、感ずる味ひを噛み出さねばなら
ぬ。判つたかね。

一室寂として聲なく、コツコツの尊嚴身に沁みて
また懐し。

六 茶話會

或る土曜日の午後であつた。生徒は寒空に肌着一枚になつて室内外の大掃除に精を出した。室長の田原巡査が「今晚茶話會をする、一人當り負擔金十五錢」だと知らせた。

夕食もすんで午後七時、撃析の合圖に一同は會場である二階寢室に集合した。室長の氣をつけた號令で一同姿勢を正したが、所長以下多數の教官方の入場があり、一同敬禮の後、定座につき、茶菓子は一袋づゝ配られた。そして所長S警部から話は始められた。

所長 今晚の茶話會は最も愉快に、そしてまた有

意義に催して貰いたい。諸君の心血の結晶である此のお茶菓子は、心から有難く味つて頂戴する。皆遠慮なく語り合つてもらひたい。

M教官 皆固くならんで打寛いで、何でも話して。若い者の癖に何んでも解つて居るやうな顔をして、黙つて居ることはよくない、解らんことはたづねて見るがいゝ。かう云ふときが一番よい。

H教官 巡査になつて此の教習所にはいつていろく變つた思ひをして居るだろう。なんでも話してくれ。

と頻りに誘ひの水を向けらる、しかし一同は静まりかへつて咳一つしないので、古賀助教は

古賀 オイ、鳴りを静めたネ。毎日浴場では氣焰も上つて居るやうだが、又自習室では所長も教官も及ばんやうな法學博士や、哲學者、宗敎家乃至政治家があるそうじやないかネ。誰か一席

やつてくれ、田島巡査どうか。

田島 質問があります。私共が此所を卒業しますと希望に近い署に配置して頂けるものでしょうか。

M教官 一應希望は聞いては見るが、仲々その通りにはならぬネ。

藤戸巡査 自分の希望の署に行けますれば非常に幸ひと存じます。

M教官 オイ、今から卒業後の事まで考へないでもよいではないか。又何處にやられてもよいではないか。

所長 みんな取越苦勞をして居るネ。然し生徒に取つては大きな問題であらう。然しだ、諸君の希望と云ふものがどんなものか、只自分の郷里に近いとか、知人が多い所とかいふことならば大いに考へものだ。諸君は巡査に志願はしても

將來警部になり署長になることを志願しておる

に相違ない。始めから一生巡査でよいと腰をきめて居るやうな人は先づないとおもふ。もしそんな人があつて、自分の郷里に近いところで恩給まで働いて居れば、時々は里の人々にも會へる便利がよいといふやうな、淺慕な考へをもつたならば、警察も迷惑なものだよ。實際向上心のない人々ほど困つたものはない。マア若い者は學問も仕事もウンと勉強して、國家の爲めになり、又幹部にまで進んで、命の儘に到る所に敏腕を揮ひ、あらゆる難局を突破するだけの苦勞をする心構へが必要だネ。人生到るところ青山ありだネ。

山野巡査 劍道でも、柔道でも、毎日毎日練習に精出して居れば一年位で初段になれるとか聞きますが、實際なれましようか。

M教官 なるる人もあればなれん人もあらう。マアそう焦慮るものではない。初段とか何段とかを考へずに、ほんとうに正しい武道を修練するんだなア。初段も二段も付きもんだ。

所長 警察官はネ、その執行務の性質上常に武道を練磨して旺盛な氣力と技と體力とを養ふてゐるのであるが、その心が正しく養はれず、腕力のみが武道的不自然に發達すると、時に不正の實力を行使するやうなことが起り、警察のためにもその個人のためにも好ましからぬ結果を産むものじや。武道は武徳涵養即ち精神修養として、正しく修練せられなければならぬ。この點特にみんな心して貰いたいネ。

柏村巡査 教練を毎日勵んで居りますが、警察の實務とは縁が遠いやうに思はれますが、どうでしょうか。

所長 ウム、誠によい質問じや。自分も常に考へ

て居つたことで、誰かゞそう云ふ話をするだらうと思つて居つた。生徒の君から其の質問を受けたことは有難い。皆よく聞いて貰ひたい。今の柏村巡査の質問は甚だ突飛なやうであるが、總て物事と云ふものは無批判に過しては進歩がない。またその魂がはいらぬ。前例だとか昔からやつてゐるとかで、よくその事の心を辨へずに只傳統で行くやうな格好は大禁物だ。ことに諸般革新の今日だ。前に話した警察武道でもこの教練でも、大に再検討して新しい魂を養ひ磨かねばならぬ。柏村巡査は教練と實務とが縁の遠いやうに思つて居るがそうではない。これくらひ縁の近いものはない。一寸其の譯を話して見よう。

いま警察でやつて居る教練は大體軍隊式のも

のである。多數の軍隊を動かす上には教練が絶對に必要であるが、警察は一人二人の少人數で行務することが普通であつて、何十人も何百人も團體行動をとつて職務を執行することは極めて少い。故に警察でやる教練は攻城野戰演習本位の軍隊教練とは聊か趣が違ふのである。此の點はハツキリと觀念して置かねばならぬことだ。警察が軍隊式訓練を採用して居るのは、軍隊で軍人精神涵養の爲めに行ふ訓練關係を警察精神涵養の爲めに行ふ訓練關係である。すなはち命令服従の關係が嚴肅に規律せられ、一巡査部長の命令によつて、何十人何百人の巡査が指揮者の意圖の通りに右に向き左に向き、而もこれが一齊に行はれてその間些かの自由を許さないと云ふ物の折目を守らせ、定まつたことはその通りに行ふと云ふ規律的習慣を養ふためであ

る。故にこの教練的訓化と云ふものは、實務の上に如實に現はれて来る。即ち一般事務處理の上についてもキチンキチンと片を着けて行く几帳面な人間を作ることが目標に置かれて居るので。故に諸君が如何に姿勢や態度に於て教練的成績がよくつても言ふことが明確でないとか、一般仕事の上にズルイものがあるならば、教練の點は零となるわけである。そう云ふ者はないか皆考へて見よ。

M教官 皆よく解つたか、形ばかり出来ても本心が整はなければ駄目だネ。今所長殿の仰しやられる通りだ。

古川 ハイ、よく解りました。

所長 どうだ、凝つた話は此の位でやめて餘興に移るかネー。

H教官 徳永巡査、山川草木をやれ。

徳永巡査の詩吟錦州城に始まり、古川巡査の都々逸、中野巡査の博多二輪加其の他數番の餘興があり、午後九時閉會を宣せられたのであつたが、此の夜古川巡査は總ての點に於て田舎者の自分が多くの同僚に劣つて居ることが感ぜられ、所長や教官や優秀な同僚巡査の知識と常識とを羨ますには居れなかつた。あゝ自分は今後如何にすれば、斯の如きに及び得るか、三省猛省して、ソウだと決意し、強く己を勵まして觀念の眠りに就いたのである。

七 餞別第一號

今晚は非常召集があるかも知れんぞ、どうも教

室の様がおかしいぞと一犬虚に吠へて萬犬その實を傳へ、教習生の寢室は時ならぬ不安の雲につまれる夜も屢あつた。

古川巡査は心中堅く決するところがあり、毎夜平然と安眠し愈々事ある時に急處すると云ふ眞心を養ふに努めたが、或る夜半時ならぬ撃析の響きにサア非常召集だと同跳ね起きて準備を急ぎ、所庭に集合したのであつたが、このとき古川巡査外四名は時間遅延の故を以て叱責せられ、十日間の便所掃除を命ぜられたのであつた。

三日間に互る懸命の中間試験成績は發表せられたのであつたが、古川巡査外十五名はM教官の前に呼入れられ、何れも勉學不熱心なりと諭され、君等の如き人物は將來見込みがない、どうだ、今の内に切上げて似合ひの仕事に就かんか、今晚しつかり考へて見ると宣告せられ、古川巡査は眩暈

を感じ……似合ひの仕事？、あゝ……

教室に於ては教壇直面の左端最前列に席定まつて居る古川巡査は、常に斜めに教官を凝視しつゝ熱心に聴講するのであつたが、憂鬱なる此の頃の古川は動もすれば授業中居眠りを催すのである。

今日も今日とてH教官の行政法講義中フラ／＼睡魔に襲はれたので、ハツと氣付いて姿勢を取直したが、その時すでに遅く、H教官の視線は一段と鋭かつた。

H教官 古川巡査起て！

古川 ハツ。

H教官 外へ出る、眠るなら寢室で眠つて來い。

古川 イーエ眠つては居りません。

H教官 君は嘘を云ふか、外へ出る。

古川 ハイ眠りました。悪うありました。

H教官 出る！ 君のやうな横着者は警察にはい

らん自決せろ。

古川 ハイ、決して横着者ではありません、ツイフラフラしまして……

H教官 兎に角、外へ出る、他の人々の邪魔になる。

他の人々の邪魔になると宣せられて古川は、成程自分の不覺の一睡により親愛なる多數同僚の貴重なる時間を空しくせしめ、且つ不快をあたへたことはその罪輕からずと悟つたので、教官に對し同僚に對し丁寧なる一禮を残し、靜かに自修室に歸り黙想しはし。今の身の置き所に困迷悲痛！嗚呼人生行路亦難し哉と長嘆するのであつた。似合の仕事？、百姓？、牛？……、自決……あツそらだつたと古川巡査は、胸躍らしつゝ二階寢室に急ぎ行李の中から慌だしく取出したものは、鐵涯和尚餞別の第一號、開封すれば

大馬鹿者、死所を知らず、六棒を與ふ。喝

八 新任巡查と署長

鐵涯和尚の一喝により心機一轉した其の後の古川巡查は、學科に實科に又修養に全神經を働かせたのであつたが、昭和〇年一月十五日、中等の成績を以て芽出度巡查教習所を卒業し、同僚藤崎巡查と共に〇〇警察署詰を命ぜられたので、新春の風かほる一月十八日午前八時、豫て打ち合せの〇〇驛前に落合ひ、携帶の行李もあることよて、二輛の人力車を備ひ古川巡查を先頭に〇〇警察署の

玄關に乗りつけたのであつた。
古川 本日當署に着任した者であります。宜しくお願ひします。
某 そうですか、そりやーコツチにお出で……と會釋萬點、イソイソしながら奥の方に居る巡查部長の前に二人を伴ふて行つたのである。
部長 まだ署長殿もお見へでないから、暫くその邊で待つて居りなさい。

九時過ぎてから次席の警部補に呼ばれ署長室に導かれた。署長K警部は二人を迎へる爲めに席を立たれ、二人の名刺捧呈並に着任申告を受けられて後
署長 君等の來るのを待つて居つたぞ。二人揃つて早く着任したことは嬉しく思ふ。君等はまだ若い、物が解つて居るやうでも仲々解らないことが多いものと思つて居らねばならん。然し若

い者でなければならんこともある。上司の指導

によく従ふて、國家の爲めにしつかり働いて貰はねばならん。そしてこれから先わしを親と思ふて甘え又喜んで叱られねばならんぞ。わしも君等を子と思ふて遠慮なく引廻す。然し必ず可愛がることを約束する。よいか。それから古川巡查も藤崎巡查もけふの今の心持を將來決して忘れるなよ。健康に氣をつけてくれ。後程署員一同にわしから紹介してやる、よし。

次席警部補からいろ／＼注意を受けたが、二人のために既に下宿屋まで定めてくれてあつたことには感謝の外はなかつた。聞くところに依れば署長の心づかひから、けふ二人が着任するため特

一同に向ひ。

署長 新任巡查の古川巡查、藤崎巡查の兩名が本日着任したから諸君に紹介する。いつも言ふ通りだが、誰しも曾て新任巡查としてこうした歴史の日があつたのである。そして緊張と云ふか恐怖と云ふか感激と云ふか、言ふに言はれぬ氣持がしたものであることを想ひ起して、本日に當署に生れた二人の爲めに、心からその將來を祝福してやり、また面倒を見てやらねばならんと思ふ。また新任巡查兩名は幹部や先輩を親と敬ひ兄と慕ふて、指導を受け、早く一人前になして貰はねばならぬ。如何に學問があり仕事が出来るとなつても、半年か一年で先輩を嘗めたやうな態度になるやうなことがあつてはならぬ。何處までも謙虛でなければならぬ。
紹介終り

九 道路と巡査

古川、藤崎兩巡査は署所在地勤務を命ぜられ實務教養として各幹部から諸般事務の指導教養を受けたのであつたが、殊に松永巡査部長からは最も懇切に教導して貫ひ山の名、川の名、橋の名、社寺のこと、さては小さい町の路地にいたるまで詳しく教へられ、職務執行の實際指導を受けたので二人は心から此の老巡査部長を尊敬するのであつた。署所在地勤務の古參丸山巡査は、もう十五年も勤續して居り、歳も四十五歳であつたが、仲々の好人物であつた。然し職務の執行は随分面白い

ところがあつた。

丸山 古川君、仕事は追々判るよ、マア氣を焦慮らんで要領よくやるんだネ。餘り念を入れても却つて悪るい。大ていに片づけていよ。

古川 道路の上には大層物を放置して居りますネ告發せんでよいでしょうか。

丸山 そりや告發するがいよ。

古川 然し二尺三尺出て居るのは澤山ありますネあんなのはどうしますか。

丸山 八釜しく云ふて聞かねば、告發する迄よ。

古川 何度云ふても出すやうです、どれもこれも困つたもんですネ。

丸山 横着者はどんどん告發するんですよ。

古川 巡査は此の古參丸山巡査の言葉に抜目のないことや、仕事に屈托のないことや、そして格別報告書も書いて居ないことが變に思はれた。或る

日、藤原警部補が

藤原 オイ藤崎巡査、君等毎日何處を巡回して居るかネ。此の頃町を通ると店先に商品を突出して、道路は狭くなつて居るではないか。

と同僚巡査が叱られて居るのを聞いた古川巡査はア、困つたもんだ、此の關係は一體なんとするかと思案のあまり、其の翌日藤原警部補に

古川 一寸でも道路に物を置いたものには一々注意するのでしょうか。

藤原 判つたことじゃないか、放つて置いてはいかん。

古川 このことでは私共新任巡査は實は泣かされて居ります。毎日道を通る度に注意のし通しです。また告發もして居りますが、この仕事だけに毎日弱つて居ります。

藤原 弱ることはないではないか。

古川 ほかの仕事も出来ませんし、夜も心配で眠れません。

藤原 フン、其の位でなけれや。マア勉強せえ。

古川 教習所で習ひました行政法では、行政のこととは罰するのが目的ではない、定まつたことを定まつたやうにさせたり、又させなかつたりするのが目的で、罰するのは已むを得ない場合の強制手段だ。巡査はロボットではない、説諭するか告發して罰するか、聰明なる判断によつて事故の整理をやらねばならので、頭が要るんだと教はりました。

藤原 教習所で教はつたことに、何も間違ひはない。其の通りだ。然し行政は道路に物を置いたことだけのことでないから、何も彼も君達が勝手の判断で行つてはいかん。違反があれば告發するがよい。

古川 それは事實上不可能と思ひます。

藤原 君はいかん。マアほかの人を見よ、皆そうやつて来て居るではないか。

此の問題の解決には几帳面の古川巡査は痛く惱んだのであつたが、其後間もなく道路の一齊取締があり、其の報告様式によつて告發欄と説諭欄があることに氣づき、なある程これは。

一〇 下宿屋と巡査

古參巡査の紹介で古川、藤崎兩巡査は〇〇町のある下宿屋に行李を解いたのであつた。

見晴らしのよい二階八疊の間が二人共同の居間に充てられたのであるが、此の室には立派な床の

間までついて居り、まだ畳も新しかつた。そして

此の下宿屋は中年の夫婦と中學生の子供一人とであり、女中を一人使つて居る。下宿人は二人の外に紡績工場に出る技手と、セメント會社に勤むる事務員と驛員の三人であつた。或る日女中のキーちゃん、

女中 毎日御心配でしょうネ、御疲れでしょうね。

藤崎 僕等が疲れたやうに見へるかネ。

女中 新參のお方は大層氣を遣はれるやうに聞いて居りましたから。

古川には此の女中の口から出た「新參」と云ふ言葉が非常に不快であつたが、隠しやうもない事實であるから致方もないのである。此の女中否一般の人々からなんにも判らない新米巡査として遇せらるゝことは辛いことであつた。

古川 仕事のことには前にやつて居るから、何でも

ないがネー。勤務場所が變ると人に慣れるまで

便利が悪く、一寸困るネ、藤崎君。

藤崎 ウンなんの今に正々堂々たる者になるよ。

主人の藤吉さんがニコ／＼しながら上つて来て

主人 毎日御疲れでしょう。

古川 やあ、あり難う。お世話になります。

藤崎 オジさん、何か面白い話でもないかネ。

主人 宅もあなた方がお見へになつてから大變賑やかになりましたし、心強くなりましたよ。三年程前に花田さんと云ふ巡査さんが居つてくれましたが、今部長になつて〇〇署に居られます。仲々おとなしい勉強家でしたよ。

藤崎 僕等と反對の人ですネえ。古川君お互ひもおとなしくして勉強せんと老部長になれんぞ。

古川 そうだ、老部長にも若部長にもなれんよ。

主人 花田さんが居られんやうになつてから泥棒

が這入つたり、押賣が来て困りましたよ。

此の時、古川巡査は、主人の顔を更めて見直したのであるが、格別の悪意もないことは判るが、此の主人が我々警察官を信賴することは悪魔拂ひか夜番のシエパード位のところだなアと考へた時、一寸嫌な感じがしたのであつたが、之も社會の現實で面白いことに考へ直し

古川 此の頃は警察官の宅でも強盜さへ侵入りますから、用心棒が二人居つても仲々油断は出来ませんよ。

主人 そりやマアそうすなア。

とニヤリ／＼しながら藤吉さんは下に降りて行つた。食事は階下の八疊の間でするのであつたが、愛想のよいお婆さんは食卓の世話をしながら

お婆さん わたし方の主人は、大層警察のお方が好きでしてネ。警察のお方には澤山懇意の人があ

ります。

古川 同宿の方は皆静かな人ばかりですネ。

おバさん 佐藤さんは名古屋の高等工業を出て居る人ですが、仲々出来た方で、暇さへあれば勉強して居られます。

古川 これから相當長くお世話になりますから、餘り構はないで下さいおバさん。

藤崎 内輪の者同様にして貰つた方がいゝです。

飯も自分でつく方がよい、ノウ古川君。

古川 ソウソウ、氣安く頼みますよ。

おバさん そうして頂くと私の方も願つてもないことです。それからネ、あの下宿代はほかの方は皆廿八圓ですが、あなたの方お二人は内所で廿五圓にして居りますから、どうぞ其のお積りで……。

古川 どうして私共だけ安いのですか、同じ待遇

でしたら同じ下宿代でよいです。

おバさん ハア、あなたも仲々お堅いですネー。實は佐々木さんからお話しがございまして、そうしたのですが、今申しましたやうに私の主人が警察のお方が好きですから。

古川 下宿代だけは是非同額に願ひますよ。

此の夜、古川は、床に着いてから靜かに考へて見た。此の頃まで自分が田舎の青年として見たり感じたりした警察官に對する世間人の取扱ひが、一種の尊敬でもあり、又一種の同情でもあつたことを知つて居つたので、今自分に警察官として受くる待遇は、何だか不愉快に感ぜられた。然し次の瞬間自分等が特に尊敬せられ信頼されることは何んと云ふても御役目有難いことに感ぜられ、いま更にこの警察と云ふ尊き職務の御奉公に命をかけて働かねばならん。そうだ。——と。

一一 町の顔役と巡查

古川 巡查が戸口調査に行つた先に、今田と云ふ此の町の顔役の宅があつた。相當大きな構へで乾分とでも云ひそうな二三人の若者も居り、大きなシエパードも二匹飼つて居た。長火鉢の前に丹前がけて胡座をかいて濫い顔をして居つた今田親分は、制服の古川巡查を見るや、急に顔色を更め言葉も叮嚀に。

今田 此の頃お見へになつたことを聞きましたので、御挨拶に出ようと思つて居たんでした。今日は御苦勞でございます。

古川 仲々お忙しいでしょう。オ、この蘭は立派

なもんですネー。

今田 イ、エ大したもんでありません。私は暇さへあれば、こんなものをいじくつて居るんです。あなたお好きでしたら一鉢差し上げましょうか、澤山ありますから。

古川 僕は植木や草花は駄目です、一寸感じただけのことです。

今田 今の署長さんは何も御趣味がないやうですが、石村署長は鉢物が好きでしたなア。私はこう云ふ者です。請負どもして居りますが、どうか宜しく願ひします。警察のお方からはズツと可愛がられて居ります。決して悪るい者ではありません。宅にも若い者が居りますが、よくないことがありますたらどうぞ私に云ふて頂けば氣を着かせます。

と大型の名刺を差し出したのを、古川巡查は黙禮

して受取りポケットにおさめたまゝであつたが、物足りない顔をした今田親分は

今田 どうか御名刺を一枚頂戴いたしたいのですが、決して粗末には致しません。

古川 あゝ恰度今日名刺をきらしてネ、甚だ御無禮ですが、僕は古川と云ふんです。之から時々來ますよ。

今田 あゝ古川さんですか、私も警察のお方には長い間おつき合して居ります。私の知つたお方は大てい署長になつて居ります。どうか時々お遊びにお出で下さ。

古川 ヤアあり難う。

今田 あなたは未だお若いやうですが、御趣味は何かありますか。

古川 碁も將棋も知らん、趣味と云ふものは飯を食ふ、仕事をすると云ふ位でしょうネ。

今田 ヘエ碁將棋のやうな勝負事はよくありません。

今田 御嗜好はありませんか、お酒の方はどうです。煙草はお召しにならないやうですなア。

古川 酒も煙草もやりません。

今田 魚とりはどうです。魚釣り位は——。

古川 マア網打位ですネー。魚釣は仲々出來ませんネー。

今田 其の内お供しましょうか、私の宅に網はいろくありますから。

古川 あり難う。

警察に勤めるやうになつて僅か三週間餘りだが此の間公生活にも私生活にも相當多くの人々と接觸したのであるが、世間普通の人々の警察官に對する態度は初め思つたよりも冷淡に感じられ、時には「警察官を馬鹿にして居る、年が若いと思つて嘗めて居るな」と自尊心を傷けられた。その無

禮を罵りたくなることさへあるのであるが、その

反面警察取締關係にある人々の、警察官に對する態度はまことに用意周到で、あの手この手の誘惑が少くない。殊に其の本意ならぬ尊敬にツイかつかれて、年若き身の危くも優越感が動くのを内省するとき、「欺されてはならぬ、調子に乗つてはならぬ」自己の利害を考慮して、官服に權力に阿る世間の現實だ。自分はまだ年が若い、物も判らぬ官服人形だ。思ひ上つてはならぬのであるが、今は田舎の青年春ちやんではない、國家の官吏だ、古川巡査だ。卑屈であつてもならん。修養だ、修養だ。そうだ。

大君の警察官、國民の警察官だ。道は眞直ぐだ。

一二夜 警

年末の盜難警戒が毎夜連続し、指定の場所に潜伏夜警を命ぜられた古川巡査は、先輩山口巡査と一組となつて町はずれの橋のきわに配置せられたのであつた。

午前二時頃一人の怪しい通行人があつたので、二人はその男を油断なく誰何した。先づ持兇器關係の身體検査を行つたのであるが、年の頃は四十四五、汚れた襯衣を着て、寒いのに外套も着けずたゞ厚司を二枚重ねて、コールテンズボンに喰逃帽子、ゴム靴を穿いて居り、どうしても直感泥的である。殊にその所持金品が怪しいのである。バ

ツトの煙草が三つ、推田驛までの三等切符と八十
三錢。

山口 どうして今頃こんなところを歩いて居るの
か。

古川 汽車の切符も此の次の驛迄のを持つて
居るではないか。

男 別に怪しい者ではありません。私は推田の者
で松田仁平と申しますが、川崎の山川工場に働
いて居ります。今晚遅く郷里に歸りよりますと
ツイ汽車の中でウト／＼しまして、ヒヨット氣
がつきますと、誰かゞ推田と云ふことを云ひま
したので、推田驛だと思つて周章て、飛降りま
したが、大橋驛と氣がついた時はもう汽車の出
た後でしたから、致方なく歩いて歸るところで
す。

山口 それなら切符は驛に渡したらよいではない

か。

男 又私が乗るか誰か外の人にやればつかへます
から、持つて居ります。

古川 バットを三つも持つて居るではないか。

男 ヘイ、それは今日煙草屋にバットが澤山あり
ましたから、一時に買って置きましたのです。

仲々バットが賣切れますから。

古川 あゝそうか推田まで歩くのは大變だネ。

男 なアに一里あまりですから譯はありません。

山口 うむ、推田まで一里餘りと云ふのか君は怪
しいぞ。

男 此處から二里あるかも知れません。

古川 曖昧なことを云ふネ、君は大橋驛には何時
に着いたか。

男 十一時五十分です。

山口 嘘を云ふな、そんな汽車はない。

男 そりやほんとうです、驛でお調べ下さい。

山口 それから今までどうして居つたのだ。

男 それからうどん屋に立寄つて、うどんを食べ
たりなんかして居りました。

山口 何處のうどん屋か、何バイ食べたか。

男 驛の前通りを一丁ほど來まして、横に這入つ
たところでした。二ハイ食べました。

山口 何んと云ふうどん屋か。

男 よく判りませんでした。

古川 判らん筈はないではないか。

山口 それからどうしたか。

男 それからこちらに來ました。

山口 嘘を云へ、眞直ぐに言へ。

男 ヘイ實は、一寸ヒヤかして來ました。

古川 大體自分の立寄つた、飲食店が判らんとは
おかしいではないか。

山口 もうよからう行き給へ。

男 ヘイ御迷惑かけました、御免下さい。

山口 此の先々又調べられても眞直ぐに言へよ。

男 ヘイ承知しました。

怪しい男は一禮して歩き出した。古川巡査は氣
を揉んだ。

古川 山口さん、どうも怪しいですネ。

山口 怪しいと思へば怪しいんだが、よかろう。

あゝ云ふものは大てい調べて居る内に感じて判
るネ。嘘を云ふか、ほんとう云ふて居るかは判
るネ。

古川 自分の立寄つたうどん屋を知らんなんで、
おかしいですネ。

山口 そりや君知るまいぜ。お互ひが一寸うどん
屋に立寄つたからで、先づ店の名から覺へて置
かうと云ふことは普通の場合にはないネ。一寸

乗る電車の番號を一々覺へて置かんようなものでネ。

古川 バットもおかしいですネ。

山口 バットを一度に三つ買ふことは煙草を喫まん人にはおかしいが、實際にネ君、バットが賣切れて買へないから三つも四つも買へる時に買ふて置く氣になるのよ。

古川 ひよつと悪るい奴であつたら大變ですネ。

山口 それや大變だ、そう思へばどん／＼警察に引張つて行くんだナ。それに限るが然し君、そこが我々警察官の感だナア、あれはもうよからうぜ。それよりも之から通る奴に氣をつけようぜ。

古川 そうですネ。あんな者を署に連れて行つて居る間に、どんなほん者の悪るい奴が来るかも知れませんネ。

山口 そうだ、古川君、君は眞面目だナア、感心

です。君は今の通りで行きなさい。横を見てはいかんぜ。

古川 宜しく頼みます。

午前三時頃になると、全く人通りもなくひし／＼と迫る寒さの中に、其處此處で鳴く鶏の聲を聞くのみであつた。

山口 古川君、寒いろう。あんまり風が吹くから

此の蔭にしやがんで居らうではないか。

古川 そうですネ。

山口 ナアに人が來たら出て行きやいよ。なにも立ちん坊の必要はないよ。却つて悪るいよ。

古川 そりやそうですネ。

二人はある家の背戸壁を背にヤレ／＼と腰を下ろした。すると間もなく一臺の自轉車が來たのに氣がついた古川巡査は、飛出した。

警部補 オイ誰と誰か――。

山口 山口と古川です。

警部補 寒いのに御苦勞だが朝まで氣をつけてくれ、のう、いゝか。

と慰めて立去つたのは豫て尊敬する池田警部補であつた。二人は其の後姿を見送つた。

だんだんと夜明けに迫つて來る、その間二三通行人の誰何があつた後二人連れの自轉車乗りがやつて來た。

二人 止まれツ

と木劍を振り上げ大喝一聲。するとその自轉車を飛下りた前の一人の男を見て山口巡査は驚きあはてた。

山口 あツ、署長殿でしたか、どうもすみません。

署長 やあ、御苦勞だネ。仲々元氣で結構だが、二人共そんな木劍なんか持つてゐることは適切じ

やないネ、十手か何か體に隠して持てるやうなものがないよ、それから古川巡査――。

古川 ハイ。

署長 懐中電燈をむやみに振り照らしちやいかんよ。わしが常に云ふて居る通り、潜伏夜警だから、どこに警官が居るか判られちやいかんのじや。懐中電燈は便利はよいが曲者に限つて警察官に氣をつけるから、ア、あすこに居るナアと氣がつけば通り道を變へてしまふ。潜伏夜警は耳だ、眼だ、第六感だ。わしがいつも云ふ通りだ、いゝか。山口巡査もよく新任を指導してやれ。

山口 ハイ、承知しました、氣をつけます。

署長 すいぶん寒いからね、風をひかんように、下腹に力を入れて、氣をつけてやつてくれ。御苦勞々々。

署長と隨行者とは立去つた。二人は又其の後姿を見送り。

山口 威ありて猛からず、嚴にして寛、寛にして嚴、「あゝ我等の署長よ」かのう

古川 全くですネー。

一三 暴漢と巡查

ある晩の十時過ぎ、〇〇飲食店で酔漢が暴行をして居ると云ふ急報があつた。古川巡查は急いで其の現場に駆けつけた。暴漢はビール罎を投げ飛ばして硝子窓を破壊したり手當り次第にものを投げ散らして、家人を恐怖せしめて居るところであつた。

古川 オイ、静かにせい、亂暴するなッ。

酔漢 何をッ、巡查か。來い。(ビール罎を振り上げた)

古川 まだ亂暴するかッ。

酔漢は手にしたビール罎でなぐりかゝつたので、古川巡查は巧みに避けつゝ酔漢に組付いたが、仲々相手は強い、暫く格闘する内に二人共土間に倒れ轉んだ。

古川 オイ警察に知らせろ。

酔漢は益々荒れ狂うて古川巡查の力は及ばない、其の手から逃れた酔漢は臺所から庖丁を持つて來て古川巡查に挑みかゝつた。

酔漢 さア來いッ、警察もクツもあるかア。

古川 危ないッ、考へ違ひするな。來るかッ。

と劍把を握つて應戰の威力を示した。酔漢は何んと思つたか隙を見て其の儘戸外に飛出した。

古川 待てッ、——待てッ。

と連呼しつゝ酔漢を追ひかけた。酔漢は時々後を振りかへつて兇器を振り上げ、「まだ來るかッ」と威喝したが、古川巡查は追跡を止めなかつた。萬年橋の袂で三度目の威喝をやつた時、隼のやうに飛んで來た一人の男はいきなり酔漢の兇器を持つた右の腕を掴むや、其の場に捻じ倒した。古川巡查も之に協力したのであつたが、もう其の時酔漢の手には手錠が篋められてゐた。

刑事 此の馬鹿野郎酔ふた眞似をするなッ、古川君檢束しよう。

古川 柴田さん、お世話かけてすみません。

酔漢は古川巡查にひかれて、其の夜檢束處分に附せられたのであつたが、休憩時間に寝についた柴田刑事のグウグウの高鼾を聞きながら古川巡查は「やつぱり古參は古參だけある、元氣ばかりでも

いかん。ものにはコツがある。要領がある。大いに修練せねばならん」と眠り得もせず、考へ續けたのであつた。

一四 今井田先生

古川巡查の受持区内に今井田先生と云ふ人がある。當年五十五で筋骨逞しく、胡麻鹽頭の丸顔でそれに強度の近眼鏡をかけ、頗る澁い顔の持ち主であるが、時には金の入歯をチラツと覗かして愛嬌笑ひをすることもある。

今井田先生の家は大きくはないが、よく掃除の行届いたキッチンとした瓦葺きの二階家である。現在は無職であるが相當の貯金を持ち、恩給暮しで

あつて、一人息子の正勝君は東京の〇〇大學に學ばして居るそうである。先生々と言はれると云つても、學校の先生を勤めた人でもない。教會の牧師のやうな人でもない。何でも以前に三十年も臺灣で官吏を勤めて居つた人であるが、此の人を町の人々が先生々々と尊敬するのは、此の人仲々の有識者であり、人が正しくして實行力があると云ふところから、町内の人々の信用を受け、何事が起つてもこの先生に相談すれば、總て解決すると云ふので自然に先生々々と呼ばれるやうになつたさうである。

古川 巡査は或日今井田先生を訪問したのであつた。

今井田 フ、ン、さうですか。此の頃こちらにお見へになりましたか、イヤ何かとお世話になります。

古川 御高名は早くから承つて居りましたので、今日休みでしたから御訪ね致しました。

今井田 御高名は痛み入りますネ。何か御用でしょうか。

古川 別に用と云ふ譯でもありませんが、御高説を承り、若い者の處世の参考に致したいと考へまして――。

今井田 それは又大した御用件ですが、全くお門違ひでしょうハ、、、。

古川 町内の人々からも聞いて居ります。そう謙遜なさらぬで御教示を願ひます。

今井田 御教示とはます／＼驚いたですネー。あなたは何か考へ違ひをしておいでる、大體警察官と云ふ役人が、我々如き者に教へを乞ふなると云ふ事は不見識ではありませんか。どうせわしのような者の言ふことは屁理窟にあらざれば

只の悪口に過ぎないんです。聞くところに依れば、あなたの方の署長さんは大層立派な御人らしい。マアさう云ふ署長さんに導かれて、警察は警察の修養を積まれ、立派な警察官におなりなさい。

古川 署長さんは仲々お忙しいので、我々が直接教を受ける機会がありません。

今井田 そりやーあなたの卑屈でしょう。縁の薄いわしをわざ／＼訪ねるよりも、署長さんに心から親んで教へを受けなさい、署長さんに暇がないと云ふのはあなたの逃げ口上です。そんな逃げ心、他人心でどうしますか。嚴格すぎても臆がこまいと云ふても、あの署長さんのやうにあり得れば、臆てあなたもあの署長さんのやうになりますよ。努力と修養と時間の問題ですよハ、、、。

此の今井田先生の一言は痛く古川巡査の胸奥を刺し、自ら緊張を感じ、腋の下に汗のタラタラ落ちるのを覺へた。

古川 先生御説御尤です。その通りであります。然し署長さん以外の人でも人格勝れた人々から教へを受くることもよいと思ひます。

今井田 古川さん、先生は痛み入ります。自分の署長を心から敬ひ、ほんとうに親んで行けないやうな人は、他の人に對しても同様です。今日あなたは興味中心にわしと云ふ人間の試験に來られたのではありませんか。わしはもうあなたの試験は受けずに落第して置きますよ。

古川 恐入ります。實は先生から少しコツびどく叱られたいんです。役人と云ふ者は殊に警察官と云ふ者は、どうかすると過まつた優越觀に驕り、思ひ上つた言動をするものです。時々は偉

大な権識に觸れて驕漫の鼻柱を叩き折つてもらひたいんです。

今井田 フ、ン、そうですか——。

古川 先生、時々叱つてくれませんか。

今井田 わしにですか、それは違ひましょう。

隣室に人の氣はいがして、しづ／＼とお茶を運ばれたのは増江夫人、淑やかに挨拶。

今井田 此のお方は古川さんで此の邊を受持つて下さる警官のお方だよ。

夫人 ハイ、いつぞやアノ戸籍調べにお出でになりました、妾存じて居ります。毎日お疲れでしょう。

今井田 さうか。古川さんは仲々感心な人だよ。

夫人 此頃の警官の方は、皆お若いですが、皆出來た方ばかりでネ——。

古川 先生どうぞ、御遠慮なく仰つしやつて下さ

い。

今井田 大體ですネ、警察官と云ふ者は役人中の役人です。云はゞ官吏の代表として一般世間は尊敬するのです。警察官のやうな権力行使の役人には悪ずれた世間の者がいろ／＼の手をもつて誘惑するのでありましょうが、毅然として之に應じないと云ふ腹の据つた反面に、人情細やかな人民保護の世話事をなさる警察官に對しては、心から頭の下るものである。

古川 御教訓に銘じます。

今井田 古川さん、あんた方が御職務上人を取締ることは當然ですが、常に一方的に人を取締つて居るなど、考へ込んで居つては大變な心得違ひであり、又危い事でもありますぞ。一般世間は警察官と云ふ者を、人道正義の實行者として信頼して居りますだけ、警察官の行ひについては

監視の眼と耳とを働かして居ります。それは自分達世間の爲めにです。わかりますか。

古川 よく判ります。

今井田 警察が人を百人取締つて居ると云ふ事は百人から取締られて居ることです。一千人を監督すると云ふことは、一千人から監督される事です。一萬人を視ると云ふ事は一萬人から視らるゝことです。警察官の責任が重大であること云ふことは、斯様な關係も含んで居りましょう。兎に角人の上に立つ人々は、先づ自らを修めなくてはなりませんネ。不心得な一警察官が其の身を過まることは氣の毒ですが、之が爲めに世間が毒されることは恐ろしい事です。やア飛んでもない事を云ふてしまつた。古川さん御無禮しましたよ。

夫人 ほんとにネ、悪口ばかり申しまして——。

古川 イ、エ、大變あり難ふござりました。お禮申上げます。

古川 巡査は今井田夫妻に叮嚀に挨拶をなし、座を立つたのであるが、玄關まで送つて出た今井田先生は

今井田 古川さん、お互ひに自重しましょう。左様なら。

古川 自重致します。左様なら。

一五 駐在巡査

菊薫る秋の頃となつた。古川巡査は突然川津村駐在所勤務を命ぜられた。

署長 君はまだ拜命後日も浅いし、又獨身でもあ

るから、駐在所勤務はどうかと思つたのであるが、川津には巡査部長も居るし、よく指導を受けてやつたら間違もなからうと思ふ。君は獨身であつても素行の方では必配はいらんと私は信じて居る。ほんとうの警察の仕事は駐在所で覺へるのじや。又警察と云ふものゝ味と云ふものも駐在所でわかるのじや。君に限らず駐在巡査は、私と云ふ署長の代官を勤めて貰ふ人々であるから、私は諸君を信頼して居る。若しも私の常に訓示特命して居ることゝ違つたことを言ふて廻つたり行ふたりしては、署長の代官にならん。芝居で見る悪代官になる。駐在巡査と云ふものは警察署から離れて居つて署長の眼の届きかねる地方の治安維持や衛生に事かぐやうな場所に配置されて居るのであるから、駐在巡査は署長の眼となり耳となり、又手となり足となつ

て、最も有意義に効果的に働かねばならん。諸君が眞に此の自覺のもとに働いて貰ふならば、署長は本署の署長室に或は官舎に居つても、警察と云ふものは臨機應變晝夜を問はず適切妥當に行はれて、地方の安寧幸福が得らるゝのである。駐在巡査の責任は實に重いぞ。しづかりして私の負託に副ふてくれ。それから君は今年二十五だつたかネー。

古川 ハイ、二十五であります。

署長 君に云ふて置くがネー、着任挨拶に廻つて村の人々から「あなた幾つですか、お若いですネー」と言はれたり、又宴席なんぞの酒の上で「二十五とはまだ子供じやないですか」とからかわれても氣にするなよ。若く見られまいとして徒らにりきむなよ、見苦しいぞ。又肩が凝るよ、そんな時には「ハイまだ若輩ですよ、子供

やります。
下宿屋の主人藤吉さんの肝煎りで、藤崎巡査始め同宿一家で古川巡査の歡送會が催され、出征するやうな興奮と感傷とを覺へた。
一夜が明けた。關係方面の挨拶もすんだので發令後二日目に川津村に赴任した。先づ巡査部長派出所にB部長を訪ね着任挨拶をした。

ですよ、頼みますよ」位に軽く片づけて其の肚の中に凍としたものを持つて居らねばならん。直ぐ立腹して「人を馬鹿にするな」と怒鳴つたときにはもう「子供」が出て居る譯だ。歳は二十五でも、獨身でも、村の駐在巡査をして居れば、四五十の者まで指導して行かねばならぬのだ。誇る若さを持つて居る反面に、落着いた老人の度量と世話心を養ふて置かねばならぬ。

古川 私で勤まりましょうか。

署長 勤まらんでも修養して勤め上げ、肚も頭もある警察官に自ら成し遂げねばならんのじや。駐在所の仕事をして居るうちにいろ／＼の問題

が起る、其の問題の解決は私の今云ふたことを考へ行ふことによつて出来る。通り一片の訓示や小言と思ふなよ、よいか。
古川 いろ／＼有難うございました、氣をつけて

古川 署長の常に訓示されるやうにやつて行けばよいのですネ。
部長 そうじや、署長の訓示の本旨を守つて實際の行方は臨機應變じやなア。強うも弱うも相手次第じや。正しい人々にはどこん／＼までも叮嚀懇切に、猫のやうにおとなしく出てよいのだな

ア。マアわしを見習ひ給へ、だが、わしにはわしの癖がある、君はわしを見て更に考へて行くがよからう。然しわしの命令に背くことは絶対許さんぞ。わしのことか悪るければ署長や警部補の人々がわしを監督是正する、巡査の君が近所に居つて部長のわしを監督するやうでは心得が違ふ。君はどこ迄も巡査じや、警部や警部補ではないからなア、アハハア一寸嚙ませたなア。古川君、仲良くしようぜ。

古川 何分宜しくお願します。

その日古川巡査はB部長に伴はれて自轉車でそこよと村の有志の宅を着任挨拶に廻つたのであるが、此の時感じたことは、相手の人々が誰も彼もしつかりして偉そうに見へることや、B部長の屈託ない洒々たる態度の鮮かさには深く考へさせられるものがあつた。

部長 川津はなア、元川津町であつたのを、村制に改革したところで、一寸全國にも類の少い所だよ。それに小原十五萬石の城下と來て居るか面白よ。然し土地の人々は物堅いからやりよ。

古川 あの駐在所に一人で住むのは惜しいですネ。

部長 一人で惜しけれりや妻帯して二人で住めばよいではないか。どうだ家内をもて。わしの娘でよければ今日でもやるよ。

古川 イエまだ早いです。

部長 一人じや家が惜しかるふもん。

古川 イエまだ一人でよいです。

部長 まアえ、今日はなア、わしの宅で君の歓迎をする。直ぐ來給へ。

其の夜、B部長の官舎で部長夫人の手料理の御

馳走にあひ、此の一家の賑やかな心からなる歓迎を受けたのであるが、上機嫌のB部長は「古川君を内の養子に貰ふたやうな氣がするのう」と言へば部長夫人は「ほんとうに古川さんが内の養子ならこんな嬉しいことはないのですがなア」と話の凄を合せたのであるが、何故か古川は之に對し言葉が出ず、只だニコニコしながら腋の下に汗を流すのみであつた。

務所の入口を荒々しく押開けて飛込んだのは一人の婦人。

「駐在所もし、駐在所もし、一寸訴へます」

と狂はしげに叫ぶので、古川巡査が早速起きでて見ると、四十歳位の女が、髪を振り亂し、大變昂奮した癪高い聲で

女 主人がわたしを殴りまして、揚句の果ては殺すと申しますので、今逃げて來ました。助けて下さる。

古川 あなたの主人があんたを殴つた、そしてどこか怪我をしたかネ。

女 こゝです、右も左も頬べたを大層ひどく殴りました。

古川 痛むかネ、少し腫れて居るネ。

女 殴られる位は夫婦ですから我慢しますが、妾を殺すと云ふて追かけるのです。

一六 夫婦喧嘩

十一月の下旬肌寒い晩の出來事であつた。

古川巡査は晝の疲れを休める爲め此の晩は九時頃床に就きながら、書類の整理をして居ると、事

古川 夫婦のことだから、時には無遠慮から喧嘩にもなるか知れんが、マア勘忍して置きなさい、主人も悪るかつたと気がつくよ。

女 いゝえ、妾の主人は半きちがいの様な人間で迎も物は判りません。妾のやうな馬鹿な女なればこそ、今日迄十五年も辛抱して来たんです。今度は別れます。主人を調べて處分して下さい恐ろしい人です。

古川 今日主人も酒でも呑んで居たらう。今に酔も醒めるであらうから、マア勘忍して歸り給へ。私が又主人には云ふて聞かしてやるよ。

女 主人は毎日々々酒を呑んでは、亂暴するので。荷馬車挽をして居りますが、自分丈は酒や煙草をのみ、時には悪い遊びごとまでして、家内の妾には年から年中貧乏さして置きながら、何んとか云や、馬鹿のお多福のと罵つて近所隣

の人達も愛想つかして居る有様です。今度ばかりはこらえません。

古川 毎日毎日こらえて十何年も連添ふて来たことは深い縁と云ふものじや、よく心を落つけて考へなさい。

と懇ろに説諭して居ると、戸外が騒がしくドヤドヤと三人の男が駐在所に這入つて来た。

男 駐在所もし、甚だお世話かけて済みません。

酒の上からツイ犬も喰はぬ夫婦喧嘩が持ちあがり、多少手荒な事もしたやうですが、どうか私共が後を引受けますから、お委せ下さいませんでしようか。

古川 大體夫婦であつても人を殴ると云ふ事はいかんぜ。

別の男 駐在所もし、私の家内が私の云ふことを聞かず家風に背いても殴つては悪るいですか。

古川 悪るいよ。理窟はどうでも、殴打することはいかんよ。

別の男 それじやどうでもして下さい。

古川 何ツ、どうでもしてくれ、何んと云ふ言ひごとか。

男 もし、甚だ濟みません。此の男は私が連れて歸ります。どうかこの人によく云ひ聞かせて宜しくお願します。

古川 オイ此處を何處と思ふて居るか、人を馬鹿にするナツ。

別の男 誰があなたを馬鹿にしましたか、まだお若いですなア。

古川 何ツ。

男 オイ、何を失禮な事を云ふかネ、歸ろう。あんたは酔ふとる。

別の男 若い人に夫婦喧嘩の仲裁が出来るもんか。

古川 何ツ、待て！

男 歸れよ。歸れよ。

亭主たる男は近所の男に引つ張られて立去つたが、古川巡査の昂奮は容易にさめない。「若い」と云はれた事が氣にかゝる。自尊心を傷けられた憎悪の感情が動くのであつた。そして其處に残つて居る妻なる女には、言葉もかけず六法全書を開いて見た。刑法第二百四條「人ノ身體ヲ傷害シタル者ハ十年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金若クハ科料ニ處ス」―第二百八條「暴行ヲ加ヘタル者人ヲ傷害スルニ至ラサルトキハ一年以下ノ懲役若クハ五十圓以下ノ罰金又ハ拘留若クハ科料ニ處ス、前項ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス」―第二百二十二條「生命、身體、自由、名譽又ハ財産ニ對シ害ヲ加フ可キコトヲ以テ人ヲ脅迫シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス」とある。

傷害罪か單純暴行罪か脅迫罪かも知れんと考慮したが女の顔面は腫れて居る、傷害だなア。傷害とは外力を加へて人の健康状態に不良變更を惹起せしめた行爲であると警察練習所で習得して居る。殴打した、顔面が腫れ上つた、健康状態に不良の變更が惹起した、矢つ張り傷害だなア。

古川 なアあんたも大てい考へたろう。又少しは落着いて來たろう、どうするかネ。

女 妾は今度といふ今度はこらえられません。どうぞあの人を嚴重に處分して下さい。妾はどうなつてもいいです。

古川 どうなつてもよければ、縁ある主人だから今度まで勘忍してやるがよいぜ。

女 どうしても勘忍されません、今度は告訴します。

古川 告訴する、ハ、ア告訴するかネ。

告訴すると云ふても單純暴行罪の親告罪でなければ何の意味もなさない、傷害罪ならば告訴の有無に拘らず訴追せねばならぬ筋合のものである。

夫が妻に對し脅迫罪もおかしなもんだと古川は心中で研究をするのであつた。

古川 氣を落着けてよく考へた方がよいぜ、悪いことは云はんよ。

女 たとへ主人とは云へ、人をこんな目に合はして年が年中苦しめらるゝ事は忍び難いのです、處罰して下さい。

古川 わからん人だなア。

女 何がわかりませんか、あなたこそわからないではありませんか。人を怪我させてそのまま濟みますか、女なら何でも、どんなことでもこらえて居れとはあまりひどすぎます。あなたがさばかなければ本署へでも何處へでも行きます。

古川 本署に行き給へ、君のよいようにし給へ、

本來警察は忙しいのだ、夫婦喧嘩など一々世話が出来るか。君は僕が少しやさしく云ふてやれば、どんなことでも云ふ、勝手にし給へ。

女 人に怪我させた事件を警察は構ひませんか。男と云ふ者はみんな女を馬鹿にするのです。妾は勝手にします。

興奮した女は駐在所を出て行つた。古川巡査はいろ／＼とその女の上を心配したのであるが、どうもこんな夫婦喧嘩は處置に困る。参考書を取り出して暫く研究して居ると部長派出所から電話信號があり、應じて見ればB部長から派出所に出て來いとのことであつた。私服の儘急いで派出所に行つて見ると、先程の女がB部長の前にうなだれて居る。

女 それじゃ部長さん、妾はどうしたらよいでせ

うか。

部長 どうもこうもない、主人を訴へるのなら今夜ぎり主人ときつぱり別れることじゃ、別れられないのなら考へたらよい。

女 大體うちの主人は酒は呑みますし、行ひが悪るので親族知人にも段々愛想をつかしてしまはれ、これから先見込のない人間です。

部長 サア先に見込みのない亭主だから、あつさり別れるか、どうかの問題じゃ。先づそれからきめて事を進めようぜ。

女 子供もないし、別れてもよいんですが、今直ぐ別れますと明日から路頭に迷ひますから。

部長 ハハア、明日から路頭に迷はなければ別れて外の見込みのある男を亭主にもたふと云ふのだなア。そうすると今の君の主人は情愛的な夫ではなく、飯櫃じゃなア。外によい飯櫃があれ

ば、その飯櫃に明日からでもかへると云ふ了簡
じやなア。

女 そう云ふ譯ではありませんが、早速困ります
から。

部長 早速飯に困るから其の男と別れはせぬ、所
罰はしてくれか。オイ、大抵人を喰つた話をし
る。女の癖にそんな不届の了簡をもつて主人に
對するから殴られるよ。當り前じやないか。俺
ならほんとうに殺すかも知れんぞ。恥を知れ、
天罰を知れ、情愛を知れ。

女 矢つ張り妾が悪るかつたのです。

部長 君もよくない。主人も亦悪い。俺に隨い
て來い、どうも手のいる人達じやのウ。古川君
もうよい、君は歸つてくれ、俺が片づけてやる
から。

古川 私も行きましよう。

部長 さうか、そんなら後學の爲めに隨いて來給
へ。

古川 巡査はB部長に隨つて夫婦喧嘩の本據に赴
いたのであるが、部長は門口から大聲で山田、山
田と怒鳴り込み、當の主人山田弘を見るや、大き
な掌で背の邊りを「大馬鹿者ツ、自分の婢の始末
をせえ、人が知るカツ、馬鹿」と叱りつゝ一方戸
外に向て「もう遅いじやないか早く寝ろ、外の人
は何をして居るのか夫婦喧嘩を見る奴があるか、
歸れ、歸れ」と一人口上で近所の者を促がし引上
げてしまつたのである。

部長 古川君餘興も面白いね。夫婦喧嘩は何もか
も喰はんからね。

御つきあひに來ました。

古川 いろ／＼お世話かけます。

酒肴が運ばれ、段々と話は打解けて來る。

坂田 古川さん、酒の方はいかゞです。

古川 つまりません。

坂田 五合位やりますか。

古川 イ、エ、迎も一合もやれません。

花田 酒はマア呑まん方がよいです。煙草もやり
ませんやうですなア。

古川 煙草もやりません。

還藤 酒も煙草もやらん夕眞面目ですなア。

古川 追々と覺へることでしょう。

坂田 酒でも煙草でものみたけれやのむのです
ネ。大した問題じやないですよ。儂のやうな者

は酒も煙草もやりません。一人前以上にやります。
人のやうに神様に御願までかけて止めようなど

一七 村の有志

村の有志坂田正春さんは豫備陸軍歩兵中佐であ
つて、舊小原藩士であるが、此の人は大の警察好
きで、どの警察官とも親しみを持つ人であつて、
同じ村の有志花田谷造、消防組頭遠藤助八と語ら
ひ、或晩坂田中佐の宅に懇談會を催したのであつ
た。

坂田 駐在所、ほんとに御迷惑でしたネー。

古川 ハイ、お言葉に甘へまして。

花田 私はこう云ふ者です、何彼とお世話になり
ます。(と名刺を出す)

還藤 先日は御無禮しました、今日は坂田さんの

とは決して思ひません。マア自分の懐具合や健康程度を考へ、そして他人に迷惑をかけないやうなのみ方でしたら差支ないですなア。

花田 私は酒も煙草も確かに體によくはないと思ひますが、仲々やめられませんかア。

遠藤 私も一二度やめかけたけれど駄目でした。古川さん、始めからのめんのがよいですよ。我慢して稽古なんぞせんことですよ。

坂田 マアのまんて濟めば、のまんがよいですなア。

花田 此の頃は警察も變りましたなア、オイコラ式の人民扱ひは今日はありませんア。

遠藤 そりや民衆警察じやから、皆親切になつたよ。

古川 今日は世間も進んで來ましたし、警察も考へて來ましたよ。警察が空威張する時代じやあ

りません。ほんとうに大君の警察官、皇國の警察官でなければならぬのです。

坂田 古川さん、あなたのお考へは新時代の警察官として結構です。勿論國民に對して叮嚀懇切にしなければならぬのですが、私は常に言ふて居ります。警察の方から民衆警察を考へるのは修養的かも知れませんが、民衆側から主張する民衆警察は、自由思想です。私に言はすれば警察と云ふものは普通の役人よりもシヤンとして居つて貰ひたい。警察がクニヤクニヤではいかん。警察と云ふところは恐しいところじや。警察官と云ふものは超然として居ると、一般民人が感じる位がよいと思ひますネー。

花田 それもよいですが、國權我にあり、人民ども何を云ふかと云ふ態度は全く胸が悪く、嫌氣がさしますなア。

坂田 イヤ、儂の言ふのはあなたの云ふやうな鼻持ならぬ警察官のことではないです。マア、解り易く言へば、今日の警察與し易しと思はれる警察はよくない。親切であつて凛としたところがあつて欲しいのです。そう云ふ警察こそ國民が心強く信頼するのです。世間の人氣を氣にしてのクニヤクニヤ警察は不安です。

古川 ほんとうにさうですネ。私共しつかりせんといけませんね。

遠藤 古川さん、あなたの評判はよいですよ。

花田 ほんとうだ。仲々評判がよいですなア。どうかマア都合よくやつて下さいよ。村の駐在所がよければ村は治まります。

古川 私には其の人氣がよいとか悪るとかが面白いのです。今お話の私の評判がよいと云ふことはヒョツとすると正しくないですよ。支那

の孔子が弟子の子貢の間に答へて曰ふ言葉に尊い味ひを感じます。村の人が皆ほめるのは悪い。村の人が皆悪く言ふのはまた悪い。要するに、村人の中の善人からほめられ、悪人から悪く言はれるのが人氣が正しいと云ふことです。仲々六ツかしいものです。

坂田 そうです。古川さん、それで行きなさい。頼みますぜ。

遠藤 マア都合よく頼みます。消防と警察は關係が密接ですから頼みますぜ。

古川 何分宜しく頼みます。

坂田 確か赤子の正書に、こう云ふことがありませう。刑法あつて人義なきこと久しければ則ち民怨む、民怨めば則ち怒る。人義あつて刑法なければ則ち民慢る。民慢れば則ち姦起る。ほんとに世間の生きた人間は情を離れて只強く律すれ

ば怨んで心服せず、又情理のみをつくして罰せなければ侮つていろいろの悪を平氣で行ふやうになると云ふことですが、實際困まつたものですなア。

古川 ア、よい事を聞きました。ほんとうにそうですネー。

一八 變哲部長

新緑につゝまれた部長派出所の官舎の縁側近く對座した二人は、ビールのコップを傾けながら懐かしげに語りつゞくるのであつた。

部長 古川君もう半年になるかね、君が此所に來てから――。

古川 え、七箇月ですよ、ほんとうにお世話になりました。特別の御指導を受けましてあり難ふございました。

部長 其の特別の指導と云ふ奴が恐縮じやのウ。酒を飲むことを教へたり、流行歌を唱はしたり踊りまで君に仕込んだ儂じやからのウ。君一生の恩人だぞ、ハハハハ。

古川 ほんとうに御恩は忘れません。奥さんにも大變お世話をかけました、親のやうに可愛がつて頂いたことはお禮の申しやうもありません。

部長夫人 古川さん、お互ひに別れてもこれから先親族のやうにしましうね。御無禮ですが去年あなたが此所に見へた時から、何か宅の子供のやうな氣がしてね。

部長 オイ、古川君、儂は此所の前に山田に居つたんだよ。また逆戻りじや。又二年もすりや川

津に歸つて來るよ、ハ、ハ、ハ、ハ、ハ。

夫人 うちの主人は暢氣ですからね。もう此次は首ですが。

部長 首もよからう。先には先の世界がある。古川君、君には色々のことを教へたね。然し、君が儂の教へたことを良く消化して居ることを儂は知つて居る。君、今度儂と別れたら勉強してくれよ。酒も藝も、もう手を上げんでもよいぞ、勉強せえ、勉強せえ。君が警部補にでもなる頃は、儂はやめて忠實なる門番にでもなつて居るよ、ハ、ハ、ハ、ハ、ハ。

古川 城井村駐在は大變むつかしいやうですね。

部長 なあに、心配するな、譯はないよ。人間ばかりじやないか、狼は居りやせんよ。

古川 こんど二人一緒に代るのは變ですな、云はば左遷でせうな。

夫人 わたしもそう思ひますわ。

部長 オイ、そうセンチメンタルになるなよ、左遷も右遷もあるか。儂はなア、古川君随分轉勤したもんだがなア、屁とも思ふとらんよ。

夫人 それだから困りますよ、子供の學校なんかのことも考へなければね――。

部長 馬鹿、そんなこと考へたつて、上でそう思ふてくれにや―何もならんよ。オイ、お前は黒木から大橋に來たときは喜んだじやないか。

夫人 そりやあなた榮轉ですから喜びますよ。

部長 子供の學校は困まるが、榮轉のときは構はんか、左遷のときは泣くか。

夫人 左遷の時は先が暗いですね。

部長 お前はいつまでも善良な女じやから人間らしい感激があるね、然し泣いたり笑つたり忙しい人生じやのう。

夫人 此頃はあなた榮轉と云ふことはないでしよう。

部長 それじやア泣き通しか、頼まれもせんのにねー。

古川 實際左遷も右遷もないですね。命のまゝに動いて良心に背かぬ働きをしますのですなア。

部長 古川君、儂には左遷右遷はないが、君にはある筈じや、左に舞はんやうに精出すことぢや。百姓の修業でもあるまい、何時までも城井や伊良原に居ると日が暮れるぞ。

古川 いくら勉強しても上に認められなければ駄目ですなア。

部長 認められる爲めに働くやうなケチな働きかたじや肩の凝るばかりじや。上とか下とか人間を相手にするなよ。神様を相手にせえ、神に至誠が通すれば必ず酬いらるゝよ。

夫人 あなたの神様も長いことですがねー、一向酬いられないではありませんか。

部長 オイ罰が當るぞ、有難く酬いられて居るじやないか。家内中達者であり、仕事の方じや村の人が皆よく従ふてくれて都合よく運ぶ、子供は皆氣立てよく親を慰めてくれる、晩酌はお前が氣嫌よく飲ましてくれる、儂は毎日毎日感謝して居るよ。

夫人 それはそうですなー、他所には仲々不幸が続くやうですなー。

古川 部長さんのやうな立派な家庭はめつたにありませんね。

部長 古川君、儂はなア若い時に油断して警部試験にも合格して居らるので、部長以上には上れんが、君はうんと勉強して早く試験に合格し、將來古川警視を造り上げねばならんぞ。儂の眞

似でもして居つたら、變な古川老巡查が出来るぞ。儂は今なんにも心にかゝるものがない、毎日仕事を楽しんで家庭を楽しんで、人生の一步

一步を過して居る。有難いばかりじや。

古川 警視でも巡查でも同じですな、要は人間が出来ることですな。

部長 困つたもんじやね。儂の哲學が君にうつたよ。君巡查より警視がよいことは子供でも知つとろう、警視になれば、警視になれば、警視になりつゝ人間を造れ。のう。

夫人 あなたは警視にならないのですか。

部長 ならないのではない、なれないのじや。算術と云ふ苦手には、實際修養させられたよ。然しそれがよいのじや。誠をつくして置けば酬いられる、神様が知つて御座る。お引廻しのまゝに忠實に勤めて行けば、人間到る處安住の地じ

や。山田と川津、川津と山田と代るのも面白いじやないか。

古川 部長さんは全く達觀して居ますな。

部長 古川君、俺はね、こう云ふ哲學を持つて居るよ。誰でもね、男の子供は軍人になりたがる。「大きくなつたら大將になる」と云ふのじや。大將と云ふものは澤山居つてはならん、それぞれ役向がある。又軍人志願は士官學校にはいろいろだが、之又皆が皆いれられん、どちらかと言へば兵隊になりたがつて貰はねばならぬのじや。或る子供は士官學校を出て將校になつた、或る子供は普通の兵隊になつた。此の二人の將來に就て將校の方が幸福で、兵隊の方が不幸と斷ずることは出來んのじや。他人が警視になれたからと云つて、自分がなれん譯はないと力んで見ても、皆が皆警視になれんのが現實じや。

他人が貯金が出来たからつて自分にも出来る
と決まつて居らん。他人が百まで生きたからつて
自分も百まで生きると云ふこともあるまい。要
するに、其の人其の人に備つた天分がある壽命
がある。やるだけは懸命にやつてそして他人に
勝つても負けてもそれを問題にしてはならん、
神様の思召し通りじや。考への違つた人間はど
こまでも無理をする、人を憎む、世間を怨む、
自暴酒まで飲む、ほんとうに可愛想じやないか。

古川 そんな人もあるやうですね。

部長 ある、ある、そればかりじやない、中には
夫婦共狂ひで人を嫉む、女が外交までして主人
の出世の泣きを入れる、主人も主人じやが女房
も女房じや。そんな奴等は誤魔化して世の中に
出世しようと焦慮り、地位を維持せんと藻掻い
て居るのじや。ザマはないよ。儂はなア、實務

も出来ん、頭もないが、自分の地位分際だけは

克明に心得て居る。調査部長の儂はどんなこと
があつても、警部補以上の上官を凌いではなら
ん、チャンと折目正しい禮儀の中に命令に服従
せねばならん。また署長その他の悪口なんか一
言でも云ふてはならんと心に誓ふて居る。世間
には老部長と云ふ落第者の癖に、愚にもつかん
古參風を吹かして、若い警部や警部補の人に楯
をついたり、ふくれ面をして暮す人もある。又
こんな人々に限つて寄ると障ると署長や上役の
あら探しや悪口に力瘤を入れて居るやうじや。
古川君、儂はそれだけはせぬぞ。調査部長が何
ぼ肩を張つて見ても調査部長じや。與へられた
地位に於てその本分を盡すのみじや。そして十
の力を十三に見せる爲めから骨を費さんことじ
や。九は九でも其の九の全能を果すことじや。

さあ飲み給へ。

一九 山火事

古川 巡查の新任地域井村駐在の受持区内に山火
事が起つて居ることを聞いた古川は、自轉車を急
がせて城井村浦山の現場に駆けつけ、消火に盡力
してゐる村の消防組、その他の人々等と協力して
消火防火に懸命の努力をしたのであつたが、午後
二時頃から燃え始めた火は、風に煽られて凄まじ
い勢で燃えさかり、午後六時頃になつて漸く鎮火
した。燃えた面積は十五町歩であつたが、杉や松の
木立をこがし損害は三千圓位とのことであつた。

村人 あなたはこんど此の村にみえる駐在所でこ

さいますか、今日は川津からお出になりました
か、そりや御迷惑でした。

古川 明日着任しようと思つて居たんですが、山
火事と聞いて飛んで來たんです。

村人 わしや此の字の區長ですが、駐在所とはい
つも懇意に願つて居ります。どうです、此の下
の御宮で火事の御訓示もありましようが、丁度
いゝ時です、顔つなぎをしましては——。

古川 そんならそうしましょう。

區長の肝煎で、出動した村人を鎮守の森に集め
た。舊駐在の高村巡查も顔を出した。

高村 おゝ古川君、來とつたね、俺も挨拶廻りを
して居つたが、あんまり人が騒ぐので驅けつけ
て居つたんじやが、マアよかつたね、こんな位
ひで——。

古川 高村さん出しや張つて濟まんでしたが、矢

つ張り自分の受持のこと、思へば氣になるので
飛んで來ました。

高村 こう云ふときは受持もなにもあるもんか、
早く馳せつけて處置をとるこつちや。報告は儂
が一寸して置いたが、鎮火のことや其の他は君
からなるべく早くしなさい。誰か一人川津まで
走らして本署に届けて貰へばよいのじや。本署
も心配しちよるからね。

古川 じやアそうしましょう。

組頭 儂は消防組頭ですが、今日は御苦勞でした。
之から又特にお世話になります。

古川 古川です。まだ一人者の若僧です。どうか
よろしう、あんたは前からよく存じて居りまし
た。

組頭 之から此處でお話が濟んだら、私の宅に御
出で下さい。

區長 組頭、今日はお宮でしてをこうじやないか、
折角仕度くも出來て居るんじやから。

組頭 そんならそうしてをこう。

前駐在の高村巡査が先づ立つて一同に謝辭を述
べ、次で新任の古川巡査が立つて謝辭を述べた。

古川 只今も述べた通り、此の山火事の原因と云
ふものが全く村人の不注意からであるから、今
後又一層氣をつけて貰ひたいです。今日は此の
山火事が縁で思ひも寄らん歡待を受けまして、
あり難くお禮申上げます。

お宮の拜殿に膝組んで和やかな酒盛の筵が設け
られた。二合半徳利が其處此處に立てられる。肴
は一人に豆腐半丁の冷やつこと云ふ簡易料理、杯
はグルグル廻る、酔はあがつて來る。村役場の助
役、郵便局長から區長、組長、青年團長など村の
有志との間に一席の懇親は深められたのであるが

新任の古川は暫待さるゝ杯を重ねたため、泥酔に

近く、手足の自由を失つて、身動きも出來ない始
末、村人は三々伍々歸つて行く。

甲 オイ、こんどの巡査も大分やるぜ。

乙 若いからやるねえ、然し今日はこたえるぞ。

甲 酒飲んで動けんやうな奴はつまらんのう。

高村巡査の世話で消防組員に背負はれて駐在所
まで下り、しばらく床について酔さめを待つて居
た。夜の九時頃となりもう起きて歸らうかと思つ
て居るとき――

高村 そりや大變御迷惑でした。實は六時頃鎮火
致しましたので報告致した積りで居りましたが
何共相濟みません。

池田警部補 川津の部長は他行して居るし、古川巡
査は此處に來て居ると云ふ譯で、連絡も出來ず
困つたよ。然し鎮火して居つて結構だ。古川巡

査は？

高村 ハツ、一寸用事がありまして――。

古川 古川此處に居ります。

池田 どうしたんだい、具合が悪いのか。

古川 一寸酔ひまして――。

池田 酔た。ハハア火事場の二合半ピカリか。

高村 山火事に古川君が驅つけてくれましたので
村の者も大勢出て居りましたのでお宮で懇談會
を開いた譯です。

池田 そう云ふことだらう。古川、しつかりせえ、
初對面からグニヤグニヤになつては、笑はれる
ぞ。考へて飲め、考へて飲め。

古川 全く失敗しました。悪るうございました。

池田 君等は正直だから、人が杯をさせば飲めな
いものも義理で飲む。酔ふてつぶれるとか、足
がふらつくやうでは警察官としては役に立たん

ぞ。飲めるならウンと飲め、そしてしつかりし
とれ、事すめば、又事あらば、平然として毅然
として、其の事に處するだけの男振りを發揮せ
よ。君等は若い。之からの警察を強く正しく導
く人々だ、酒も強く、正しく飲めよ。酒の三合
か五合飲めば嫌な小理窟を並べたり、グニヤグ
ニヤになつたり、己を忘れて暴れ廻つたり又酔
に託して不平を云ふたりする上り者に今日の
警察が託されるか。そんな奴は何も出来はせん
よ。君等はそんな昔風な馬鹿な飲み方を真似す
るなよ。

古川 申譯ありません。

高村 いろ／＼御訓諭あり難く存じます。

池田 僕はもう歸るから、高村君古川を頼んで置
くよ。古川はもう此所へ泊まれ。

池田警部補は自轉車に乗り勢よく歸つて行く。

つたもんじや。

高村 早く調べて見ねばいかん。此の前の時も困
まつたよ。

古川 巡査は寝ながら、今の村人の「怪我人が出
ねばよいが」と云ふ言葉を味ふた。赴任して後の
古川は極力山火事犯人の捜査に努めた結果、犯人
は村の一番貧乏人で老父母を養ふて居る一人息子
の作太郎(二十二)で、煙草の火の不始末と判り、
事件は失火罪として本署の訴追をうくるに至つた
が、その結果として、もし罰金が科せられたときの
作太郎一家の苦衷を思ふとき、又假に執行猶豫に
なつたとしても村人の損害をかけた償ひの出来な
い作太郎一家は、今後永く村人の下積となつて苦
惱の世渡りをするかと思へば、村を預かる役人の
大世話、小世話、それは眞に世を治める者の「治
め心」の働きでなければならんと感ずるのであつ

高村 古川君妙なことになつたね。君は俺の云ふ
た鎮火報告にはやつて居らんじやつたる。

古川 ちやんと忘れて居つたんですよ。高村さん
もう一べん飲み直さう、私がおごる。もう駄目
じや。山火事に來て酔つぶれの初對面に來たや
うなもんだつた。こりやいかん。

高村 古川君、それが自暴と云ふもんじや、氣を
つけんといかん。ぐつすり寝たまへ。

それから村長、組頭など近所の人々も立寄つて
山火事のお禮を云ふ。

高村 原因は煙草の火じやろう、困つたもんじや。

村長 今本署から警部補が來られて居ると聞いた
んですが、何か大分小言が始まつて居る模様で
したから、遠慮しました。

組頭 ほう、警部補はもう歸りましたかア。

村人 火事で又怪我人が出らねばよいがなア。困

た。

二〇 馬車屋と巡査

伊原村から城井村、下丸村、川津村、平川村と三
里に餘る此の谷あひを、毎日のやうに竹や木材を
運搬する上り下りの荷馬車が十四五臺ある。何處
も同じで、馬方は空車となれば直ぐ車上に乗つて
馬の自由歩きをさせる。巡査か巡査に似たやうな
服を着たのが向ふから來ると、飛鳥のやうに飛下
りて、馬の口元をとると云ふ子供らしい、又横着な
ことを毎日毎日繰り返し、時には大橋の本署まで
呼出されて、一日休業の上に科料金一圓を納めて
も、性懲りもなく又翌日は乗ると云ふ仕末。其の

割合には直接此の事の爲めに事故も起きては居ない。さればと云つて、世間の人は、殊に婦女子は此の放し馬には困つて居る。今日も今日とて二臺の荷馬車は川津よりの歸り道、車上に乗つて前と後で掛合の大騒話が始まつた。

前車 おい、今度来た巡査は仲々八釜しいのう。今に向ふからポツクリ来るかも知れんぞ。

後車 来たら来た時だ、ペコペコすることじや。

前車 おい、お前ア仲ちやんの話を聞いたか。

後車 いんにや、何んの事か。

前車 迎もじやないが、面白いよ。此頃お前仲ちやんが馬車に乗つて眠つて行きよつたら、駐在所に見つかつたんじや。

後車 ホホー、やられたかのー。

前車 やられたもなにも大やられよ。あの巡査も亦根性が悪るいじやねーか、眠つて居る仲ちや

んを起しもせんで官服の儘お前、馬の口綱とつてドンドン上つたんじや、村の人も驚いたが、一番驚いたな仲ちやんだね。

後車 それはそうじやろう。

前車 トウトウお前駐在所の前まで引張つていかれて、馬は繋がれたんじや。

後車 仲ちやんも仲ちやんだ、そうした暢氣ものかね。

前車 それからお前、あの巡査がしたことが面白いじやねーか。馬車屋さん、馬車屋さん、と叫びに揺り動かした、幾らよう眠つて居つても仲ちやん眼をパツチリ開けたが最後、地獄の始まりだ。仲ちやんが急いで飛び下りて頭ペコペコ汗たらたらじや。

巡査 どうしたのか。

仲ちやん 判りません。

巡査 ようく考へて見る。

仲ちやん 悪るうございました。

巡査 マアようく考へて見なさい、馬車屋さん。

仲ちやん へえー。

巡査は奥へ引こんで帳面扱ひ、仲ちやんは泣きべそ顔で二時間ばかり考へさせられた。

巡査 考へたかね。今日は儂が馬を引張つて来たから危いこともなかつたから、今日は之れでよからう、明日は氣をつげんと困るぞ。

と云ふやうな始末で仲ちやんは無罪放免になつたんじや。

後車 そりやこたえたのう。

前車 こたえたもなにも、仲ちやんは其の晩、熱が出て翌日も休んだそうなの。

後車 おい、人のことぢやねえぞ。

前車 眠るといふのは仲ちやんが横着すぎるよ。

後車 おい、今度の巡査若えが味なことするのう。

向ふから自轉車で下つて来る黒服の姿を見つけた二人は来たぞと飛下りて馬の口綱をとつた。近づいて見れば伊原の松井と云ふ鐵道員であつた。

前車 松井さんじやねえか、ピツクリしたねー。

後車 ビクビクするな、一圓じやねえか。

前車 おい、大きなこと云ふなよ今の飛び下り方あ早かつたぞ。

二人は又々車上の人となつて鼻唄歌ひつゝ上つて行く。間もなく後方から馬車屋さん、馬車屋さん、と呼ぶ聲にふり返つて見ると自轉車に乗つて上つて来るほん者の駐在巡査。二人は驚いて飛び下りる、頭をペコペコさげる。

古川 馬車屋さん乗りたいだらうね。

二人 ……………

古川 今日ぎりやめんか、今日ぎりやめれば今日は乗つて行きなさい。僕と一緒に天下御免で乗つて行きなさい。

前車 どうも濟みません、今から決して乗りませぬ。

後車 今日はどうぞ、お許し下さい。あなたが八釜しいことは聞いて居りましたから、乗つちやいかんと思ひながら、つい——。

古川 それじや駐在所に寄つてくれたまへ、僕は先に歸つて待つてゐるからな。

二人 はい、承知しました。

古川 古川 巡査の自轉車で立去つた後姿を見つゝ二人は「おい此の人には叶はんぞ」「眞綿じやのう」と語りながら駐在所について見れば、巡査はちやんと待構へて居る。

古川 おい、君等は馬車を二臺列べて各々馬の口

綱をとつて氣を着けの姿勢で馬と一緒に閉いてくれ給へ。馬車に乗ることは禁ぜられて居る。

馬が慣れて居つて危なげはなかつても、他人が危ながる。つまり、人に迷惑をかける。時には馬もグラ／＼すると大層危い。それで乗つてはいかん。馬車屋さんが乗るから馬も叱られ、人にも馬にも僕が頼む。どうしても乗るなら此の前の甚吾さんのやうに料金を五圓とつて貰ふ、五圓でこたえねば十圓、こたえるまでとつて貰ふ、然しあんた方から料金をとることは僕は好かん、頼むから乗らんでおくれ。今日は僕は見らんことにして置く。

二人 あり難ふございます。もう全く乗りません。

古川 古川 巡査と馬車屋さんの話は村の評判となつた。警察の内部でも世間でもいろ／＼の批評があつた。或る時本署で松永部長から、

松永 古川 巡査、君のところは馬車屋が感謝して

るやうだぜ。城井村では幾ら疲れても馬車にや乗れんときめて居るそうだぜ。

古川 どうですか、マア適當に取締つて居りますか——。

松永 一事が萬事だ、しつかりやつてくれ。警察官は民衆の太陽だからねえ。

二二 新世帯の警察官

初夏の或日、城井村巡査駐在所に珍客が現はれ忽ち村中の評判となつた。客と云ふのは年の頃六十を越へたと見へる老眼鏡をかけた少々猫背で、セルの袴を穿いて居るが十徳を着て居るところは

僧侶らしい。他の一人は年の頃五十四五に見へる小柄の坊主頭で茶縹の上下を着け、袴もつけてない、どうして一見百姓親爺。それと年の頃二十ばかりの丸顔の娘、格別美人と云ふほどでもないが色白く愛嬌よく伶俐さうにも見へる。古川巡査は其の女に何くれとなくやさしく指圖をして夕食の準備も出来上つたのである。

古川 サア和尚様、どうぞ。御待たせしました。

鐵漚 若夫婦の心づくしの手料理か、あり難くないたゞかう。

觀爺 マア和尚さん、何んにもねえが一杯やつておくれ。おい春吉、箸がねえぞ。

鐵漚 なあ春吉さん、此處も大分田舎じやのう。淋しがるう。

古川 ハイ、田舎ですが、淋しくはありません。私のやうな者でも此の一村を預かつて居ると考

へますと、仲々忙しく又責任を感じます。

鐵漚 そりやそうじや。駐在巡査と云ふもんが生やさしいもんであるもんか。儂もあんたの今の言葉を聞いて安心した。百姓出の癖に田舎は淋しいの住民が低級だのと、思ひ上つたことを云ふ奴が仲々多いぞ。一村の駐在巡査が立派に勤まつて、部民から崇めらるゝやうになつたら、署長と云ふやうなものは譯なく勤めきる人間じや。駐在巡査でウンと修養することぢや。

古川 しつかり修養します。

鐵漚 熊さん、マア一杯行かう。

親父 ヘエ、あり難うございます。和尚さん、ほんど今度は御苦勞かけましたなア。

鐵漚 御苦勞どころか、儂の方から乗出したんじやないか、未來の署長夫人と見込んださつきさんじや。春吉さん、どうでもこうでも署長にな

つて貰はんと困るぞ。のう熊さん。

親父 そんな見込みはいゝのじやが、春吉が署長になれましようかな。

鐵漚 なるとも、なるとも、儂が大鼓判じや。

親父 春吉、ほんと張込めよ。大體お前は双子明神様の申し子じやからのう。

鐵漚 又始まつたなア。

古川 和尚様、仲々骨が折れます。只眞面目に働くだけじや署長になれませんのです。どうしても警部の試験に通らねばなりません。私のやうなボンクラ頭では心細いです。

鐵漚 其のボンクラがよいのじや。一寸物覺へがよいとか小才の利いた青年は、長もてがせん、直ぐ行きつまる。遂に成功せんよ。なあに、儂が見込んださつきさんが附いとれば、試験も何も共稼ぎじや。一人で出來ん事は夫婦二人がゝり

でやれ。それが夫婦じやのう、さつきさん。

さつき ハイ。

親父 さつきさんよ、儂たちはもう明日は歸るから、後で二人で仲よくして辛抱して病氣せんやうにしておくれのう。里歩きは來年の夏祭り位がよからう。

鐵漚 里歩きなど考へるなよ。熊さんよう云ふたのう。來年の夏祭頃は初孫の顔が見たいのじやらう。

親父 和尚さん、味なことばかり云ふ。マア一杯。

古川 新世帯は骨が折れます。何じや彼じや買ひたがられては困るです。和尚様、よう云ひ聞かせて置いて下さい。さつきさんに。

鐵漚 さつきさんに限つて買ひたがらんよ。春吉さん、時には白粉の一曝位は買ふてやれよ、女じやから。それから自分の女房にさつきさんの

敬稱はいらんぞ、ハ、ハ、ハ、。

親父 春吉よ、今まで毎月送りよつた五圓も來月から送らんでいゝ、餘つたら貯金しとけ。

鐵漚 馬鹿、そりやいかん、五圓は毎月送れ。熊さん甘いぞ。

さつき 必ず妾が送ります。

鐵漚 もう今晚ぎりじやから、一杯機嫌で何も彼も話して置くがのう春吉さん。儂はこれで嫁御の世話を三人したのじやが。人の話や儂の經驗から考へると、嫁御貰ふなら一番の姉嬢で、愛嬌者で、貧乏人の子に限ると云ひたいなア。姉嬢は苦勞をして、物がわかつて居るし、幾ら別嬪でもツンとすました女は情がない。矢つ張り愛嬌が必要じやなア。それから又なるべく貧乏人の子でないといかん。嫁御の實家が婿の宅より財産が多かつては絶対いかん。又婿どんより

嫁の方が教育が高かつては又折合が悪い。
その點この點考へて見て、このさつきさんなら
春吉さんの嫁御に最適任者じゃ。之を嫌ひと云
へば春吉さん自惚れが強よ過ぎるぞ。

古川 和尚様には全く叶ひません。

鐵漚 この素麵は仲々湯がき加減がよいぞ、さつ
きさん、よいか、素麵も飯も固加減がよい。あ
うまい。

鯉父 アツ、俺と和尚さんと二人で素麵を食ふて
しもうたぞ。

古川 いゝですよ、皆おあがり。

鐵漚 此の際儂はさつきさんにも憎まれ口を一つ
きいて置きたい。國の方の村の駐在所の事を考
へても判るが、駐在所の家内が主人の留守の時
には、一寸した村人の届ごと話ごとを聞いてや
つたり、早く主人に知らしてやつたりして、主

人の仕事を助け、又村人の便利をはかつてやる

ことは、誠に結構な事じゃ。是非そうなければ
ならぬぞ。然しだ。其の家内が駐在所に巡査になつ
てしまつて、鼻持ならぬ權識をふり廻すやうな
事になるなら、單に村人の物笑ひとなるばかり
ではない、大迷惑をかける。巡査が出世して部
長にならうと、警部にならうと、妻は依然たる
妻で主人の地位があがればあがる程、其の妻は
修養謙遜こそ必要じゃ。世間には部長の家内が
部長になり、署長の家内が署長になつて、巡査
に對して上役氣取で接する不心得の女が居る。
さつきさん、修養せんといかん。署長と云ふた
つて巡査の一寸よいのじゃ。況んや其の妻は幾
らか年を取つたさつきさんだけのことじゃ。ア
、もう止めよう。兎に角仲よく暮せよなア。

二二 水喧嘩

田植は済んだが雨が降らない。溜池の水は心細
くなる。順番水あてを待つて居つては龜裂する田
さへ出來たので、村人はあせり始め、他の仕事は
放つたらかして、溝の邊りをうる／＼しては、自
分の田の方へ水を引かうとする、それを切つて水
を止める、引く切る引く切るで困つたのは水番の
作さん。職務上隨所に摩擦を起し癩にも障るので
憤然と辭職してしまつた。

さあこうなると水の奪ひ合ひとなり、隣地の者
が小ぜり合ひを演ずる。兩方が分水堰を挟むで區
と區とが對立して、時には鉄を振り上げる。誰が

誰を溝に突込んだとか、どこの嫌アが啖呵を切つ

たとか、此の平和な村にあるまじき雰圍氣が漂ふ
た。今日も今日とて今原區と畑區との分水堰のあ
る中谷の堰に、兩區の者三十人も、鉄かたげて對
立して、先づ理論鬭争が開始されて居る――。

今原甲 幾ら早魘の時でも此の分水堰をいじくる
と云ふことは、今まで全くないことじゃ。

畑甲 誰が堰をいじくつたか、あんたの方こそ畑
の方に石を並べて、水を妨げたじゃねえか。

今原乙 そりや違ふ。あんたの方から昨日今原の
方を堰えて水の一滴も來んごとしたから、こち
らも一寸したんじや。石位置きやあ、どうある
か。

今原丙 そう勝手なこと言ふもんじやねえ。

畑乙 どつちが勝手か、馬鹿にするな。

今原乙 誰が馬鹿にしたか、お前達こそ人を馬鹿

にしちよるじやねえか。

畑丙 こくな、喰らはすぞ。

今原乙 喰らはす？さあ喰らはせえ。

畑の者 喰らはせ、喰らはせ。

畑區の元氣者が焼酎の一杯氣嫌で突かつた。今原の勇み手が之に應じ、小競合は演ぜられた。人のいゝ區長が仲にはいつて双方をなだめて居るが容易に解決しさうにもない。誰か「駐在所が来たッ」と叫んだ聲に、期せずして一同手をひいた。

古川 やあ皆さん、御苦勞です。水には困るなア。

今原甲 困つたもんです。あなたに心配かけて済

みません。

畑甲 なんとか、駐在所もし、工面はないでしよ

うか。これじや大事になります。

古川 工面はあります。今日から儂が水番になり

ますよ。

今原甲 そう云ふ譯に行きますまいが――。

古川 皆聞いて下さい。今日から儂が大水番になります。そして作さんを復職させて儂の助手として、小水番をさせます。儂は此の分水堰に陣取つて兩區の水の調節をやる。作さんは兩區谷々の順番水あてをする、皆承知して貰ひたいです。

今原乙 あなたに水番をしていたゞいては済みません。お忙しいところに――。

畑區長 それじや儂が駐在所の代りに大水番になりましょう。

古川 いや、大水番は是非わしがする。必要なときにわしが區長さんに頼みます。皆承知して直ぐ引取つて下さい。此の堰は心配はないです。

一同 どうも済みません。それじや歸ります。

古川 巡査に感謝しつゝ歸りかけた一同に對し、

古川 皆さん、念の爲めに申して置きますが、此の分水堰は駐在巡査の水番です。若し之を侵す人があつたときは、氣の毒ですが手続きをしますから承知を願つて置きます。

――町寧懇切の中に凍として冒すべからざる此の青年警察官の態度。天高く雲雀鳴き、村の平和の守り神を讃へるかのやう――。

二三 模範巡査

此處は大橋警察署の署長室。上座について煙草を燻らして居る金色燦たる肩章の人は、けふ初巡視のE警察部長、其の前に立つて今管内狀勢の説明を爲し終つたのは大橋警察署長M警部である。

警察部長 署長、まあ掛け給へ、茶でも呑みながら懇談しよう。警務課長、もう片苦しい事は止して署員と座談會でもやらうか。茶菓子代位警務課できばれ、ネー。

警務課長 座談會もやりませうが、署員の點檢が豫定してありまして、もう校庭に行つて待つて居りますから。

警察部長 いゝじやないか、止しちまつたら。

警務課長 いゝゑ、矢張りお出を願ひました方がよいと思ひます。

警察部長 署員が喜ぶやうだつたら行かう。

警務課長 署員も一ペンは嚴肅なる點檢を受けたいものと思ひます。

警察部長 そうかね、じや行かう。署長、警察部長などがやつて來ると困るだらうネ。

署長 いゝゑ、少しも困ることはありませんが。

警察部長 困ることはないが、うるさいかネ。

署長 時々はお出を願ひまして、管内の事情を御了解願つて置きたい次第であります。

警察部長 君は嘘を云ふネ、時々警察部長なんかに来られてたまるか。やれ氣を着けた、頭右だ、やれ點檢だと、實際巡査はたまらんよ。受ける方も馬鹿らしいが、見るものも何か變だよ。そして効果はないよ。僕はそんな事よりも、第一には方面場所を知ることだが、署長や署員が實際の仕事して居るのを、蔭から其の儘見たい事と、懇談して打解けた氣持になりたいのだネ。まあ點檢はして来よう。

點檢を終つて署に歸られた警察部長は、署長室にて歡談中、一人の地方有志が刺を通じて警察部長に面接を求めた。

警察部長 やあ、まあどうぞ。

警察部長 いや、署長からまだ聞いて居りませんよ。あなたから一つ聞きましょう。

竹井 この署に只今内勤をしてゐる古川といふ若い巡査さんは、實際感心な人です。仕事も無論よく出来る方と思ひますが、第一精神が立派です。外にも立派な巡査さんが居りますが、この人は格別です。何も此の古川さんが私の村の駐在をして居つた譯でもありませんのですが、此の人の勤めた村の人々や、現在關係を持つ人々が、例へ古川さんから叱られた事でも、喜んで人に話し感心して居るやうな譯です。

警察部長 ほう、そんな立派な巡査が居りますか。一體どんな風に立派なんですか。

竹井 古川さんは、一番最初川津の駐在でしたがそれから城井村、平川村などに居りまして、此の頃本署の内勤巡査になられたやうです。城井

竹井 あなたの御巡視と承つて、一寸御たづね致

しました。御苦勞でございます。

警察部長 竹井さん、私はネー、巡視に來ても昔風の固苦しい事は好かんネ。先程も警務課長や署長にも話したんだが、第一は地方事情を知りたいんだが、人を知りたいですネー。そして立派な署員を見たい、聞きたいです。

竹井 そりやそうでしょう。大事なことですからね。

警察部長 どうです竹井さん。あなたは地元の縣會議員として、純正な見方による模範巡査はありますんかネ。

竹井 そりやアある位じゃないです。縣下は愚か日本にも珍らしい巡査が、此の大橋署に居ります、部民は皆感謝して居ります。もう署長さんからお話があつたかも知れませんが。

村あたりではまるで神様のやうに云ふて居りますよ。取締が周密でそして無理がない。水喧嘩の仲裁から不孝者の善導、惡漢退治、青年の指導と、仲々行届いた駐在だとして、村中の者が尊敬して居りましたので、村にどんなメモ事が起つても、古川さんの一口がはいれば、必ず片が着くと云ふやうに信用されて居りました。古川さんの前までは、城井村の青年の風習が悪く、喧嘩をしたり、つまらぬ遊びをして居つたやうです。また米や麥のやうなものが頻々と盗まれ、どうしても犯人があがりませんでした。ところが古川さんになつてから、其の村の下手に住む後家の貧乏人や、その他の人々の生活に必要な米麥の造り高や、不足の分を何處から買入れるかについて、嚴重に調べを續くる一方、青年會を盛んにして武道を奨励し、詩吟を指導

するなど、心から教化に努められた結果、青年の風儀は革まり、今申しましたやうな米泥棒も跡を絶つたそうです。

警察部長 は、あ、成程々々。

竹井 尚ほその外にかう云ふ事もあります。やはり城井村のことですが、或る男が大橋で賭事をする場所に集まつて居つたため、何でも三圓の罰金を食つたんですが、元來が貧乏人でありまして、病氣で仕事もできなかつたと云ふ譯で、何度督促を受けてもその罰金が納められない。とうとう勞役場留置とかなつて、小倉の監獄に連れて行かれることになつた時、古川さんが其の手續に行かれたのですが、老母を抱へて居り、餘りにも貧しい家であること、本人の性根が悪くないといふのを見抜かれてその男に懇々と道理を説いて聞かせ、金がなければ仕方が

ない、どうでもしてくれ、と云ふ様な態度を戒め、信用のない男ではあつたが、古川さんの證人で或る區長から金を借りて罰金を納めさせ、其後其の借金は働かせて拂はせましたが、それから古川さんが頻りと其の男の面倒を見てやりとうとう其の男が更生して今では此の大橋で眞面目に働いて老母を喜ばせて居ると云ふ始末です。

警察部長 は、あ、感心ですネ。署長、そんなのは褒めてやつたかネ。

署長 はあ感心です。常に勵まして居ります。

竹井 尚ほ又感心な事には、其の古川さんの奥さんが大層立派な人で平川村あたりでは皆感心して居ります。駐在所の古川さんが用向きで外に出て居る時には、其の奥さんがチャンと受付をして、村人の便利を圖り、懇切に人々を導き、

急を要するときは古川さんの行先に知らせると云ふ風に、全く行届いた事でありましたので、村人の尊敬は大したものです。

警察部長 署長、大した巡査が居るネ。僕はそんな巡査を知りたいのだ。そしてお禮を言ひたい。

署長 實際此の巡査には署長も頭が下がります。現在内勤巡査ですが、公衆の受付でも大層親切であります、自分の仕事でなくつても受付溜に待つて居る人々には、よく接遇して長く待たせず。よく物の道理を聞かして納得させるので、自然と人々に敬はれ、此の町の人々から民衆の太陽だと良い噂を立てられて居ります。それから朝も人より三十分位は必ず早く出勤して、署内の整理整頓を小使給仕と一緒にやつてやると云ふ状態であり、夜は時々夜業までして自分の擔任事務を完全に遂行するといふ人物です。初

めの内は私も何んぼか疑ふて居りましたが此の頃に至つて心から働いて居ることが信ぜられ、感服致して居ります。

竹井 ほんとうに模範巡査です。

警察部長 其の巡査に會はしてくれ給へ。僕が話したい事がある。そして直賞を與へたいと思ふ。

二四 警察官と試験

それからどれだけか経つてのこと、警察界の難關である警部考試試験が執行された。過般の警察部長巡視に於て圖らずも優良巡査として特賞を受けた古川巡査は、特に巡査精勤證書を授與せられたので、警部考試々験の受験資格を與へられ、光

榮ある登龍門に臨んだのであつたが、運拙なく不
合格の烙印を押されたのであつた。

古川 俺は試験は駄目だ、もう二度と受けんよ。

さつき あなたに似ず今度は弱りましたネ。

古川 弱りはせんが、自分の能力のないのに愛想
がつきたよ。

さつき そう悲觀せんでもよいでしょう。本來な
ら今度までは試験は受けられんのではなかつた
のですか、考へやうですよ。

古川 おまへは當り前の事を云ふ人じゃ、とても
今の俺の氣持は理解出来んよ。

さつき あなたの平素の修養も當になりませんネ
。

古川 兎に角、もう試験は受けんよ。一生巡査で
通しても構はん、立派な巡査として勤めて行か
う。

さつき そうですよ、何もあなた考へることはな
いではありませんか、立派な人が警部や署長に
なり、悪るい人のみが巡査で終るのではありま
せんから。

古川 そうじゃ、人間の値打は試験で決まるので
はない。

さつき あなたに其の道理が悟られたら、何も憐
む事はないぢやありませんか、ネー明朗になつ
て下さい。

古川 實のところを言へば、あなたには濟まん言
分だが、俺の家持ちが早かつた、もう三年早か
つた。ウンと勉強して警部試験に合格して後に
妻帯することが本當だつたよ。

さつき あなたはまだ本當に悟つて居ないのです
ネ。その愚痴が出るやうでは迎も苦しいことゝ
思ひますわ。

古川 結婚當時、和尚さんからも言はれて居る、

義理でも意地でも試験に通じ、將來一層勉強し
て署長までたゞき上げ、あんたを署長夫人にし
あげねば、和尚さんにも濟まんやうな氣がする
よ。

さつき あなた、そんな心配はいりませんよ。わ
たしを署長夫人にせねば、和尚さんに義理が濟
まんと言はれることは、妙に響きますよ。わた
しは假令あなたが一巡査で終つても、決して悔
みごとは申しませんよ。あなたが立派な巡査で
世間の人々に尊敬され、お上の御用に立てば満
足です。和尚さんに濟まんよりもあなた自分に
濟まんでしよう。わたしはあなたが可愛想に
なりましたよ。

古川 一生巡査じゃ、子供が大きくなつても肩身
がせまいよ。

さつき あなた判りましたよ、あなたの心の奥底

が。それじゃ發奮しなさいよ、まだ一度じゃな
いですか、ほんとうに警部になりたければ、勉
強をつゞけて、二度でも三度でも五度でもわた
しがもうあなたお止しなさいと願するまで執
念深く受けて下さい。ほんとうに心に悟つて立
派な巡査に成り通すのでなければ、いつも心が
暗く他人が出世する度に悶へますよ。悶へ悩む
やうでしたら苦痛を忍んで勉強することです
よ。わたしもその氣になりますよ。

古川 實のところ言ふと、赤ちやんから泣かれた
り、その他の小世話が多かつては勉強も頭には
いらんよ。

さつき あなたの仰しやる筋書がわたしにはチャ
ンと讀めますよ。勉強の邪魔になるから、暫ら
く國の方に歸つて居つて呉れ、一人で靜かに勉

強すると仰しやるのでしよう。よいです、何時でも歸りますよ。でも、あなた、よく考へませんと、つまらんことにお金を費ひ、心をつかひますよ。あなたのやうな律義な人が、どうしてわたしや、可愛い弘ちやんを長らく國に歸へして置けますか。

古川 それもそうだなア。よし發奮してやらう。

矢つ張り俺は一巡査では心の蟲が折合はんネ。

さつき そうでしよう、それが本音でしよう。あなたしつかりして下さい、坊やわたしは、ほんとうに可愛いなら又自分の出世がしたいなら、張込みなさいよ。そら、いつか和尚さんがわたしをこちらに連れて來た時に、あなたに言はれたでしよう「試験も何も共稼ぎじや、一人で出來んことは夫婦二人がよりでやれ」と、今からですよ、あなた。

古川 そうじやつたネ、よし張込もう。
さつき よいですか、わたしや弘ちやんはあなたの試験の邪魔になるやうなことはありませんよ。チャンと之から考へますよ。一番邪魔になるのはあなたの弱い心ですよ。

古川 弱い心、そうじや。よし、やるぞ！

二五 眞面目の病氣

梅雨も霽れて輝やかしい夏の頃となつた。内勤事務に忙殺される古川巡査は他所眼にも頬はこけて、何だか元氣の失せた顔色で出勤してゐるのであつた。

M署長 古川巡査、此の頃どうかありはせんか、

ひどく瘦せたやうだネ。

古川 はい、少し胃腸が悪るいやうです。

署長 食事が進まんか。

古川 はい進みません。醤油の臭ひが鼻について折角の食慾がブツと止まつたり、また味のよい物ほどムカつきまして、嘔吐を催すこともあります。

署長 夜は眠れるか。

古川 寝つきはよいのですが、三時間も眠ると目が覺めまして、それから朝まで眠らん事もあります。

署長 ハ、ア、神經衰弱だなア。

古川 江藤先生もそう云ふて居りましたが……

署長 古川巡査、焦燥るな、あせるな。

古川 はい、健康が大事ですから、此頃は勉強もせんで、成るべく静養して居ります。

署長 健康が大切じや。古川巡査、此の前の試験が頭にこびりついとるのじやないか。クヨクヨするなよ、君達はまだ之からじや、俺は考試々

験を三度目にやうやく通つた男じやが、自慢じやないが、此の頃の警視位にはなりきるよ、ハ、ハ、ハ、まあそれ位の意氣でやらにや。

古川 あり難ふございます。

M署長は、藤原警部補に古川巡査の健康に關し内々注意した模様で、其の翌日藤原警部補は、藤原 古川巡査、仕事の方も大事だが、體が大切じや、署長も心配されて居る、遠慮はいらんから暫らく休暇して故郷へ墓參でもして、英氣を養ひ給へ。

古川 どうも御心配かけて済みません。然し仕事を休まんでもよくあります。

藤原 それがいかんのじや。俺は悪るい事は言は

ん、君の仕事は代員を今日造つて置くから、心配せんで明日から休め。

上官より温かき慰めやいたわりも、今の古川巡查にとつては、又新なる苦惱の種となつたのである。

古川 此の頃はどうも運が悪るい。此の病氣もどうやら俺を過らしむる奴じや、あゝあ。

さつき あなた、弱い心を出しちやいけませんよ。折角署僚さんがそうまで言ふて頂くのですから休暇を貰つて呑気に遊びなさいよ。

古川 今年の秋には又考試々驗もあるさうだが、これじや困つたネー。

さつき それがいけませんよ。あなた試験なんかどうでもいゝんですよ。また受けなければ受けるゝときに、何度でも受けたらいゝではないですか。

古川 あ、今晚は今井田先生の所にお伺ひして見よう。

さつき それがよいでしょう。今井田先生を訪ねた古川巡查は率直に心の悩みを語つた。

今井田 ふゝん、そうですか、若い人にはよくあるもんですが、誠に結構です。それはあなたが非常に真面目である證據です。仕事が幾らつかえても格別苦にもならんやうな人間や、向上心のないやうな、放埒な人間は絶対に神経衰弱には罹りませんよ。神経衰弱と云ふ病氣は、几帳面な人間のみの特權病ですよ、喜ばなさい。

古川 先生のやうに言はれますと、實際恐縮します。私はそんな真面目な人間じやありませんから。

今井田 然し、古川さん、男子が神経衰弱症にか

かつたなど餘り名譽な事でもないからなア、まあ氣を大きく持つて、今日の事は今日丈心の心配、明日の事は明日丈心の心配でいゝじやないですか。あなたに言はせれば、そんな事じや仕事がつかえる、勉強は出来んとか、苦に病まれるに違ひない。然し古川さん、あなたが思ひ煩ふても先の事がどれだけ出来て行きますか。今日は今日だけの務が尊いのです。今日一日の充實した御奉公が出来れば行末の事はチャンと約束されて行きますぞ。あなたのやうな人は、先の先まで考へられて、明日の空苦しみまでねば氣が濟まんので、ほんとうは今日一日の充實した一念の御奉公も勉強も出来ん事になつて居るのです。儂に言はすれば、仕事や學問に日夜の勤勉を積んでも、人間が夜三四時間以上も熟睡が出来れば、決して神経衰弱なんかにかゝる

ものではありません。仕事よりも勉強よりも、思ひ煩ふ事の惱みが病氣となるのです。どうです違ひますか。

古川 全く御説の通りです。小心者の私には、つかしい次第です。

今井田 古川さん、こう云ふ歌がありますよ。

この秋は雨か風かは知らねども

けふの務の田草とるなり

二六 勵ます人々

さつき あなた、手紙が二本も來ましたよ。

古川 おう、來たか。和尚様が又やかましく云ふて居ろう、あゝ靜雄からも來て居る。大方親父

の代筆だろう。

前略此の度の御手紙拜見。兄上には神経衰弱とかにて御静養中の由驚入申候。家内一同心痛致居候。此の頃母は夢見が悪るいとていろく心配致居候矢先に、兄上より御病氣の通知有之候爲め、それより毎日の如く妙見様に日参され、三週間平癒の祈願をかけられ、火のもの断ちを行ぜられ、夜もおちく眠られず、他目にも面瘦を見受られ候。母の申され候は、此の手紙着次第に、一度兄上御夫婦共妙見様の方へ向はれ御禮拜下され度。又毎朝六時には母上の参る時間に候へば、其の時刻には其の地に於ても禮拜せらるゝようくれぐれも申され居候。又母は神経衰弱と云ふ病氣は精神病の如く思ひ込まれ、春吉が氣ちがひになつたらどうしようかと、取越苦勞致され居候。父は御存じのやうな人故あまり口には心配のやうな事申されねども、心中非常に惱まれ居る模様にて、少々愚痴ごとども申居られ候。ハハア春吉の

も一しよに聞きますよ。

古川 あんたは後で讀みなさい、ゆつくり。それから――

然し、又一面病氣が悪るければ歸つて来いと云ふてやれと申居られ候。病は氣からと申すこと有之、精元氣を出して官の爲め御働き下され度。村の人々の兄上に對する人氣は大したものにて、寄ると障ると兄上を褒めはやし居候。今かりそめの病とて輕卒に辭職するやうなことは卑怯かと存候。又人に對しての面目も有之候。後悔の種にても候へば、今暫らく氣持のよきやうに致し御静養さるゝこと肝要と存候。今年も稲も上出来にて候へば、養生費少々位は送金申すべく候。ペーも達者にて骨折くれ候。タマは今年も三匹の親として毎日母性愛に忙しく暮し居候。先は要用のみ申送り候。何卒姉上にもよろしく願上候。

九月十五日

靜 雄

奴、ぼつ／＼へコタレ居る。俺が言はん事じゃねえ。初めから尻の穴に似合ふた石を呑めと云ふて聞かせて置いたんじゃ、もうぼつ／＼尻がばれるのではねえかと罵られ居候。

此處まで讀んで古川巡査は一才長大息して、暫らく考へるのであつた。

さつき あなた、どう書いてあるの？

古川 親父がひどいことを言ひよる。然し俺が矢張りつまらんのじゃ。あ――あ。

さつき どんなひどい事書いてあるの？

古川 ……………

さつき どんなひどいことを言はれても、お父さんはほんとにあなたのことを心配して下さるのよ。

古川 うむ。

さつき あなた、聲出して讀んで下さい、わたし

兄 上 様

子を思ふ親心、父は父として嚴たる鞭あり、母は母として温かき慈愛あり。海山の厚恩、何時の日にか報ひ得べきか。今年二歳の弘と云ふ一男を持つ親としての我、子としての我。

子を思ふ親ほど親を思ひなば

世にありがたき子とやいはれむ

古川巡査は次に鐵涯和尚よりの手紙を讀む。

冠省、久々の音信に接し懐かしく存申候。神経衰弱とか申す病氣は愚納合點致兼候。案ずるに「氣病み」のことなるべくと察候。さすればあるべきことのあるみにて別段驚く程のことにも候はず、要は腹のゆるみにて、神経衰弱にあらず腹衰弱にて候へば、胸苦しきまで念々の腹力を養ひ申すこと養生法にて候。此頃の小さかき青年ども、暇あるに任せ勝手に病氣つくり休みたがり候事、國家の爲め憂慮に不

堪候。殊に警察官の如き、萬乘の大君の大御心を受けて下々を勵まし導く官職にある者共、たやすく腹衰弱病に罹り候ては、ものゝ役にも立ち申さず、直ちに辭表すべきものと存候。貴公の如き人一體何事を念々致居候や。警察官にありては唯々一死御奉公のこのみ念願し、命懸けの其の日其の日を送られ候やう修業大切に御座候。一死を覺悟の前に何の怖れ何の惱み有之候や。よくよく心を落つけ篤と勘考願度候。貴公の如き卑怯なる振舞に對しては三十棒を加へ、其の上に唾はきかけ蹴倒しも致し、怯魔退散の護摩焚き申度候。豫ての「餞別第二號」は如何相成居候やらん。頼と困つた人と見受られ候。當村駐在立花秀政君は巡查生活廿八年悠々閑々又時に烈日の概あり實に見上げた御人にて候五合徳利には一升はいらず候。徳利は大なるをよしと存候之より貴公の前途を祝福し一盃傾け申すべく候。呵々

九月十六日

老 僧

古川春吉君

古川 そうだ、矢つ張り俺の迷ひだつた。和尚様に限るネー。

さつき そんなに有難いの？

古川 有難いもなにもぼつくりだ。こりやいかなア。もつとしつかりせんと世の中に立つて行けんわい。時に「餞別第二號」はまだ見てなかつた、よし今出して見よう。

鐵涯和尚の痛罵、父の皮肉、嗚呼それは呼べば答ふる山びこの間違ひもなき人生眞理であり、己れ自身がもつ底力の響であらねばならぬ。叩けよさらば開かれん。求めよさらば與へられん。そうだ、そうだ。

得意冷然、失意淡然。それ之を守る者安心常樂。それ之を過まる者懊惱苦涯 鐵涯

二七 青年巡查部長

十月十五日に發表された警部考試々驗合格者は三十八名であつた。其の中に五名の平巡查があり順位十二番の成績を以て見事合格したのは古川巡查であつた。

古川 おいやつたぜ、十二番じゃ。

さつき 發表があつたの。よかつたワネー。

豫ての辛苦酬ひられて歡喜する夫の面見まもりつゝ、過去半歳約束通り夫婦共稼ぎの試験勉強に及ばずながら車の後押役を務めたさつきの眼には嬉し涙が宿され、それが泉となつて暫し頬を流るのであつた。男性とは云へ物に感受性の強い古

川巡查の眼頭が自然と熱くなつて來るのは如何とも致し難いことであつた。

古川 みんなの御蔭じゃ。お前にも大層働いて貰つた。晝の疲れに居眠る儂をやさしく揺り起して勉強を勵まして貰つたお蔭じゃ。弘ちやん寝せて夜もすがら蚊を追ふてくれたのは有難かつたよ。殊に儂がお前に感謝するのは、儂の眼の悪い時、儂に代つて参考書を讀んでくれたことじゃ。どれだけラクニ勉強された事か。之から先の出世も二人の出世じゃ。國の方にも手紙を出さう。

さつき あなたは偉いと思ひますわ。勉強に精を出され、一寸も弱音を吐かれずにやり通された點は感心しました。わたしはあなたのやうな心から尊敬の出來る人を夫にもつてほんとに幸福に思ひますわ。

古川 おい、こそばい、やうなこと云ふなよ。

さつき ほんとうですわ。わたし眞剣ですよ。あなた。わたし今だから申しますが、考へて見ると随分すまないことでしたわ。あなたがあまり試問の答が出来ませんと悲觀のせいであなただを罵りました。それでもあなたは自分の希望したことは云へ、黙つて女房のわたしに叱られて居ました。少し答がよく出来るとわたしの方が嬉しくなつて、あなたを子供のやうに褒めすかしました。人一生、名の爲めには、こうもあるかと淺聞しく思ふことも幾度ありましたよ。

古川 いや、あの試験問題答案集の試問をお前にやつて貰つたのが大層記憶に役立つたんだよ。今となつては皆面白い思ひ出話の種ばかりじゃ。

古川 巡査の試験合格は當時の警察界に相當大き

な刺戟を與へたのであつたが、更に大きな衝動と緊張とを與へたことは、十一月一日附を以て巡査部長を命ぜられたことであつた。若冠二十九歳の青年巡査部長は、如何に當時の青年警察官に對し羨望と云ふことを意識せしめたことか。颯爽たる若き巡査部長の凛々しい姿は、行き交ふ町の人々の眼をみはらしめたのである。

署長 大變名譽なことじゃ。署長の儂も肩身が廣いよ。之れと云ふのも全く君が平素の心掛がよく、蔭日向なく眞面目に勤めたからだ。試験も好成绩であつたが、此の前に警察部長の特賞を受けたことが與つて力あること、儂は思ふ。監督者になつても、人一倍の努力を忘れないように。大井田署は隣縣との境であり、竹後地方の特性として、また随分氣をつけて行かねばならぬ。何處に務め誰に仕へても百パーセントの正

直と努力が絶対に必要だ。それと又大切なことは、人に仕へる者は須らく上司に對し從順にあること、又下役に對し横柄でないことだ。よいか。

古川 御教訓誠にあり難うござめます。署長殿には何かと大變御世話に預りまして御禮の申しようもありません。今後宜しく御願ひいたします。

B部長 やあ古川君、お日出度ふ、之からだぜ、しつかりやり給へ。

古川 部長殿には又特別の御指導を受けましてあり難うござめました。御體を大切に願ひます。

B部長 俺も氣をつけるが、君若い部長なんか餘程考へて居らんと巡査につかわれるぞ。俺が前にも話した通りじゃ。巡査部長は巡査部長でありきりにやならん。生意氣に上役を凌いで見た

り、又巡査にへつらふて見たりしては情けないぞ。幾ら出来て居つても巡査は巡査じゃ、嚴として冒さるゝな。又上役に對しては何處何處迄も敬意を失するな。若い部長じゃ頭がいゝなんて、少しあまい聲を聞くと直ぐ頭をのし上げて小理屈を云つたり横柄な態度をとるやうな二上り者じゃ駄目だぞ。下役の巡査が事務が捌ける。よくものを知つて居ると云つて感心して尾を捲くやうじや卑屈だぞ。巡査が長くやつて居る慣れた事務を手際よく片づけるからつて感心することはないよ、其の位のこととは直ぐ誰でも出来るよ。慣れぬところで慣れん仕事誰だつて始めは一寸困るよ。然し直ぐ覺へるよ。マア威張らずに温和で、見識をもつて居らにやならんぞ。つまりぬ謙遜から不見識となり、他から笑はれるなよ。ハ、ハ、ハ、ハ、。

署長 B部長、あまり脅すなよ。

B部長 古川君とは親子のやうな気がしますから
ピンからキリまで教へたいんです。

署長 ふん、君の云ふ通りだ。仲々監督者も骨が
折れるよ。のう。

古川 何しろ仕事は何んにも出来ませんのに、知
らぬところに行つて一寸面喰ふと思ひます。

署長 知らぬことは知らんでよい。巡查に習つて
いゝよ。習つたからつて、何も見識が落ちはせ
ぬ。追々判つて来るよ。署長でも警部でも、そ
んなことは問題にせんよ。そんなことに怯んで
尾を捲くと、B部長の云ふ通り心掛けの悪い
巡查に、大きな顔さるゝよ。そのコツは大切
だ。のうB部長。

B部長 心掛けの悪い巡查が居つたら、後々の
爲めウンと懲らしめてやれ、此の頃の警察官は

上にも上手、下にも上手に要領ばかりで行かう

とするよ。俺なんか見て見ろ、酒こそ呑むが、
その邊は上には上に對し、下には下に對しチャ
ーンと節度をもつて居るよ。

古川 部長殿、時々手紙で勵まして下さい。私に
はどうしても氣魄が缺くことがあります。

署長。それでは又話さう。

十一月五日、此の日は新任古川巡查部長が大井
田署へ赴任の吉日である。大橋驛には管内有志知
友が集まり晴れの門出を見送るのである。古川夫
婦は見送の人々に對し慇懃に應接して感謝するの
であつた。今井田先生夫婦も態々見送られた。

今井田 古川さん、強く正しく睦じく。そして御
自愛願ひますよ。

汽笛一聲、懐かしの大橋驛を後に。

二八 司法事務

大井田警察署の署長室。署長戸川警視は強度の
近眼鏡を光らせながら、司法事務に關し諄々と説
くのであつた。

署長 司法權が國家刑罰權の作用で、所謂警察の
觀念とは別な觀念であつて、適切なる科刑を本
質とすることは申す迄もないが、儂に言はすれ
ば、司法だの警察だのと理論は理論として、そ
の實質を考へる時は、等しく國家社會のよりよ
き安寧幸福の爲めの政治ごとであつて、國家社
會の福祉を害するやうな人の行爲を制限強制し
て、罪なからしめ、又敢て罪なす者あるに於て

は、之を糺明して適當に科刑し、再び罪あらし

めないやうに改過遷善せしむるものであつて、
警察と云ひ司法と云ひ、等しく罪の豫防であ
り、刑することは更に大きな次の豫防手段であ
る。その點を克明に知つて置く必要があるね。

司法主任 それで此の頃では防犯施設、防犯運動と
云ふことが盛んに叫ばれて來た譯ですね。

署長 そうだ。司法の仕事に携はる人々はよくこ
の邊のことを心得て居つて貰はんといかんよ、
古川部長は司法事務が初めてあるから、當初
から考へて深い意義を持った立派な司法事務を
執つて貰ひたい。

古川 なんにも判りませんので、主任殿にも足手
纏ひで御迷惑と存じますが、何分宜しくお頼み
します。

司法主任 いや判るも判らんもない、肝腎な點を心

得てやつて貰へばよいので、事務的に判らんことは儂に聞いて貰へばよいです。

古川 早速困ることは調書を取ることであります。お恥かしいですが一ペンも取つたことがないので。

署長 古川部長、調書を取る位のこと何んでもありませんよ。一べん作れば大抵判るよ。型見たようなもんだよ。そんなことに氣を遣ふな。

司法主任 調書は易いことだよ。犯罪の意思や行爲の要素が、よく現はれ適條にかなつて居ればよい。その他のことは内勤巡査に委せて置けばよいのだよ。

署長 儂が常にみんなに言ふて居ることだが、古川部長にも一寸話して置かう。警察官の悪い癖は、何か法規の違反事項さへあれば、直ぐ罰だ、處分だと、眼を三角にする。成程法規に違

によつては罰せないで目的を達する場合もあらう。又何度説諭しても向ふむいて舌を出すやうな者も居る。そんな奴は科料も拘留も思ひ切つて重く言渡すんだね。儂は大岡裁判時代がほんとに懐かしいがね。

古川 大變よいお話を承りまして、よく御趣旨が判りました。氣をつけてやります。

司法主任 それからね。署長殿から時々注意を受けるのぢやが「罪を憎んで人を憎まず」と云ふこととじや。司法係と云ふ人の悪を詮議する役目に居ると、取調が都合よく進まんと腹が立つて来る。其處に一寸手が出る、怒りが出る。何かしら相手は罪人として扱ひたくなる、被疑者であつてもまだ罪人ではないから、此の點をよく考へて居つて貰はんといかんね。

署長 半島人に對する一般警察官の態度は甚だよ

へば罰則にも觸れるが、違反だから所罰せねばならぬと云ふことはないのだ。我國の刑罰法令は犯罪必罰主義ではない。國家社會の安寧幸福の爲め罰した方がよければ罰し、罰しない方がよければ罰しないのである。即ちその人により場合により、定まる大切なことだよ。微罪釋放の如きはよい例ではないか。又罪は罪でもその科刑に就てはしつかりした意見を附して事件を送る必要があるよ。行政罰に附するやうなものは、罰することは已むを得ない手段に用ひるのであつて、要は或ることを行はせたり、行はせなかつたりする民衆の世話ごとである。行政の妙味と云ひ、手腕と云ひ、其處にあるのだ。所罰は性根の悪い相手方に對し餘儀なく強制する爲めの方法だ。司法に従事する人は皆そのツボを呑み込んで居つて貰はんと困まる。相手方

くないと思ふ。半島人の身になつて考へて見ねばならぬ。悪い者は相當處分せねばならぬが半島人だからと云つて言葉づかひから差別があるやうでは御聖旨に反する、明治天皇御製に國の爲め仇なす仇はくたくとも

いつくしむべきことな忘れそ

と云ふのがある。此の御歌を警察的にいたゞくとき、今日の警察官殊に司法係など大ひに省みるところがなければならんねえ。

古川 私にもいろ／＼考へ違ひしたこともあります。御訓示に基き血も涙もある調べをしたいと思ひます。

署長 そうだ、血も涙も共に出さねばならぬ、罪の嫌疑を受けて警察に連れて來られても、その罪の内情が、止むに止まれぬ盗みごともあるう。きんたまた下げた男子の意氣地で、人に殴られた

まゝじつとしても居れずツイ傷害したのもあろう。詮議をすると切られた相手の方が餘程悪るいことがある。實際涙なくして調べられんものがあるよ。警察の爲めに警察をして居るのじやない、國家の爲め國民の爲めにして居るのじや。罪さへあれば何でもかんでも叩き上げい、でつち上げてまで訴追すると云ふ譯のものではない。よく／＼其の影響を考へて、爲めになるように處置せねばならぬ。

司法主任 やり方が悪ると司法係が國家目的を壊すよ。國民から怨みの的にさるゝことになるよ。

署長 管内にぶら／＼して居るゴロツキと云ふやうなもの、一人残らず拘留其の他で厳しく處斷し、彼等に寸隙も與へてはならんよ。まあ、世間と云ふものは第一番にゴロツキの横行することを嫌がり、之を取締つてくれる警察を強い

頼りになる警察と思ふて居る。ゴロツキをぶら／＼さしては其處の警察も駄目じやね。儂は司法の人に特に頼んで置くよ。

司法主任 署長殿から屢々聞かされて居るレ・ミゼラブルのジャンバルジャンとジャーベル巡査部長のことは、何時も思ひ出されますね。

署長 古川部長、ジャーベルになるなよ、自分は満足するかも知れんが、國を滅ぼすよ。それからね、赤子正書にかう云ふ文句があるよ。

刑法あつて仁義なきこと久しければ則ち民怨む、民怨めば則ち怒る。

仁義あつて刑法なければ則ち民慢る、民慢れば則ち姦起る。

今日の警察が刑に過ぎ又仁に過ぎては民の爲めにならず。君國の爲めにならぬことになる。刑と仁とは共に進まねばならぬ。姦とはヨコシマ

のことであり、悪で道に背くことである。警察

が強いも弱いも程々がある。その程々の指圖は署長の儂に託された仕事である。諸君は儂の命を遵奉すればよい。その任務を怠らないことである。儂から催促されて仕事を始めるでは、出世も止まりじや。若い者は元氣がある。その元氣でグングン働くのじや。但し若い者によくあるやうに何か殊更に忠義めいて理窟をこね、リキミ上がるのが一番胸が悪るいね。まあ諸君は儂を見習へ。儂について來い。

初めて面識する署長の偉大なる見識と、慈愛溢るゝ溫容に接し、古川新任巡査部長は感激のあまり、暫し言葉も出でず、黙禮して引きさがつたのである。

署の前の山櫻はいま満開で、咲きも残らず、散りもそめぬ霞を曳いてゐる。窓越しにこの花を眺めながら對座してゐるのは、大井田警察署長の戸川警視と刑事課長矢田警視の二人である。

刑事課長 實際今度の事件は心配したねえ。全く鬼熊事件と思つたので、飛んで來た譯だつたよ。

署長 いや、わしも心配したよ、何しろ自分の子供を殺し元の主人を傷け、自暴自棄になつて居るので、どんな事になるかと警戒した譯だが、まあ、よかつた。

刑事課長 あの儘で出沒して居ては屹度其の内には

二九 拔刀事件

まだ多くの人を殺傷したに違ひないねえ。古川部長は若いだけ矢つ張り勇敢だねえ。

署長 わしも感心して居る。平素極めておとなしく、非常に真面目で、剣道は僅か二級位だが、

あゝ云ふ場合には技もいるが、腹ですねえ。

刑事課長 さうだ、ほんとうに勇敢だ。けふは古川部長に會つて話して歸らう。

署長 あんたから褒めてやつて下さい。矢つ張り心配して居りますよ、正直者だから。

署長は古川部長を呼んだ。やがて指先に繻帶した古川部長は署長室に入つて來た。

署長 傷は痛むか。

古川 いゝえ、大したことはありません。

刑事課長 心配せんで傷の養生をしたまへ。

古川 あり難ふございます。

署長 刑事課長さんがねえ、君のことを心配され

て居るよ。後のことは何も心配するな。

刑事課長 仲々勇敢にやつてくれてよかつたよ。

古川 相手を傷つけて申譯ありません。私も覺悟して居りますから、潔よく御調べを受けます。

刑事課長 そんなことは餘り心配するな。僕の方も相手さんに事情を話して置く。

署長 相手の傷も大したことはない。問題じやないよ。

刑事課長 それよりもその時の模様を参考に話してくれたまへ。

古川 私が昨夜當直して居りましたら、十二時過ぎて電話がかゝりました、横須の派出所からでした。要件は上田佐太郎と云ふ男が痴情から夫婦喧嘩して、八歳の幼児を殺した。其の間に妻は逃走したので、犯人は猛然其の後を追ふて飛出し、元奉公したことがある八百屋の主人に切

りつけて姿を晦ましました。忽ち真夜中の横須一帯は大騒動となり、いま巡查三名が上田を探して居ると云ふことでありましたので、私はおつ取り刀で飛んで横須にまいりました。恵比須町の中程で兇漢が或る路次に這入るのを目撃致しましたが、何しろ日本刀を振り廻すので危険で寄りつけません。

刑事課長 ふん、大騒ぎだつたらうねえ。

古川 兇漢は頻りに日本刀を振り廻して、切るぞと叫び、誰々をやつつけると狂ひ居るので、町

の人々も恐怖して居ました。深夜のことではありますし、子供は泣きわめく者さへありまして、實際無氣味でした。應援に來た巡查十人で

出口を固めまして、其の場所から逃げないよう警戒しましたが、犯人は仲々外へ出て來ません。それで私は考へました、もう兇漢もぼつぼ

つ静まつて來るだらう、なるべく穩便に取押へ

ようと思ひまして、或る路次から中の方に這入

て行きますと、兇漢は奥まつた家の縁先に腰か

けて、刀を持ったまゝ怒號して居ましたので、

私は「オイ君、考へ違ひをしてはいかんど、子供は死んでは居らんよ、餘り騒がんで僕と一緒に歸ろうじやないか」とやさしく言ひ聞かせま

すと「何をツ」と立上りさま、日本刀を振冠り私に切つてかゝりましたので、私も一寸驚きま

したが、直ちに抜劍しまして之に應じました。

刑事課長 狭いところだらう？

古川 はい、五六坪しかあいてない所です。兇漢はいよいよ荒れ狂ひますので、之は尋常ではい

かん、此まゝでは私達も切らるゝかも知れん。

やがては多くの人をあやめると考へましたので

なまじつか保護扱ひをして事を過まり、自分が

不覺を取るのみならず、大變なことになるかも知れぬ、いつそ此の兇漢を傷つけて取押へようと、わざと後退して幅三尺位の路次の中に兇漢を迎へました。其の時にはもう後方に荒木巡査が来て居りました。荒木巡査も抜劍して前後から挟打ちにしましたが、兇漢は少しもひるみません、無茶苦茶に切つけまして横の板壁にしばらく切込んで居ました。ぐづぐづして道路に出しては面倒と思ひましたので、私は意を決して打込み兇漢の小手を切つた譯ですが、都合よく行きましたので、そのひるむところを飛つて刀をもぎ取り、荒木巡査と二人で組つきました。所が犯人は大層力が強く容易に押へられませんでした。坂田警部補その他の應援で折り重なつて、やつと捕縄をかけたやうな次第であります。

刑事課長 その時怪我をしたのか。

古川 はい、兇漢の刀をもぎとる時、この指先をやられました。足の方は格闘の際そこにあつた刀で傷ついたので。

署長 兇漢の手の傷も大した事はありません。

刑事課長 武器使用規程では、暴行を受けて武器使用の外他に防排の手段のないときに抜劍するのぢや。それは當然のことぢや。幾ら警察官だつて空拳でこれをあしらうやうな芝居じみた餘裕はない。又正當防衛のことを考へても、早く抜劍して權威を示すがよい。一度抜いたら相手を鎮壓するまでは闘はねばならぬ。

署長 そこに切るか、切らるゝかの實際問題がある。これは理窟ではなく、眞劍の對策がいる譯だね。

刑事課長 儼は今、古川部長の話聞いて共鳴した

よ。自分が切らるれば多くの人も切らるゝから自分が切つて多くの人を保護しよう、全くそうだよ。只抜劍によつて身を護ると云ふやうなこととじやいかん。抜いた刀の威力を示し、警察官の權威を現はさねばならんよ。近頃痛快な捕物だつたねえ。

署長 所で、君は武道はあまり出来んのだがねえ。

古川 柔道も劍道もよく出来ませんが、あゝ云ふ時には我を忘れてやるやうです。

刑事課長 それが腹だよ。度胸だよ。責任感だよ。

武道の出来た上はないが、要するに度胸と云ふものは常には出ないでも、イザと云ふ時に自然に出て来るねえ。それは平素の修養だと思ふ。

武道奥儀の歌に
切結ぶ太刀の下こそ地獄なれ

踏み込み行けばそこが極樂

打合はすつるぎの下に迷ひなく

身を捨てゝこそ生くる道あれ

と云ふのがあるねえ。君等はそこを行つたんだねえ。

古川 武道の氣合と云ふものがよく判りました。

矢つ張りその場についた氣合の掛聲が出ますねえ。今、考へて見ますと、私は始終「来るかッ、來い」だけを叫び、後方の荒木巡査は「コラッ、コラッ」だけを叫んで居たやうです。

刑事課長 ハ、成る程ねえ。やあ御苦勞だつた。

三〇 信仰ばなし

此處は三坂山の中腹廣山寺の庫裏、庭前の臥龍

梅は今眞盛り、縁に座すれば馥郁たる芳香鼻をつんざくばかり。遙かに望めば有田の海、波静かである。主は當山の住職無庵和尚、客は大井田市第七國民學校長舌間尙道、大井田警察署古川巡查部長、醫師玉田章の三人。

無庵 今日ほんとによい會合をなさいました。お約束通り清談會にしましょう。

玉田 校長先生、もう司會者もなにもいりませんねえ。思ひつき思ひつき言ふことにしましょうよ。

舌間 そうですねえ、結構です。

無庵 古川部長さんから何か話を切り出して下さらんか。

古川 そうですね、それじゃ私から始めましょう。今日は御寺に参りましたから宗教についてギリ／＼のところを申上げて見て、又有難い御導きを

を得たいと思ひます。

舌間 よいですねえ。

古川 私共がよく聞くのには、佛教にも十三宗五十三派あるとか申しますが、各宗旨、宗派で異説を立て、時には他宗を罵るやうなこともあるやうですが、等しく釋尊の遺鉢を繼ぐ僧侶として、どんなものでしょうか。

玉田 大體坊主の考へ方が間違つて居るのですよ。此の頃の坊主は商賣坊主ですから、自分の都合のよいことばかり述べ立て、居るのです。

無庵 玉田さんはほんとうの佛弟子ですから、何も彼も判つて居らるゝのですが、今日の坊主は私始め駄目なんです。

舌間 宗旨は違つても、釋尊から出るその根本は同じでしょうから、坊主が互に争ふことはよくないと思ひますねえ。

無庵 その通りです。争ふところに狂ひがあるのです。蓮如上人御文鈔にも

諸宗の教門各々にわかれて、宗々に於て大同權實を論じ或は深甚至極の義を談す何れも皆これ經論の實義にして、そも／＼また如來の金言なり。されば或は機をとゝのへて之を説き、或は時に鑑みて之を教へたり。何れが淺く何れが深き、共に是非をわきまへがたし。かれも教、これも教、互に偏執をいやくこと勿れ。修業せば皆悉く生死を過度すべし。

とあり、宗旨に囚はれてはならないのです。

古川 それで判りました。自力他力の信仰論が又八釜しいやうに思ひますがどうですか。

玉田 自力とか他力とか云ふことは信仰の方便に用ふるようですが、絶對の自力もなく、絶對の他力もないのでしよう。自力にして他力、他力

にして自力で、結局は同じものですねえ。

無庵 自力にせよ、他力にせよ、根本は釋尊の説教方便のことですから、玉田さんの御説の通りと思ひます。

古川 玉田さん、あなたは醫者で僧侶の修業をされるやうですが、動機はなんですか。

玉田 動機が何んであつたか覺へませんが、私は人間と云ふものに生れて、長くもない命ですから、生れ甲斐のある生活即ち毎日が有難い生活にありたい爲めです。

舌間 佛道に入られて有難い生活になれましたか。

玉田 どうして／＼まだそこまで行きませんが、以前に較ぶると慾が少くなりましたね。それだけ氣が安まるです。あり難いものです。

古川 和尚さん、長い御説教もあり難いですが、

出來得ますれば一番ギリ／＼のところを教へてくれませんか。

無庵 各宗でいろ／＼と方便説きをして居るのも其のギリ／＼のところを知らせるのですが、ギリ／＼だけを説いても餘り簡單過ぎて一般の人々がツイ、軽く受取つてしまひますから困るのです。眞宗の御經で尊いものを三部經と云ひますね。其の三部經は大無量壽經、觀無量壽經、阿彌陀經と云ふことにされて居りますやうですが其の内一番大切なのは大無量壽經だとされて居ります。其の大無量壽經の一番大切なつまり眞髓と云ふところは、和文に譯してこう云ふこととなります。

見よ、今の世の人情紙より薄く、急ぐべき道を求めず、急ぐべからざる五慾のことを諍ひ合ふて居る。此の極めて劇しい苦しみの世界を厭は

ず、只五尺の肉身を養ふために使はれて、果て

ない暮しを、尊い人も卑しい人も貧しい人も富める者も老いたるも若きも男も女も皆我がちに財産のことを心配して居る。有る者は失はぬやうにつとめ、無いものは得るやうに求めて、有るも無いもその悩みは同じことである……慾心の爲めに走せ使はれて心の安らかな時とでは暫くもないものである。

と。このギリ／＼のところをほんとうに受取ることが出来れば、第一慾と云ふものが少なくなり悩みが減つて毎日毎時が愉快に過され、玉田さんの言はれる、生れ甲斐のある人間生活が出来ることゝ思はれます。

古川 これは誠にあり難ふございました。眞理は簡單ですね。

玉田 古川さん、その簡單がなか／＼簡單でない

のです。

舌間 眞宗では、無常觀の極致から死後の世界靈界の安定を一念に求めさせ、實際今世生活は難業と教へられ、人生生活を否定せらるゝやうで眞の佛教に對して非常なる誤解を生じて居ると考へられますが、私共は人生を離れた宗教的信仰と云ふものを意識せられませんかと思ひます。如何でしょう。

無庵 御尤です。よく承はる御話です。私は宗教を離れて意見として申述べて見たいと思ひます。宗教でも藝術でも我々人間生活を豊かにする爲めの存在で、人生を否定した宗教、人生を無視した藝術は成立たないのが本當で、無理に存在しても人生上無價値となるのです。宗教的獨善、藝術的獨善と云ふことほど厄介な存在はありません。

古川 御説のやうな宗教や藝術が相當あるやうに思はれますねえ。

無庵 あると思ひます。

玉田 佛教革命が必要です。一日早ければ一日人間社會が幸福です。一日遅るれば一日不幸です。廣山寺さんには氣の毒ですが、今日の坊主は皆一度頭を剃りかへて再出發願ふか、或は御職御免を願はねばならんと思ひます。

舌間 ほんとうに宗教家に奮起をわづらはし、正しい楽しい信仰に導いて貰ひたいですねえ。

古川 ほんとうを言へば、坊さんも亡者に對して御經の棒讀みをして、御布施を貰ひ、暇さへあれば臺所で夫婦喧嘩でもするやうでは困りますねえ。大に山門を出て教祖の足跡を踏み「人はパソンのみにて生くるものにあらず」と、世間に布施し、迷へる人々を導いて貰ひたいです。

三一 リヤカーの老婆

だまつて引張つて来たもん。わたしや人から聞いたから急いで取りに来たら、巡査がブンおこるもの。わたしやその日は大分商賣をしそこなうたよ。

古川 おばさん、そのリヤカーのことで今日呼んだんだよ。

老婆 へえ、そしてどうなるかな。

古川 あんたを調べて罰金をかけるかも判らねえ。

老婆 へえー、今頃罰金とるかな、ありやもう一月も前のことじゃないかな。わたしやもうすんで居るかと思ふとつたよ。

古川 済んで居らん。

老婆 すんで居らにや、なしてあの時調べんで、一月たつて考へ出したやうに罰金だなんかナ。

古川 警察もいろ／＼と忙しいからね。段々とあ

大井田警察署の司法室に呼びこまれた一人の老婆がある。耕の筒袖袴を細帯でからげ、前掛地下足袋と云ふ風體、汚れ手拭を揉みながら古川部長の机の前に腰掛けた。

古川 おばさん、あんたは今日何の爲めに此處に来たか判つて居るかね。

老婆 判るもんか、あんた方から出て来いと云ふから来たんよ。

古川 何か心當りはないかね。

老婆 それあ、いつかのリヤカーじやなからうかなア。わたしのリヤカーをいつか此處の巡査が

んたの調べが遅くなつたんだよ。

老婆 あんたのところはそれでよかるうけど、わたし達は困るじやないか。

古川 一寸早かつても遅かつても同じことじやないかね。

老婆 同じことじやないよ。こつちはもう済んだかと思ふとつたところに罰金と云はれちや當が違ふよ。大體わたしがどが悪るいのかね。

古川 あのね、道路に物を置いて交通の妨害をすることは禁じてある。あんたがリヤカーを町の真ん中に置いて果物を賣りに行つて居ることが悪るいのじや。

老婆 ほ、う、それで罰金かな。わたしや之でもう三年からリヤカーを押して毎日果物を賣つて居るが、道路が商ひ場所よ。そんなこといや毎日罰金じやわい。呆れた。

古川 オイ、太平樂を云ふな。自分がよくないことをして置いて逆理窟を云ふとは横道者じや。そんな量見なら重く罰するぞ。

老婆 へえもう言ひません、どうぞ軽くお願ひ致します。

古川 自分の悪るいことがよく判つたか。

老婆 へえ、よく判りました。

古川 嘘を言ふな、まだ判つちや居らん。今俺が怒鳴つたから一寸縮んだのだろう。毎日毎日リヤカーを道路に置いて、果物を賣つて居るのにあの日に限つて罰金とられるとは受取れんと思ふて居らう。

老婆 あの日はよつぽど置きやうが悪かつたんじやろうなア。そしてあの日は巡査さん達が澤山脚絆がけで町を調べて廻つた日じやつたからなア。

古川 あんたが毎日リヤカーに果物を積んで賣つて歩くのは仕方もあるまい。只そのリヤカーを置き放しにして裏瀬戸の方まで手に持つて賣り歩いては道を通る者には邪魔になつて困るよ。

老婆 もうリヤカーは道には置かれませんか。

古川 置かれんなれば、あんたはどうするか。

老婆 此の商賣が出来んなれば、早速親子三人が路頭に迷ひます。わたしには今年九ツの男の子と七ツの女が二人居りまして、三年程前に主人に死別れ、物のないところに、わたしの手一つで子供をどうやらこうやら育て、居りますので、早速困ります。

古川 あんたが果物の商賣をすることをやめよとは言はん。車を停めて果物を賣るなら、道の左端の方に置き、成るべく人の通るのに邪魔にならぬやうにすれば、それでよいのだ。今度や

ましく言ふて居るのは、あの時あんたがリヤカ

ーを道の真中に置いて居つたので、取締の警官が誰の車か、たづねて見たんだが、さつぱり判らるので、警察まで引張つて来たんだ。そしてあんたが後で外の人から聞いて、うろたへて警察にとりに来た。巡查さんから叱られたけれど、あんたはよくわからなかつたが、果物の商賣もあるのでリヤカーは返してあげたのだ。あなたのやうな譯の判らん人には一度罰を喰はして思ひ當らしめねばいかんと考へ、今日の呼出しになつたんだ。

老婆 へえ、あの時はわたしは、バナ、を手に持つて裏の方の奥さん方に賣りに行つて居りましたよ。

古川 道理が判つたかね。

老婆 へえ、あんたのごと言ふてくれりや、よく

判るものう。

古川 罰金持つとるかネ。

老婆 わたしは貧乏人で、今云ふ通り毎日果物を小賣して親子三人がやつと食べて居る位で金はありません。

古川 罰金五十錢出さない、今もたねば二三日の内もつて来なさい。

老婆 罰金は五十錢ですか。そんならいま納めときます、取つて下さい。

古川 ふん、そんなら其の人に納めなさい。

相當狡猾な此の老婆も料料五十錢が意外にやすく感じたものゝ如く、悪るびれもせず納めて、ペコ／＼しながら立去つたのである。そのあとで古川部長は小使を呼んだ。

古川 安川御苦勞だがね。今そこに果物賣のおばさんが来とつたらう。あのおばさんがねえ此處

に五十錢落して行つたから急いで行つてこれを渡して来い。

小使 はあ、今そこを歩きよりました、直ぐ届けて来ましよう。

小使 は出て行つたが間もなく歸つて来て。

小使 古川部長さん、あんなえあのおばさんは落しちや居らんち言ひますよ。罰金を納めただけで外の金は落しちや居らんち言ひますがなア。

古川 いや落して居る、儂が現に拾つたんだ、此處で。

小使 罰金を違ひますか。

古川 罰金とは違ふ。罰金の金は先程、江藤巡査に渡してもうちやんと済んで居るよ。早くもう一べん行つて是非渡して来い。

小使 そりじや直ぐ行つて来ます。

小使 はや、暫くして歸つて来た。

小使 古川部長さん、五月橋の上でおばさんに追
つき無理矢理渡しました。

古川 さうか。よかつた。

小使 あのおばさん、自分の財布の中を全部掘み
出して勘定して、五十錢銀貨は五枚しかなかつ
たんモン、落しちや居らんやうぢやと言ふて小
首傾けて、じつと何か考へて居つたが、やがて
ポロ／＼涙を溢して両手に載せてやつた五十錢
銀貨を押戴きました。

古川 さうか。うむさうか。

古川部長は莞爾として微笑むのであつた。

三二 夜巡視

雨あがりの横須道の泥濘を長靴でトボ／＼歩く
一人の警部がある。午前二時頃。先方から一人の
巡査がやつて来る。

警部 オウ田中巡査、廻りよるねえ。感心々々、
御苦勞じやねえ。

巡査 署僚警部殿でしたか、失禮しました。御巡
視ですか。

署僚 うん、君達ばかり廻らして置いては濟まん。
時には僕も巡回して見んといかんよ。

田中 みんなやりりますよ。

署僚 いや、今も云ふ通り、巡視じやない、巡回
勤務じや。署僚も時には深夜の巡回もせねば月
給に濟まんからね。

田中 そんなことがありますもんか。あんた方は
あんた方のお仕事があります、巡回なんかされ
んでもよいでしょう。

署僚 だがねえ田中君、まあそう云ふ積りで巡る

んだ。だから君達は無暗に監督者をこわがると
いかんよ。君達は君達で監督者が巡つて来よう
と来まいと、定まつた任務を愉快に果し、休憩
する時間は安心して休むと云ふ具合に、明朗眞
實の意義ある生活をするんだねえ。

田中 有難ふござります。しつかりやります。

署僚 一寸交番で話さうか。オウ松井巡査やりよ
るねえ。

松井 どうも失禮しました、どうぞこちらへ。

署僚 松井巡査、君は休憩時間だろう、早く寝た
まへ。此の派出所の人は仲々勉強するねえ。

松井 署僚殿、私もあなたの知つての通り、拜命
の古いだけが自慢で、何の取柄もない人間です
が、此の頃少し變りました。

署僚 ふん、どう變つたネ。

松井 まあ見て下さい、先の事は云へませんから。

田中 實際松井さんの眞面目には感心です。

署僚 眞面目にやつて呉れ、頼む。今晚でもね何
もアラ探しに巡るのじやない。こうしてねえ、
みんな眞夜中でも、眞面目にやつてくれて居る
と、ほんとにこつちの方から敬禮したくなる
よ。今晚は殊に嬉しいねえ。

松井 署僚殿、私は今まで不平ばかり云ふて居り
ましたが、此の頃から眼がさめました。大體今
の警察の仕事はラク過ぎます。八時間勤務とか
云ふけれど、正味は幾らにもなりません。又正
味八時間やつたからとて大して骨の折ること
もありません。隔日勤務にしたつて、外の方
は徹夜のやうなことです。警察の普通夜間勤
務には五時間も休憩時間がとれますし、それで
月に十五日は非番とは、あんまりラクすぎます。

私は此頃から休憩時間でも出来るだけ書類整理をやつて居ります。どうせ、自分のする仕事だし、又早く片づけば愉快です。

署僚 此頃君の注意申報がよく出て居るねえ。松井君、今の君の考はよいぞ。警部も巡査も同じだ、もう少し積極的に工風して、手落ちのないやうな無理のないやうな考へた仕事をせねばいかんねえ。

田中 署僚警部殿なんかは、そんな御心配はいりません。

署僚 いや、どうして、毎日署長殿から注意を受けるんだよ。ボンヤリして居つてねえ。よく物を忘れるんだよ。ほんとうは熱が足らん。誠意が足らんと云ふ結論になるねえ。

松井 古川部長さんが、此の署に見えてから餘程皆變りましたよ。私のやうな者も兜を脱ぎまし

たよ。牛に引かれて善光寺詣りと云ふところで

署僚 古川部長は偉い人だよ。若いがねえ。

松井 いえ、年齢じゃないですねえ。徳ですねえ。

署僚 古川部長のどう云ふところに参つたかね。

田中 どう云ふところつて、總べてよいですなア。仕事の判らんことは一緒にしてくれませう。家庭の事まで氣をつけて下さる。此の頃は急に雨が降り出しましたら、近くに居る奥さんが合羽をとりに行つて下さつたり、御夫婦共行届いた方ですなア。

松井 私は、今じやかう申しますが、随分古川部長さんには世話をかけたもんです。古川部長さんの夜巡視は大てい夜中の一時頃からですが、誰も彼もよう一緒に巡回するのです。今晚も先程見へまして、宮の原の方へ巡られましたか、

古川部長さんは一寸違ふです「松井君、宮の原に行くから君、電話かけて置いてくれ」と云はれるのです。私共は此處が有難いのです。

署僚 ふん、豫告するのじやねえ。

松井 今頃は宮の原に行かれて、田上巡査と張込みでもして居られましようよ。私も此の横須の濱の方で古川部長さんと警戒した事がしばしばですが、此の前は二人で電線泥棒をつかまえましたよ。熱心ですねえ。

田中 私は一べん寝すごしましたら、古川部長さんに起され、田中巡査巡回の時間ぞと注意せられましたので、飛起きましたら、あわてんでもよい。よく巡察して来い。今晚何か事故があるぞ。のう。それから心中心配して巡回に出かけますと「田中巡査、始末書はいらんのぞ、心配するな」と云はれましたので、急に汗の出る程

嬉しくありました。今でも敬禮すると云ふより拜みたいやうな氣がします。

署僚 君達二人は古川宗じやねえ。あゝ今晚は感激の晩だつた。あのねえ、今晚はもう三時だがね、別に大したこともあるまい。俺が巡回して歸へるから、君達二人は今から朝の七時まで寝給へ。俺がこの日誌に書いて置いてやる。

松井、田中兩巡査朝七時まで就寢差支へなし

午前三時二分

署僚 (矢島)

三三 警察官の情操

昭和×年十月五日付を以て〇〇縣警部補に任ぜられ大倉警察署勤務となつた古川春吉は、既に七

歳の長男弘と二男通、やつと一年になる長女の綾子と云ふ三人の父であつた。妻のさつきは長女を産んで以來健康勝れず、靜養生活を續けて居るのであつたが、郷里には祖父の十三年忌法要もあり展幕なり、妻の轉地療養の爲なり、休暇を願出て許され今日八年目に懐かしの郷里に歸省するのであつた。列車の中では子供らは旅行の珍らしさにはしやぎ騒ぐのであつた。さつきは嫁いで初めての里歸りでもあり、主人が休暇をとり打寛いだ気分での一家族旅行は、ほんとうに嬉しいことであつた。

さつき あなた、あの通り子供が喜んでおますよ。

古川 子供も喜ぶが大供も愉快だろ。

さつき あなた、そんな皮肉を云ひなさんな。あなたも愉快でしょうが——。

古川 ウム、さうだ、これから毎月毎月旅行する

かね、愉快々々であんたの病氣も癒らうから——。

さつき そうね、だけど——。

古川 ほうウ、弘ちゃんケーブルカーよ、あれが——。

弘 あれ、ケーブルカーと違ふよ。

古川 繪本にあるのはほんとうのケーブルカー、これは山から石を運ぶケーブルカーだよ。

弘 嘘のケーブルカー？

古川 嘘じゃないんだが、違ふんだなア。

通 お父ちゃん見せてよ。

古川 そらこつちの窓から見なさい、そら見へるでしょう。

通 お父ちゃん「おたまじやくし」のやうだねえ。

さつき 通さん、面白いことを云ふね。

古川 「おたまじやくし」が深山行きよろう。

通 「おたまじやくし」はどこに行くの？

客 は、ムムムは、坊ちゃん面白かろう。

通 「おたまじやくし」はどこから来る？

古川 あつちこつちの山から来るの。

通 どうして来るの？

古川 セメントになりたいから、山から下りて来るのよ。

弘 お父ちゃん、セメントつてなアに？

古川 あのね、石を粉にしてね、又固めてね、銀行のやうなお家を造つたり、道路の上を固く塗つたりする爲めの石の粉よ。

弘 「おたまじやくし」をセメントにするもんか。

古川 あそこがね小田のセメント會社よ。それから大橋でお辨當を買ふよ、ねえ。

通 お父ちゃん、お辨當みんな来るの？

古川 みんな一ツづゝ買ふてあげるよ。

大橋驛で四人の辨當を求め、古川は二男にも優

さしく食べさせながら、

古川 實際此の近所は懐かしいねえ。

さつき 思ひ出が多いでしょう。

それから幾時間の後松坂驛に着いた一家族は、弟一家に出迎へられ、半道あまりの田舎道を楽しく話しながら懐しの我家に歸りついたのである。

八年振りに歸つた古川のこと、村中の者は代る代る歓迎の挨拶に来てくれる。父や母は今晚の御馳走の用意や、嫁や孫達の世話で仲々忙しかつた。それでもニコニコして村の人々にも溢るゝ愛嬌をふりまいて居つた。そして其の夜は更くるまで何や彼と語り合ひ一家は靜かに眠りに落ちた。翌日は祖父の法會とて父母や弟は早朝から忙しそうにかけまわる。午後になると、親族一門が集まる。夜に入り鐵涯和尚を迎へて法要回向は嚴か

に營まれ、引きつゞいて會食が催される。古川は先づ鐵涯和尚に疎遠の挨拶を述べたのである。

鐵涯 うむ、よく歸られたなア。さつきさんが具合が悪るいとか云ふのう。

古川 家内の病氣も大したことはありませんが、結婚以來歸りませんので、親類に御挨拶もあり又家内も暫くは田舎で靜養した方がよいと思ひまして――。

さつき どうもいろ／＼御心配かけまして済みません。

鐵涯 まあ、氣儘にするがよい。子供は仲々元氣がよいやうだなア。

さつき はい、お蔭で達者でございます。

鐵涯 何年になるかなア。

古川 家を出て八年になります。一人旅が五人旅になりました。

鐵涯 萬物流轉、諸行無常じや。何の不思議もない。まああり難く暮すことじやのう。

熊吉 春吉が官服着て歸つたのを見て和尚さん、僕も嬉しかつた。そら和尚さんあの服じや。劍も長くて光つとる。

鐵涯 ふん、御目出度いことじや。のう、熊吉さん、春吉さん、僕は少々心配して居る。あんたが警部補になり嬉しいのはもつともだが、此の田舎歸りに官服を着るところは少々浮いた氣持はないかとなア。僕が頼む、今までの通り、しつかり精進して警視にまで大成して貰いたい。僕は見んことでもない、此の邊の警部補でも、やゝもすればオツ取刀で肩を張つて歩き廻る。こうした輕薄者に何が出來ようか。腹も頭もあつたものではない。實際齒の浮く思ひがする。警察の幹部は重厚の態度であつて欲しい。

古川 和尚様、痛み入ります。私にはほんとうに修養が必要です。

鐵涯 まあ、さつきさん、苦世苦世せんで、天命を知ることじや。春吉さんは僕に聞いて無常觀は判つて居る筈じや。よく心がけて、夫婦共決定しなさい。春吉さん、何時か頼んだやうに僕の子供は坊主が嫌ひだから、寺はつがせん。僕はあんた方夫婦が我子のやうな氣がするよ。僕ももう六十八じやからなア。

靜雄 和尚様、私が御寺の養子になろうか。

鐵涯 お前は駄目じや。お前はお寺の田を作つて行けばよい。

三郎 春吉さんがなア、僕が田圃に居つたら、立派な官服着て、三郎さん、三郎さんと大きな聲で呼ぶじやねえか。びつくりさせられたなア。

鐵涯 ふん、その位でなけりやいかん。

春吉の母 和尚さん、それからあんた、昔友達ていもんなア。もう下の店で二人で五合飲んだぞうな。

三四 清麻呂公と警察官

阿部山公園は、さくらの名所として知られ、彌生三月のころとなれば、この地一帯は歡樂の坩堝と化するが、さすがに師走の寒む空となつては、誰一人この公園に足をふみ入れる者とてもなく、掃き忘れられた落葉が、霜柱にまみれた物淋しさは、實に人の世の明暗をそゞろに味はされるのである。

此の公園の山腹に訪ふ人もなきこの頃ながら、

「嚴然として聳へ立つは千古の祕事を傳へて、我が國體の神嚴を教へつゝある和氣清麻呂公の石像である。いま此の石像の前に直立し、無言の會話に感慨いや深きは大倉警察署勤務古川春吉警部補である。」

古川 公にはこの頃御淋しいでしょう。

公 いや、格別淋しいとは思ひません。私は此の小高い丘の上から世間を眺め、多くの人々が皆よく國家の爲めに働いて下さつて居ることを喜んで居ります。

古川 春にでもなつて櫻の花でも咲きますと、世間の有象無象が又浮れ廻つて、あなたの聖園を穢すかと思ひますと義憤を感じますよ。

公 ハ、ハ、ハ。あなたも仲々昂奮しますねえ。

ナアに櫻の花が咲いて大勢の人が花見にでも來れば賑やかですよ。

古川 花時に遊びに来て、あなたに禮儀でも盡す人が幾らかありますか。

公 やつぱりありますよ。花は花、道は道です。あなたのやうに感傷的ではよくないですよ。

古川 然し、あなたのやうに身を捨て、君國を護つて頂いたお方に對しては、浮いた考へで接しては非禮と思ひます。

公 古川さん、あなたは仲々堅い人ですが、人間世界のことはそう固く考へない方がよいです。私もこれで若い頃随分花見も致しましたよ。又酒も飲みましたよ。要は國家の爲めに花を見る國家の爲めに酒も飲むと云ふところですねえ。これならあなたに氣に入る話と思ひますが、どうです。

古川 花を見ることによつて浩然の氣を養ひ、酒を飲むことによつて正義を強めることになるな

らよいですが、花に浮かれ、酒に酔ふ享樂主義なら、絶対に排撃しますねえ。

公 まあそんなに窮屈に考へんで、人並のことはあなたもしなさいよ。肝腎のことは君國を忘れると云ふことだけです。日本人と云ふことをねえ。

古川 それです。その日本人を忘れて居る奴が大分居るのです。あなたの前で申し憎いですが、日本人でありながら英米の民主主義にかぶれたり、「我等の祖國ソヴィエト」と主張したり、誠に恐れ多いことながら、我が皇室に對し不敬な考へをさへ持つて居る連中も、近頃相當居るんです。

公 それはいかんです。魔がさしたんですねえ。あなた方警察官は、よくそう云ふ人々に理を説いて、正しき日本人たらしめねばなりませんね

え。只單に非國民と罵りつけ、とつちめて見たところではいかんと思ひます。よく道理が判れば日本人ですから必ず立直りますよ。

古川 困つた存在です。どんどん取締るだけです。

公 古川さん。共產主義は治安維持法とかで所罰も出来るやうになつたとか云ひますが、共產主義より、外の思想で國家の爲めに悪るいものはありませんか。

古川 あります、それがあなた自由主義とか個人主義とか云ふ奴で、外來の悪思想です。之を取締る法律はないので困つて居ります。

公 本來思想と云ふものは、失禮ですが警察の力で取締おほせるものではないのです。思想を革めるには思想を以てせねばなりません。今日の警察の方々が共產主義の取締に困つて居られる

ことや、自由主義個人主義の取締法規がないからと云つて、苦に病むで居られることはよいとしまして、此の思想對策が法權的な劍の力でのみ爲されると思つて居られる人があるならば、大變な間違ひです。先づ斯様なことには、自身自身が眞個國體の本義に徹して居ることが肝要で、之によつて不逞の徒を導くと云ふ素養が絶對に必要です。警察が否司法權發動によつて力で強制するだけでは駄目です。そんなことを何年續けても、不逞は形を變へて現はるゝまでです。警察は自身の國體明徴から他の部門の國體明徴運動や思想善導の對策と緊密の連絡をもつて仕事をすることです。

古川 よく判りました。個人主義、自由主義に取締法規がなくつても、警察對策はあり得ることが判りました。共產主義を過激な思想と云ひ、

そうでない思想は一應穩健な思想と見られて居りますが、よくよく考へると、此の穩健の思想かのやうなものが、仲々に君國に禍を爲すことを恐るゝのであります。

公 古川さん、よく氣がつかれました。その穩健の思想と云ふものが危いのです、その思想はあなた方警察官の中にも相當込み込んで居りますぞ。都市にも農村にもありますぞ。眞の日本精神を振興して、政治の基調とし、警察は大御心を奉體した皇道警察でなければならぬのです。昔のことですが私の事件の發端は、云はば其の穩健の思想です。九州の人々に申し憎いですが、太宰府の主神カムツリカサスツで習宜の阿蘇麻呂と云ふ人が、宇佐八幡の御神教などと勿體らしく、道鏡を皇位につかしむれば天下が太平になると申立てたんです。勿論道鏡に詔つて恐れ多いことを

申上げたんです、自分の出世の爲め立身の爲め君國を賣るふとしたんです。自分さへ都合がよければ君國がどうあらうと構はんと云ふやうな非國民的行動です。今日はどうか知りませんが、其の當時の人々にも支那式の悪い思想が相當にありました。それが下民でなく上民の階級に多かつたんです。それがあの習宜の阿蘇麻呂によつて代表され、道鏡によつて實踐しつゝあつたんです。あなた方がさき頃八釜しく稱へて居られた天皇機關説位のことではなかつたんです。

古川 はあ、實際あの場合には非常の大時局でしたねえ。全くあなたによつてあれが立派に治められました。後昆の者等しく感謝感激です。

公 今だから申しますがねえ、實はあの時に私は身を殺して、道鏡の一命を取らうと思ひました

が、よくよく考へて見ますと、成程道鏡と云ふ大頭を倒せば一時はおさまるかも知れませんが今申す通り、日本國民、就中上民階級の思想が悪くなつて居るのです。對策を過るとその次に大變が起つて來んとも限りませんので、この思想に對する思想行動を取り、神國日本の國體明徴の爲め乗り出し、神ながら日本臣民の血を享けた當時の日本人にアツと云ふ大刺戟を與へたんです。それにしても、其の對策が神の加護によつて成就致しまして以來、私は上の寵遇を辱ふし、世間の人々に忠節者として認められて來ましたが、私がこうなるまでには姉君の廣蟲が蔭の力となり、私を育て私を勵まして下さつたからです。私が今護國神社として京都の御所近くに祭られ、正一位まで贈られて居りますが、私と一緒に合祀されて居ります法均尼廣蟲と云

ふ私の尊い姉君のことは、世間の人々が餘り敬慕して居ないことを遺憾に思ひます。若しも私を思ふて下さるなら、同時に私の姉を尊敬して下さい。偉大な日本女性です。

古川 御尊志辱なく、只管恐縮致します。今日の思想對策は只罪を未發に防ぐやうな事勿れ主義でなく、眞に國體明徴の積極的方策が打建てられなければなりませんことを痛感致します。

公 畏れ多くも稱徳天皇様は、阿蘇麻呂の所謂神教奏上について御宸襟を惱ませ給はつたのであります。左大臣藤原の永手さんも、右大臣吉備の眞備さんも、忠節なる輔弼をなさなかつたのです。そこに私の姉廣蟲は女官として御仕へ申して居りましたが、宇佐八幡様に御勅使を立て、再度の御神託を請ひまつることを内奏申し上げたんです。其の時、天皇様には其の勅使に

立つ人物について御軫念遊ばされましたが、その時、姉はその重大の御使を身をもつて果たす者は從五位下の微臣ではありませんが、私の弟清麻呂の外にありませんと内奏申上げたんです。

古川 それであなたは御勅使となり、九州に下られて此處に宿られたのですか。

公 そうです。此の地で精進潔齋して宇佐に赴きました。宇佐八幡に參籠して、或る夜まざくと御神託を受けましたので、急いで都に歸り御神託そのままを宮中に於いて莊嚴に奏上致しました。實際日本人全體の血が一度にほとばしつたやうな氣持でしたよ。

古川 痛快でしたらうねえ。其の時は――。

公 古川さん、花を見てもねえ、酒を飲んでもねえ、日本人の心さへ腐つて居なければ、イザと云ふ時にはやるねえ。あなたもやりなさいよ。

とがある。

田中巡査に言はれて親子は主任の前に腰をかける。古川は娘を見やり、靜かに

古川 一寸あなたに訊ねるがね、あなたは娼妓になると云ふんだが、その娼妓と云ふものはどう云ふことをするものか知つて居るかね。

娘 はい、知つて居ります。

古川 知つて居るかね、知つて居ればよいが、いまの娼妓と云ふのは昔の女郎のことだが、あなたが田舎芝居で見たやうな、又た繪で見たやうな、又た浪花節で聞いたやうな女郎とは一寸違ふぜ。逆も辛いことがある。辛抱が出来るか。ウチが困つて居りますから、大抵のことは辛抱します。

父 はい、よく承知して居ります、辛抱しきります。

三五 營業主任

大倉警察署營業係に娼妓登録に出頭した親子がある。父は五十路を越した胡麻鹽頭、田舎者にしてはマントと云ひ帽子と云ひ、又た敷島の煙草を手慣れに吸ひ散らすところ遊び手らしい。娘は十七八の花盛り、丸顔の色白で、まだ人ずれしてない純な姿態のある女。今營業係内勤巡査と登録手續について會話中である。營業主任古川警部補は

古川 おい田中君よく調べて見たかね。

田中巡査 はい、よく聞いて見ましたが、別段間違ひもないやうです。

古川 あゝそうか。儂が一寸娘に聞いて見たいこ

古川 君は黙つて居れ、娘に聞いて居るのじや。
娘 よく承知して居ります。異議はござりませ
ん。

古川 警部補は今の娘の一言に不審を抱き娘の姿
を見やり、臆て父親の態度に眼を轉じた。そして
出願の動機に不純のものゝあるを直感したので、
娘に向ひ

古川 ほんとは承知して居らんのだろう。父親に
攻められて仕方なしに承知したんだろう。

娘 いゝえ違ひます。

古川 嘘を云ふか。今あなたは「異議はござりませ
せん」といふたが、あれは何と云ふことか譯を
云ふて見なさい。

娘 ……………

父 嘘じやありません、確に承知して居ります。

古川 君は黙つて居れと云ふに——。

父 はい。

古川 あんたは娼妓になることを承知したと云ふ
が、娼妓と云ふものは身を切るやうな辛いこと
のある仕事と云ふことをよく知らんのだろう。
それを知つて居れば承知する筈はない。

娘 詳しいことは知りませんが、父が大層お金に
困つて居りますから——。

古川 知らねば云ふて聞かせよう。娼妓と云ふも
のはねえ、毎晩客を取つて、嫌な客でも身を委
かせて慰み物になるのだ。それだけ云ふたら子
供でないから判るだろう。どうだ、そんな辛い
ことをせんでも、他の仕事を働いて父に加勢を
したらどうか。

娘 實は外の奉公の方がよいと思ひます。

古川 それがよい。親孝行もよいが、方法も考へ
なければならんのう。それでよいとして今度は

親権者の父親に聞くがねえ、君は岡山縣の人で
職業は農業となつて居るが手を見せろ。

父 はい農業ですが、持病の胃がせきまして精出
して仕事が出来ませんので、困つて居ります。

古川 仕事をした手ではない、遊び事でもする掌
だ。どうだ、違ふか。

父 モシ、私しやそんな者じやありません、調べ
て見て下さい。

古川 調べんでも判つて居る。農家のおやぢには
少し出来過ぎる。此の娘を賣ることはならん、
連れて歸れ。

父 モシ、どう云ふ譯でしょう、本人も承知して
居るのですが、そして私は此の娘の實父です。

古川 本人は承知しては居らん。又君が此の娘の
實父なら尙更のことだ。こんな純な娘さんを賣
るのは實際可愛さうじやないか。

父 可愛さうですが、今私の家が借金で家屋敷も

人の手に渡ろうとして居るところです。娘も辛
いことは知つて居りませうが、親孝行に承知し
て居るのです。

古川 そんな親孝行をさせるな。借金で困つたつ
て命まで取られはせんよ。例へ家屋敷を取られ
たつて子供を賣るなよ。何か外に方法を考へる
がよい。

父 モシ、私は此の娘の親です、外に方法がつか
んから働いて貰ふのです。

古川 おい、何んと云や親、親と威張るなよ。日
本人はねえ、我が親に對しては親、親と敬ふて
孝行をするやうに傳統づけられては居るがねえ
君のやうに、子に對して親、親と云ふて孝行を
強ふるやうなことは道にないのだ。

父 それは判つて居ります、私もこの娘を長い年

月養ひ育てゝ來たんです。好まんことではありませんが、娘が親孝行に承知をしてくれて居るのです。貧乏人の子は大きくなつたら働いて返して貰ふのが普通です。

古川 ナニ、貧乏人の子は皆働いて返すんだ。馬鹿も程々に言へッ。君達はねえ對償をもつて子供を育てゝ居るのか。よく考へて見よ。子の前で言ひ憎いことだが、親と云ふ者は子に對して大した恩はないんだぞ。よく考へて見よ。自分の生んだ子なら自分が育てねばならんのが普通の義務だ。卵を買つて鶏を養つて、大きく育てて賣つて儲けるのとは違ふぞ。先程も云ふやうに、日本人はねえ、子と生れては親に孝行をすることが人の道になつて居る。君の娘さんがする親孝行は感心だ。日本人の娘として感心だ。然し、親孝行の爲めなら、泥棒してもよいと云

ふことはない。親孝行の手段と方法は考へねばならん。芝居を見給へ、親孝行の爲めの賣淫を又泥棒をしたことを知つた貧苦の中の親が、どんなに嘆いたか、日本人ならよく判る心持だ。君は親孝行したか――。

父 はい、両親の生存中は、出来るだけ盡しました。

古川 ウム、出来るだけか。それが君の逃げ道だ。眞に親孝行したやうな人間が最愛のわが娘を賣るか。君のやうな人間が今の日本に多くなつて居ることは困つたもんだ。娘が娼妓になり、客の遊びものにされて、親の君がマントを着て巻煙草のんで氣が済むか。どうだッ。

父 はい、よく判りました。もう此の願は取止めます。

古川 家屋敷を人手に渡しても此の娘を賣るな。

愈々困れば此の大倉に一家引越して來い。私が生活の爲めの世話をしてやる。君は小使でも働け、娘さんは工場にでも出せ。そして一家睦まじく、人並の生活をせえ。

二人 どうもあり難うござぬました。

父と娘は警察署を立ち出たのであつたが、古川警部補は其の後姿を見送りながら

古川 田中君、あゝして道理の判つた風して出て行つたが、あの親父にあの娘、自然又他の方面に周旋を得て、娼妓稼ぎに落ちるのではあるまいかねえ。

田中 判りませんねえ、あの親父じや。

古川 まあ、今日は大御心に副ひ奉つたやうな仕事をしましたが、どうも徹底せぬことだねえ。

三六 妻の最後

故郷の實家に在つて母の手厚き看護を受け、靜かに病を養つてゐた妻のさつきは、その歳も暮れ正月も過ぎて彼岸櫻の咲き初むる頃、熱も平熱となり、氣分も餘程勝れて來たが、食事の進まないことが怪しく、此頃は體も大變に衰弱して來たのが誰の目にもつくやうになつた。両親も口には出さねど、萬一の急變を慮つて古川警部補の歸省を促がした。驚いて許しを受け歸郷した古川警部補は、早速妻を病床にたづねた。

さつき あゝ、あなた、どうしてお歸りになつたの？

古川 静かにしなさい。あのねえ、あんた方と別れて大分長くなり、一寸暇も出来たから、あんたや子供に會ひに来たんだよ。然し、一晚泊りじゃ。

さつき あゝ、そりやよかつたですねえ。お母さんに大變大切にして貰つて、罰が當るやうに思ひますわ。

古川 ほんとお母さん濟みませんねえ。お世話かけます。

母 いゝえ、世話は構はんが、あんたが一人暮しで毎日困つて居ることゝ心配ばかりして居る、あんた。さつきも熱はないが、どうも食が進まんで困つちよるがえ。

父 春吉さん、心配するな。死ぬる時や死ぬる、死なるときや死なん。

古川 全くそうですが、もう一度は癒つて貰はね

ば困ります。

さつき あなた、妙なことを言ひますが、わたしはもうチャーインと考へて居ります。

さつきはかう言ふて暫く言葉が出なかつたが、涙は止めどなく流れて頬を傳ふのであつた。父も母も用事に見せて座を外づして古川も無言のまま一寸庭の方を眺めて居つたが、眼には銀の露が宿つて居た。

古川 さつき、そんな氣の弱いことを云ふなよ。

三人も子供があるじやないか。しつかりして居つておくれ。

さつき あなた、その子供のことが……。

古川 泣くな、病氣に悪るいじやないか。

さつき あなた、わたしはもう覺悟して居ります。

わたしが死にましても、あなたが居りますから子供のことも……。

古川 もうそんなこと云ふな。

さつき あなた、ほんとうは、忙がしいのでせう。

この後わたしが急に悪るくても歸つて頂かんでもよいです。愈々の時は……。

古川 弘や通は何處に行つたの？

さつき 安田の方が淋しいからと云ふて、此の三日程前に静雄さんが迎ひに来ましたので、弘も通も喜んで行きました。綾子は今近所のおぼさんが抱いて行つてくれました。皆、元氣です。

古川 一寸、それじや安田に行つて來う。直ぐ又歸つて來るからねえ。

さつき えゝ、直ぐ行つていらつしやい。皆喜びますよ。

其の夜古川は半里ばかりの實家に歸り父母や弟に感謝し正嚴寺の鐵涯和尚を訪ね、再び妻の病床に在つて懇ろに看護するのであつた。翌くる日の

正午過ぎ、後に心を残しつゝも歸任の準備を始めた。

古川 それじや、もう時間じやから病人は宜しく頼みます。さつき、しつかりせんといかんよ。

さつき あなた、わたしのことは心配せんで下さい、大丈夫です。あなた、まだ寒いですから、あのチョッキを着て居つて下さい。風でも引くと大變ですよ。

古川 うん、判つた。用があつたら直ぐ手紙を出しなさい。それじや——。

さつき あなた、氣をつけてね。

古川 もう、起きんがいゝ。皆さんお邪魔しました。お願ひします。

母 それじや春吉さん、不自由だらうがなア。

父 こつちのこたア心配はいらん。

古川 それじや行つて参ります。

と言ひつゝ病妻をチラと眺めたが、さつきは何故か壁の方を向いて顔を見せなかつた。列車の人となつた古川は、妻の覺悟の生別を思ひ、悲痛斷腸、冥想到時を過ごした。

歸任後一月ばかりを過しての或日、愛妻の訃報に接して歸郷したのであつたが、妻は病革まり、危篤に陥つても、夫古川を呼び寄せることを固く遮り「わたしもう、先月主人が歸つた時、立派に別れをして居ります、今度は愈々佛様になつてお會ひする」と云ふのであつた。

熊吉 春吉、さつきさんはのう、立派な往生じやつたぞ。

母 一寸も未練なことは云はんじやつた。

鐵漕 古川君、さつきさんは大往生じや、誰も及べんことじや。一切の恩愛の絆を斷つて、靜かに般若の船に乗らつしやつた。古川君、あんた

て居りましたが、無常觀の道理を諦らめ、靜かに命の定まるのを待ちつゞくる内、未練がましく此の文を書き残し、お別れの言葉と致します。思ひかへせば、わたしと云ふものがあなたについてからあなたに幸福を與へたことは何一つなく、總てはわたしの爲めの優しい世話事に終らせました。ほんとにあなたをお可愛想に思ひます。子供が出来てから後のあなたの御苦勞は、氣の毒に存じて居りました。わたしも何卒して御恩に酬いたいと、常日頃心にかけては居りましたものゝ、何も出來ずに先立ちますること、申譯がござりません。子供のことは宜しく御願ひいたします。あなたを尊敬し、あなたを信じて居りますわたしは、今後、あなたのなさること總てを喜びます。あなたが幸福になられることなら、早くあなたの信する方を子供の母親に

も修養せんと負けるぞ、一番大事なことじや。

古川 和尚様、こんな筈はなかつたのですが、今の私はフラフラです。全く駄目です。

鐵漕 そんな事だらう。信仰のやり直しじや。しつかり決定するのじや。よいかた。結局は一人じや。その一人も結局は死じや。迷ふこと勿れじや。

實母 春吉さん、これはなア、さつきの寢床の下に敷いてあつた、あんたへの書置らしい。いつ書いて居つたやら――

古川は愛妻の遺書と聞いて急いで佛前に封を切り、一人靜かに讀むのであつたが、涙は滂沱として流れ、小手は自ら慄くの覺へるのであつた。

お別れの言葉

先日あなたとお別れした時、もう此の世でのお別れと心を定めましたものゝ、何かと思ひ煩つ

なつて戴いて、其のお方が子供の我儘を許して下され、可愛がつて下さるなら、そして、一家が平和で楽しく暮して行かれますならば、わたしは草葉の蔭から喜んであなた方をお護りします。どうか一日も早く子供の爲めに、あなたの方見つけて下さい。若しあなたが長く獨身で子供と離れ、毎日淋しく過されるならば、わたしはあなたが可哀想でなりません。わたしのことをお思ひ下さることはあり難いですが、わたしの心に残ることは、あなたのことです。あなたや子供の幸福のみ希ふわたしには、法養回向よりも、あなた方が健やかに楽しく生きられるまで生きて下さることが、第一の望みです。どうかお迷ひなく願ひます。わたしもあなたのお導きで、どうやら靜かに安心して往生が出來

ようと思ひます。何も彼もあなたに御禮を申します。あなた、男ですから泣かずに居つて下さい。あなたの涙はわたしの涙となります、あなたが笑へばわたしも屹度笑つて行きます。あなたの幸福を祈り、名残りは盡きませんが、思ひ切つてお別れの言葉を終ります。さようなら。

さつき

三七 參禪する警察官

此處は名にし負ふ高多の名刹正福禪林、山門の扁額には「扶桑最初禪窟」と御鳥羽天皇の御宸筆いとも長く、境内は幽邃閑雅、老松枝を交へて松籟颯々たる所、伽藍莊嚴にして法燈永へに清

し。今し撃柝の音嚴かに響けば靜寂無爲法苑の燈火かすかにゆらぎて、寒氣肌膚を刺す臘月十日の未明。

老師東琢和尚は、老眼鏡を鼻先に載せ一座を靜かに睥睨しながら徐ろに唇を開かれ

老師 在家居士の方々、御修行奇特に存じます。

座禪觀法のこと難中至難じや。好奇の修行ごと全くの徒ら事じや、寒いばかりじや。眠いばかりじや。そうじやと氣がついたらサツサと歸つて自分の氣の向いたやうにすることじや。よい哉、來る者は拒まず、去る者は追はずじや。判つたかな。そこで又碧巖錄提唱じや。

「至道無難唯嫌揀擇」と云ふ言葉がある。これは有名なる趙州和尚が疑を抱いた一僧から問はれた言葉である。ところが、趙州和尚は「あゝ其のことか、それは先年納に問ふた者がある納は

五年此方其の言譯も出来ないで居る」と答へたのであつたが、後に雪竇和尚は或る宗道者に矢張り其の事を問ふて見た。すると其の宗道者はまだ問も終らないうちに「畜生、畜生」と答へた。之れを聞いた雪竇は驚入つて舌を卷いたと云ふことである。此の宗道者と云ふ人は、酒好きで何處で飲むか毎日酒ビタンになつて居た。村人は彼の徳を敬ふて、毎日濁酒を供養して居た。飲酒と云ふことは、佛の禁戒中にあること故、破戒者として誘ふ者もあつたであらうが、形式に囚はれざる者になると、平氣の平左でそして道を違へるものではない。然し仲々六ツかしいことじや、どうじや判るかな。判らねば判らんまゝじや、感違ひをせんことじや、それから佛教では、木佛、金佛、泥佛を禮拜すると云ふ點から、偶像教であると罵る向もあるやうだ

が、問題にならん。丹霞和尚は木佛を薪木として尻をあぶつて見せたと云ふことさへある。木佛何ぞ、金佛何ぞ、眞佛の光に觸れるのじや。

一木一草路傍の瓦礫にも大光明が發せられて居るのじや。昔宣宗皇帝が黃檗禪師の許に行かれ「禪門に於ては佛についても求めず、法についても求めず、又僧についても求めずと云はるるに禪師は佛像を禮拜されるが、何か佛に求めらるるのではないか」と問はるれば、禪師は「佛に求めず、法に求めず、僧に求めず、而も禮拜すること斯の如し」と答へられた。こゝじや「拜まんて拜む、拜んで拜まん」のじや

座禪して京の五條の橋の上往來の人を

御山木と見て

座禪して京の五條の橋の上往來の人を

そのまゝに見て

其のまゝに見る座禪じや、六ツかしい。

提唱は終り、座禪三昧に入る。一堂寂として聲なく靈魔迫まる。暫くして師家は立つて各居士を正す。

古川春吉居士は、公案「隻手の聲」に一念するのであつたが、雑念迷妄縲々として盡きず、辛ふじて座禪の形體を支ふるのみであつたが、後に廻つた師家は古川居士に慈棒を三下された。

師家 此の役人がいかん。警部補の鼻柱が高い。和服を着ても、此の肩に金の肩章がついて居る。古川も何にもない。

と罵られて居たが、師家は次ぎ次ぎと居士を正され、適切な示唆教化が行はれたが、師家は再度、古川居士を打たれ

師家 これは又冥途の妻と問答か。子供が可愛いいか。いかん、いかん。一念に一念に。

その時恰も古川居士は愛兒のことを思ひ浮べて居たので、ギョツとして汗ばむのであつた。

座禪修行三十分にして參禪のことゝなつた。順を追ふて老師の方丈に入り公案の詮議を受くるのであつた。古川居士の順番となる。老師の部屋の入口に両手をついて最敬禮し、老師の言葉待つのであるが、横向きになつて居る老師は居士を見向きもせず、古川居士は再び両手をついて最敬禮をする。矢つ張り老師は見向いてくれぬ。居士は暫くして三度禮拜したが、更に老師の言葉がない困つたなアと思ひ迷ふ内、そうだツと下腹に力を入れ

古川 隻手の聲——と大聲を張り上げた。

老師 隻手の聲が聞へたか。

古川 聞へません。

老師 何を聞きよる。耳をすまして聞くのじや。

古川 聲小にして聞へ難し。

老師 聲にして聞へず。

古川 聞へます。

老師 何と聞へる。サア何と聞へる。

古川 ニヤオンと聞へます。

老師 ニヤオンは猫じや、隻手の聲は何と聞へる。

古川 モーと聞へます。

老師 たわけ者、モーは牛じや。サア、何と聞へる。サア、何と聞へる。

古川 本來空。

老師 本來空は本來空。隻手の聲じや、此の聲じや。

古川 聲あり、名なし、言なし。

老師 聲あり、心耳を開け。

古川 心聲、心耳。

老師 心聲、心耳、それからどうじや。

古川

老師 サア、聲が啞に早變り。

古川

老師 退がれツ、か——つ！

あわれ古川居士は心膽ごとく奪はれ、フラフラの體たらくにて引退がり、一人靜かに下山して歸途についたのであつたが、××行列車の中に黙想すること少時、豁然として開け行く心境、丹田をたゞいて決意するところがあつた。

三八 日本精神論

大倉警察署の署長官舎。今宵は恒例の代表座談會。床を背にして正面は署長高野警視、其の左右

には上原署僚警部、古川警部補、山田部長、春山
巡查、玉井巡查、佐藤小使、月野給仕の八名。

署長 さあ皆お茶を喫んでくれ給へ。そして今晚
は仲々よい顔が揃ふたやうだから、面白い話や
爲になる話を澤山してくれ給へ。何時も云ふ通
り、各代表ではあるが上も下もない、自由に考
へを述べてくれ給へ。但しお互ひに人の非を罵
つて喧嘩にならんやうになア。

上原警部 佐藤さん、一席やらんかいな。

佐藤 小使が先に言ひますもんか、まあ皆から聞
かして貰ひます。

山田部長 佐藤さん、此の前の時は古田さんが大分
氣焰を上げたそうだねえ。

佐藤 ありやほんとのことですよ。實際困りより
ましたなア。

月野 お使のことはほんとうよ、給仕も弱つて居

つたんよ。

春山 共同戦線が始まつたやうだね。

上原 うん、此の前のお使問題か、あれは實際よ
かつた。澤山の署員から思ひつき、買物にやら
れては小使もたまらんからね。

佐藤 小使ですからお使に行くのは喜んで行きま
すが、お使から歸つて来りや、そら行つて来い
又そら買つて来いでは掃除も出来ねば外の事は
全く出来ません。あんなことじや小使が十人居
つても手は足りませんなア。

古川 小使さんが云ふことには、道理はあるが不
平顔してお使をするやうでは考へが違ふぞ。

上原 そりやそうじや。無理なことを平氣で強い
てはいかんが、小使は小使らしく働かんといか
ん。二つ以上のことを一時にせよと云ふ者は居
るまいからね。

佐藤 署僚さん、それがあから困りますので、

或る人から命ぜられたことをして居りますと、
或る人が又用を頼むことがあり、前の人の用を
して居つた爲め、後の人のことが出来んで居り
ますと、何をして居つたか、まだ行かんか、ま
だせんかと八釜しく云はれます。ほんとうに一
時に二つの用事は出来ませんねえ。

古川 出来るだけのことを眞面目にさへして居れ
ばよいではないかね。苦しんだ顔をしたり、妙
な口返事をするこはいかんぞ。

玉井 佐藤さん、小使ばかりではない、内勤巡查
でも同じことよ。自分本位のことを云へば、モ
ウ少し手順よく使ふて貰いたいと思ふことが多
いのだが、上の人には上の人の役目がある。我
私の考のやうには行かんものと思ふ。それで、
今古川警部補さんが云はれる通り、それ／＼の

役目に於て、出来るだけのことを眞面目にする
までよ。

山田 さうだ、無理があるか、手順が悪いかは
又見る人が見てござるよ。

署長 山田部長、いゝところを一本打込んだのう。
全くだ。上の者に監督の明がないと差障りの本
じや。小使を使ふにも給仕を使ふにも、町の買
物のやうなものは、纏めておいて、一時に行く
とか、急がんで用事は序を待つてさするやうに、
署員は考へて貰ひたい。又小使や給仕は用事を
命ぜられて嫌々にするやうではよくない。時に
は無理なことがあつても、従順に忠實に働くこ
ろに小使や給仕の値うちがある。又有難味と
云ふものがある。皆思ひやつて仲よく自分自分
の仕事に精出せば、それが集まつて大倉署の仕
事になるのだ。

春山 日本精神を發揮するんですなア。

上原 春山君、偉いことを云ひ出したねえ。

署長 ふん、日本精神、よかろう。古川君一つ日本精神論を一席やつてくれえ。

古川 はい、私はわかりません。

山田 此頃のやうに日本精神を發揮せよとか、日本精神に還れとか、八釜しく言はれますと、一寸變に考へますねえ。

上原 變に考へるとは、どう云ふ風に――。

山田 日本人に對して日本精神を發揮せよまではよいとしまして、日本精神に還れとは何か外國にでも逃げた者に云ふやうに聞へます。

上原 さあそこだ。日本人でありながら、日本精神を出さないで、外國精神を出す者があり、日本人でありながら外國の思想の虜になつて居る者が、相當澤山にあるから、そう云ふ言葉

が盛んに用ひられるのだ。

署長 そこだ。大事なところだ。日本人としては實は恥かしい譯だ。そう云ふて居る自分達も仲危いのじゃないかね。修養せんといかんねえ。

玉井 いつか、改造の座談會の記事にありました。或る人が、日本精神は東京には見ることが出来ない。地方の農村に行くと見られると云ふて居りましたが、實際都會地では自由主義、個人主義で、自分さへ利益なれば他人はどうでもよい。國家や社會のことは、どうでもよいと云ふ者ばかりで、實際仕事をして居る中にも義憤が起ることがありますよ。

古川 署長殿、日本精神を端的に説明して下さいませんか、小使さんにも判るやうに。

署長 いや、儂も日本人だから日本精神は持つて居るが、一寸一口に言へると云はれても困るねえ。

世の爲め思ふこと多くして

曉のねざめ靜かに思ふかな

わがまつりごといかゞあらむと

日本はねえ、神國だろう。神様の國だから神國の心と云ふものは、神様の心であるに違ひはない。神様の心を眞直ぐにお受継ぎになつて居られるのが、天皇陛下であるから、現人神と申上げて居る。だから、日本精神は、天皇陛下の大御心だと申して間違ひはないと思ふ。天皇陛下は總てのものが幸福にあるやうに、常に大御心をお用ひになつて居られる。甚だ畏れ多い話しになるが、天皇陛下には自分さへ幸福であれば他の人々はどうかあつてもよいなど、御考へになることは絶対にないのである。それどころか常にお祭りをされて、皇祖天照大神様の神意に叶ひ、下萬民の幸福のための政治を遊ばすことに、大御心を御用ひになつて居らるゝのである。明治天皇様の御製にも

夏の夜もねざめがちにぞあかしける

と云ふのがある。即ち多くの人々に幸福なる生活させようと御軫念遊ばさるゝのである。此の大御心が日本精神であると儂は信じて居る。我々の祖先が長い間、此の御歴代の大御心に恵まれて來て居り、此の大君の爲めならば大切な一命を捨て、顧みない、忠義が立てられ、斯くあることを親は善き子と喜び、大孝となるのである。此の祖先の血を受けついで我々は、此の尊い傳統を壊さずに子孫に傳へねばならぬ譯だねえ。だから修養せんといかんよ。

古川 此の頃は誰も彼もが自己本位で頭に國家だの社會だの本當に考へて居るものはないやうです。國の強權政治で眞の天皇政治に建直さねば

なまやさしい事では日本は潰れますよ。

上原 それだから政府も今から國民精神を作興して居る譯だねえ。

春山 日本精神を強調されて居りますが、甚だ申憎いのですが、私見たやうな若い者には、古事記とか日本書紀がピンと來ないのです、なんとか理論的に理解の出来る説明が願ひたいです。

署長 若い人々はねえ、理論的でないし承知がいかんやうで困つたもんだがねえ。日本精神原理を強いて理論的に學者の人達がねえ、造り上げても、どうしても無理が出来るのよ、大體ね、我々の祖先は言擧げせざる國民と言はれ、我々に理論を残してないのだよ、残されて居るものは祖先の遺風である。此の遺風に我々日本國民の日本精神が含まれて居るのよ。其の遺風の顯著なるものは、皇大神宮を絶對的に崇拜する、

氣持でねえ。

佐藤 へえ、そうでございます。

三九 世間の爲めの警察

新任巡查八名の教養主任古川警部補は一同を幹部當直室に集め、安座を許し、徐ろに訓育するであつた。

古川 君達は縁あつて此の福坂警察署に勤務することになつたのである。此の因縁を有難いことに考へ、警察の爲め福坂署の爲め、腰を下ろして眞面目に働くことにより國家への御奉公を果して貰ひたい。今日はねえ、此處で打寛いで話をするからよく聞いて心得としてくれ給へ。山

萬世一系の皇室を尊崇する、神國として外侮を受ざる自信、祖先崇拜であり、歸するところ忠孝である。即ち理論なしに、君には忠であり、親には孝であらねばならぬと云ふ傳統觀念に基く實踐のみであつたのである。個人主義ではないかん。自由主義では駄目だ。君國の爲め人の爲めに盡す眞心が、日本精神だ。此の頃の若い人達は、學問をし過ぎて眞の道理が判らん。おかしいやうだが我々の祖先が朝起きて東に向かつて拍手を打つて、天照大神様と、太陽を御神體に皇祖を拜むあの敬虔な日本人の姿は、若い人には判るまい。理窟は抜いて、毎朝東天を拜し君國の御榮を祈念しやうではないかね。

佐藤 署長さん、私は若い時から毎朝お天道様を拜んで居ります。

署長 あゝ、それはよいことじゃ。その拜む時の

口巡查——、

山口 はゞ。

古川 君は「らつきよう」を知つて居るか。

山口 はい、あの食べる「らつきよう」ですか。

古川 そうだ、あの「らつきよう」を畑から掘つて尻口を摘んで、奇麗に洗ひ上げたものは、見れば美しいが、どんな味がするかね。

山口 あれはガチ／＼してブーンと鼻を突く嫌な臭ひがします。

古川 はゝあ、成程其の通りだ。僕が練習所を卒業して警察に行つたら、ある監督者から「らつきよう巡查」と言はれ、一寸不愉快に感じたことがあるが、よく譯を聞いて見ると、仲々面白い。濱田巡查、話が判るかね。

濱田 「生らつきよう」で味のなきことゝ思ひます。

古川 練習所を卒業したばかりの巡査は、まあ一寸薄皮を剥いで尻口摘んで水桶に入れてゴシゴシ洗ひ上げたと言ふ程度の「らつきよう」のやうなもので、「らつきよう」の姿ではあるが、ほんとうに人の賞味する「らつきよう」にはなつて居ないのだ。巡査の姿は出来て居るが本當に味ひのある巡査にはなつて居ない、山口巡査の云ふた、プーンと鼻を突くやうな、嫌な臭ひだけが高い「らつきよう巡査」と云ふ譯だ。川邊巡査、判るかね。

川邊 はい、判ります。

古川 そこで、其の生の「らつきよう」は、今一度酔の中に飛び込み、砂糖の洗禮も受けて立派な「らつきよう」になつて役目を果たさねばならぬのだ。山田巡査、どうしたら味のよい値段の高「らつきよう」になれるかね。

山田 私達は「らつきよう巡査」でも生らつきよう巡査に違ひありません。味のよい高級の「らつきよう巡査」になるには、酔と云ふ生きた社會に飛込んで、其の酔と云ふ社會の實相をよく汲み取つて、其の上砂糖と云ふ調味も整へて、血あり涙ある人間警察官にならねばならないのだと思ひます。

古川 全く其の通りだね。實社會をよく知らんと指導も取締りも出来ないからねえ。諸君は早く色揚して上等の「らつきよう巡査」になつてくれ。ねえ、それからねえ。諸君が今まで習つて來た法規と云ふものは、警察官が取扱ひはするが、これは警察の爲めに作つたのではないと考へて置くことが肝要だ。世間の爲めに用意されてあるものだと思つて置かねばならぬよ。

藤田 練習所で習ひました。警察の爲めに警察を

してはいかん。世間の人の平安幸福の爲めに警察をするのだと教はりました。

古川 それだ、そこを忘れないようにねえ。松井

巡査、君は警察官に好いてなつたか。

松井 はい、好いてなりました。

古川 何度試験を受けたか。

松井 三度であります。

古川 ふん、警察官が好きだねえ。皆そうだらうそんでないといかん。警察官に限らず、何のことも好かんことを人から強ひられてするとか、衣食の爲めに仕様事なしにすると云ふことは、全く苦役で長つゞきのするものではない。そう云ふ人生は悲惨だね。梅林巡査、君は山登りをしたことがあるか。

梅林 あります。

古川 登山は辛いか。

梅林 骨の折れることはありませんが、辛いとは思ひません、寧ろ面白いと思ひます。

古川 骨の折れる事をして面白く思ふとは、どう云ふ譯かねえ。

梅林 それは自分が好んで積極的に働いて居りますから、幸福に感じても苦役には感じないので思ひます。

古川 全くそうだね。それが反對だつたらどうか坂田巡査――。

坂田 人から無理に強ひられて、不本意に登山でもするならば、苦痛で堪らんと思ひます。

古川 そこでねえ、諸君も警察官に好いてなつたんだから警察の仕事を積極的に、働く氣で働けば面白い事ばかりであり、成績は擧がるが、監督者から叱られるから、しよう事なしに働くと思ふ事になると、仲々の苦痛となるから、諸君

は常に外に監督者がある事を考へずに「させられる仕事」でなく、自分から「する仕事」の修養が肝腎だよ。

山田 警部補殿、本日はよいお話を承りました。私は拜命前に或る會社に務めて居りましたが、今考へて見ますと全く「させられる仕事」になつて毎日苦しんで居りました。たとへ、上官の命令に依つて「させられる仕事」でも、自分が「する仕事」の氣になれば、徹夜して碁を並べるやうなもので、格別の苦痛を感じるものではないと思ひます。

古川 今の山田君の話は同感だ。君、他人が過つて、煙草の火を一寸でも手先につけやうものなら、驚いて眼の色をかへて怒るが、自分の「する氣」ですえる灸のやうなものは、遠い所まで出かけて金まで出して順番まで争ふて體全體を

焼き焦されてもお禮まで云ふて歸るじやないかね。何事も、他からさせられては苦しい、自分からすれば幸福だ、立身出世だ。

藤田 よく判りました。する氣でやります。

古川 聖書に、「人もし汝に一里の行程を強ひなばこれと共に二里行け」と云ふ言葉がある、物を苦しみにせず、十二分に仕果たすことを楽しみ、そうでないと氣が済まんやうにならねば、身の出世も心の安心も得られないねえ。太閤殿下豊臣秀吉が、木下藤吉郎の昔、主君信長の草履を懷に暖めた話は餘りにも有名だが、此の二里行く下郎藤吉郎こそ、將來を約束されて居つたのである。本日はこれで終り。

四〇 警察の實務監査

東中町巡査派出所の事務室、いま、實務監査を終り歸所した原田巡査と休憩中の溝口巡査。

溝口 おい濟んだか、やられたらう。

原田 やられた、やられた、感心させられたよ。

溝口 古川警部補さんはおこりやすまいが。

原田 おこるところか親切なもんよ。第一實務監査のやり方が全然違ふよ。

溝口 そうか、どんなに違ふかね。

原田 大抵實務監査と云ふものは、巡査にやらして監督者はじつと見て居る、悪るいところがあればそれを指摘して教へると云ふやり方だね。

溝口 うん皆そうだ。

原田 それがねえ、古川警部補さんのは反對だね。先づ、自分がやつて見せるよ。そしてその次に巡査にやらせると云ふやり方よ。そしてね、其のやり方がうまいもんよ兎に角恐れ入つたよ。

溝口 どんなにうまいかね。一寸云ふて見よ。

原田 一番始めね、二三軒戸口調査をやつたよ。

そう、あの橋の際の高田喜市方に行つたよ。

溝口 は、あ、喜市は居つたかね。

原田 居つたよ、喜市が眼を丸くしたよ。

溝口 どうして。

原田 初めね、喜市方に這入ると古川警部補さんがねえ「やあ御免下さい、こちらは高田喜市さんですね、御主人居られますか」と極めてやさしく挨拶されたところ、喜市は眼を丸くしてベコ、それからが主人との話になる――

高田 はい、私が高田喜市でございます。

古川 あゝあなたが御主人ですか、今日はね、戸籍調に來ましたがねえ、暫くお邪魔しますよ。

高田 はい、それは御苦勞でござぬます。

古川 そこで、あなたは川丈座の仕事をして居るのだねえ。

高田 はい、そうです。

古川 あなたのお嫁さんは貞子さんだねえ。

高田 はいそうです。

古川 どこに居りますか。

高田 はい、そこで洗濯をして居ります。

古川 あゝそうですか、あの人ねえ。それからお婆さんの松子さんは、どうして居りますか。

高田 一寸具合が悪るので、二階に寝んで居りますが――。

古川 病氣ですか、どんな病氣ですか。

高田 風をひいたんでしよう、少し熱がありました。

て――

古川 熱がありますか、醫者に見て貰ひましたか。

高田 いゝえ大した事ありませんし、婆さんも醫者を嫌ひますから、まだ醫者にはかけて居りません。もう大分ようござぬます。

古川 そりやいかん、老人は大切にせんといかんです。一寸二階に行つて見よう(二階に上がる)

高田 きたないところで恐れ入ります。

古川 いや／＼構はん。ほゝう、大分悪るいやうだなア(と病人の頭に手を當てゝ熱を見る)、こりやア高田さん、醫者に見せなさい、何だつたら儂が、その河野さんに云ふてあげる、何も心配せんでよいです。(云ひつゝ傍らに居る女を見る)

高田 いいえ、すぐ診て貰ひましよう。

古川 高田さん、其の女の方は誰ですか、あなたの家族の方ですか。

高田 いゝえ、一寸この二階を貸して居る人です。

古川 あなたの家は、家族は、今の三人きりです。

高田 はい、そうです。

古川 此の人は主人が居りますか。

高田 あります。主人は山本新太郎と云ひまして川丈の廣告部の廣告取りをして居ります。

古川 何時から此の二階に居りますか。

高田 なあ、何時からじやつたなア(と女に問ふ)女 今年の三月に來ましたよ。

古川 何處から此處に來ましたか。

女 神戸の方から主人と二人連れて來ました。

古川 神戸からねえ、もう七ヶ月になるねえ。原田君よく調べてね、帳面に上げて置いてくれ給

へ。(とやさしく云ふ)

原田 其時は溝口君、實際腋の下に汗が出たね。

喜市方には先月調査に行つて異状はないことになつて居るのだからねえ。

溝口 そりや弱つたねえ。

原田 實際やられたよ、然し古川警部補さんは一口の小言も云はなかつたよ。只ね、喜市に對しては「自分の家に他人を置いたり、又家族に異状のあつた時には直ぐ警察の人に届けて帳面に上げて貰ふて置くように、將來氣をつけて下さい」と注意を與へただけよ。

溝口 實際、喜市の奴もいかんね。

原田 いや、喜市も悪るいが俺も悪るいや、實際參つたよ。それに悪くするとあの婆さんもチブスかも知れんねえ。

溝口 そうなると大變だなア。

原田 俺達はほんとうに、も少し仕事に氣を配らにやいかんと思ふねえ。

澁口 實際あらまし過ぎるもんねえ。今のやうな戸口調査じや、逃げた犯人も、傳染病も、捕へた時が捕へた時で、愈々いかん時が傳染病院行きじや。

原田 考へると、ぞつとするねえ。

四一 再婚談

福坂警察署長官舎の奥座敷、今宵は珍客數人あり、いとも和やかに話は交されて居る間にも、時時嚴肅なる空氣の漂ふところ、意味ありげの催し事と察せられるのであつた。

松本署長 皆さんお疲れでしたらう、どうぞ、くつろいで下さい。

今井田 署長さん、大變お世話かけまして恐縮です。

署長 いや、何も彼も因縁です。

別府 ほんと、署長殿濟みませんでした。

署長 別府君、君が川津の部長派出所に居つた時古川君が初めての駐在巡查で君に萬事を導かれたと云ふのも面白い縁じやなア。

別府 いや儂も、此の娘も居つたこと故、戲談には古川君養子になれなんか言ふた事もあります、それが現實の親となつては羞かしいこともありますよ。

今井田 別府さん、それが面白いですよ。古川さんもあなたのやうな方を岳父にもたれることは幸福ですよ、ねえ、古川さん。

古川 はい全く夢のやうです。

署長 今井田さん、もう神前結婚を済ませば、これでよいです。あとは、まあ、ぼつ／＼親しい人々との見知合もするがよいと思ひます。

別府 それで結構です。要は二人が仲よく暮せばよいのです。娘もあなた主人を亡ひまして不幸な者でしたが、古川君のやうな人に再縁が出来て喜んで居ります。

今井田 古川さんも之から幸福になりますよ。

署長夫人 矢つ張り縁ですねえ。然し今井田さんが居られました大變好都合でした。古川さんは今井田先生が媒酌をして下されば貰はうと言ひますので、無理にお願いした譯でしたが、ほんとに有難うございました。

今井田 私達夫婦もお蔭で人生一度の仲うどがつとまりまして、喜んで居ります。

今井田夫人 仲うど口に聞えますが、ほんとに似合

ひの御夫婦ですよ。わたし達夫婦も、古川さんが御出世下されば肩身が廣うございますわ。

別府夫人 ほんとにどなたもお世話かけまして相濟みません、厚くお禮申上げます。

別府 古川君、云ふて置くがねえ、儂の娘はあんたにやつたが、やつたらあんたの妻じや親の儂に何んの遠慮もいらんよ。云ふこと聞かんときは、どやし上げて理想の夫人に仕立てるのがあんたの責務じや。然しよく娘にも言ふて聞かしてある、儂の一人娘ではあるが儂のかゝり子ではない、嫁入つた以上古川家のものじや。儂達夫婦があんた方夫婦に養うて貰うの世話ならうのと云ふやうなケチな考は毛頭もたん。その邊はあんたもよく承知して、先の奥さん同様田舎の御老親に仕へさして下さい。儂と婆は二人

で食ふて行ける、成るべく世話をかけん了簡じ
やからなあ。

古川 何分子供が三人も居りますから、房江さん
にも随分苦勞をかけることゝ思ひます。

別府夫人 其の苦勞は喜んで覺悟して居ますよ。

別府 古川君、儂が云ふてある「お前は古川さん
の嫁御なら行くな、先の奥さんに代つて子供さ
んの母になる氣で行け。そして古川さんから感
謝をされて毎日有難く暮される修養を續けて行
け。それを感じていて兎角の理窟を並べでもす
ると、儂がどやし上げるぞ」とグンと一本たゝ
き込んである。

署長 別府君、やつぱり、やるなア、君の云ふ通
りじや。房江さん修養しなさいな。

房江 はい、よく承知致して居ります。

署長 別府君、古川の親になつてからも古川君と

云ふてはおかしいぞ。それから署長殿と云ふこ
ともやめてよからうぜ。

別府 はゝゝは、矢つぱり言ひつけた言葉がよい
ですなア。

署長 あ、それじや、古川君夫婦は二人で歸つて
貰ひ、あの方みんな、こゝに寝て貰ふこと
にします。あ、こりや用意をしなさい。

署長夫人 はア、もうちやんと出來て居ります。

署長 自動車によねば——。

署長夫人 はア、もう來て居ります。

署長 あゝそうか、儂の方が長話しをしてスイが
きかんで居つた。それや濟まん、古川君それじ
や早く歸り給へ。

古川 まだ早うござぬます。

署長 早うでもよい、もう引上げなさい。

古川夫婦は自動車にて新宅に引上げる、ホツと

一息した一同は思ひ合せたやうにニコ／＼顔で紅
茶をすゝりながら

署長 古川君も立派になつた、押しも押されもせ
ぬ古川警部です。もう二三年すれば立派な古川
署長が出來ますぜ、儂も私かに感服して居る人
物です。

今井田 房江さんも、立派な署長夫人になれます

よ。

別府 署長殿、あ、又署長殿か、ほんとに儂も古
川君が好きです。

別府夫人 娘より主人の方があなた古川さんに好い
てしまひまして、署長さんからお話があつて以
來、今日まで毎晩夢ばかりで眠れなかつたそ
うですよ。

今井田 別府さん、もう安心です、今晚はグツス
リ眠りなさいよ。

別府 感謝します、感謝します。

四二 自動車と警察

二十二年來の大雪も漸く解けて立春の陽光さざ
す二月十五日、福坂警察署の階上應接室に參集し
た人々は、縣保安課僚、古川警部、山田警部補、
福坂警察署交通主任平野警部補、橋田部長、交通
巡查松野、高崎兩巡查の六人、一同番茶をすゝり
ながら、交通に關する茶話は進んで行くのであつ
た。

古川警部 みんな遠慮なく話してくれ。僕も保安課
に据へられて一番に頭を刺戟されたのは交通取
締のことじやねえ。そして自動車の事故の多い

こと。そのまた悲惨な事を思ふとね、實際責任
を感じるねえ。

橋田部長 實際ですなア、私はこのまへ、保安課長
の話聞いて同感でしたよ。

平野警部 うん、あの話は當り前の話ではあるが、
眞剣な問題で、あの通りならねばいかんよ。

高崎巡査 實際ですなア。

松野巡査 實際君、交通位重大な仕事はないよ。

高崎巡査 保安課長殿の言はれる通り、泥棒なんか
する奴も悪るいが、取られる奴も油断があるん
だ。そして、大した問題ではない。自動車事故
なんか、とりかへのない命を奪つて終ふんだか
らなア。

松野巡査 警察もピント外れの昔考へで行つちや、
世間から興味中心にしか扱はれませんよ。

古川警部 いや、仲々快氣焰だねえ。僕も同感だね。

して金を一圓借り取つたと云ふ強盗も抛つては
置けない。又更に多くの人を害することになる
場合に依れば、切りもすれば殺すこともある、
早く捕へて、社會から遠ざける必要がある。そ
れは取りもなほさず人の生命、身體財産に對す
る脅しがひどいからである。

古川警部 ふん、成るほど。

山田警部補 小さい強盗でも大騒ぎをするのは、人
の生命にまで關係があるからだ。然るにその強
盗は、本縣でも一年に僅に五六十件に過ぎない
が、自動車を中心とする交通事故に因る死亡者
は一年に三百人を越へ、重傷、輕傷の怪我人の
數は一千人に近いのであるが、今日の交通事故
には比較的無關心だ。一方は強盗だと大ショ
ックを起し、一方は自動車に轢かれたそうナと
軽く感ずるところ、誠に不可解千萬である。今

山田警部補 先日保安課長殿が交通主任會議で一席
やられたんですがねえ。皆、飛上つて喜んで
すよ。

古川警部 ふん、課長殿のことだから理路整然哲理
透徹だつたんだなア。一寸その要點を話して
れ給へ。僕のやうな新參者は原理と常識がよく
喰ひ違ふからなア。

山田警部補 保安課長殿のお話を一言にしてしま
すと、世間に一圓の法律的強盗でもあると、警
察は色めき立つ、世間も騒ぐ、新聞が喜ぶ、官
は金を何千圓費つたつて、又外の仕事は中止し
て和服總動員で右往左往の大捜査をする。それ
は當然だ、人の生命財産を尊重する、即ち法益
の最大なる保護の爲めだ。法律的に保護するも
のを概別すれば生命、身體、財産である。通り
がりに食ふに困つた男が、店屋の婆さんを脅

日の司法及び行政に任じ眞に重大法益(人命)の
保護に職する者は「仕來たり、やり來たり」型に
はまつた空虚な警察行動じやいかん。畏れ多く
も陛下の赤子を亡ひ又傷けることの數多きに戰
慄を感じ、それが責任となつて交通事故防止を
せねば何んのことか判らんぢやないか。強盗は
故意者の大悪だから世を擧げて騒ぎ、交通事故
は過失者に因る悪業だから餘まり氣にかけんと
云ふことは理論にならん。我々の主張するのは
その動機じやない、尊き人命を損する結果の重
大法益保護觀念じや。世間が割合に平氣にある
と云ふことは、役人が平氣であると云ふことの
現はれだ。交通行政官吏は大ひに新しく自覺し
て貰ひたいと云ふことであります。

古川警部 いや大變參考になつた、今更ながら課長
殿には感服したよ。

平野警部補 交通事故でも自動車事故が一番恐ろしいのですが、私の調べたところによりますと、自動車の事故では、主として運転者に過失があります。其の運転者の過失をよく調べて見ますと、操縦を誤まつたことは過失としましても、其の根因は、大部分が速度の超過でありまして、極言すれば過失にあらずして、未必の故意ですなア。

高崎巡査 私は故意と云ひたいですなア。

橋田部長 それで事故防止には自動車運転者の厳律と併せて一般通行者の交通訓練乃至違反取締を考へて居らねば、不徹底と思ひます。

古川警部 いや全く諸君の言はれる通りだ。此の考へ此の實行を押し擴め指導取締することが、お互ひの仕事だなア、觀念論だけではいかんぞ。

止だよ。その根本だけは、案を書くにも、話をするにも離れてならぬ事柄だよ。みんな考へて居つてくれ給へ。

松野巡査 兎に角速度を取締ることが大事ですよ。

縣の方でもストップ・ウオッチ位澤山買ふて下さいよ。

古川警部 ストップ・ウオッチも要ろうが、そんな違反檢舉的な考へはいかんよ。もう少し指導的に考へることが大切だねえ。

山田警部補 松野君、君も大分永い交通巡査じゃ、速度の早や過ぎると云ふことはどうして判るかね。

松野巡査 あ、そりやもうどうしてといつて、やはり「感」ですなア。

平野警部補 自動車の速度は一體何になつとるか。

松野巡査 けふ古川警部殿の御指圖で、その千代田ビル前でスピードの取締をやつたんですが、天神町じゃおとなしくして通つて、一寸交通巡査から離るればブツ飛ばしですなア。ヒヤヒヤするですよ。

古川警部 僕は思ふね、自動車に関する限り隨時隨所に交通監察をやつて、當分はドシドシしめ上げて、それからの指導だと思ふねえ。

山田警部補 交通監察用超スピードオートバイを買はねばいかんですね。

古川警部 それもそうだがねえ、序に云ふて置くが自動車の取締に関する法令が澤山あるが、その歸するところはみんな事故防止の手段だからなア、自動車の検査をすることも自動車運転者の試験をすることも、免許證を持たせることも、組合を設けさせたことも、みんな自動車事故防

山田警部補 あれは普通車が四十キロだつたかねえ松野君。

松野巡査 はあ、多分四十キロに三十キロでしたかねえ。

高崎巡査 それは失禮ですが、私が申上げます。自動車取締令の五十一條では、七人乗以下で三十疋未満で、空気タイヤで、全車輪制動装置のもの即ち普通車は時速五十疋、其の他は三十五疋となつて居ますが、縣令細則の方で人家連擔の場所は普通車が四十疋と制限して居ります。又消防車や、急救車は六十疋までとなつて居ります。

平野警部補 あゝそうか、君あこの頃交通巡査になつたのに仲々詳しいねえ。

松野巡査 俺もねえ、交通巡査になりハナは規則もよう覺へて居つたよ、もう萬年交通巡査になる

と「感」じゃねえ。

山田警部補 松野君、君あ速度がはつきり判らんで感とか云ふたつて當にならんではないかね。

松野巡査 まあ一時間十里の感ですなア。

古川警部 成程、四十軒だからなア、十里以上と云ふことはどうして判るかね。

松野巡査 あゝそれが感ですよ、一時間に十里ですから、一分間に六丁一秒間一息に六間ですなア直ぐピンと來ますよ。

山田警部補 そんならストップ・ウオッチもいらんじやないかね。

松野巡査 實は要らんですよ。止まれツ六十キロも出しちやいかんじやないかと一喝、處罰しようと思へば取締令五十二條。

古川警部 取締令五十二條は覺へて居るなア。

松野巡査 はい、それは報告に要りますし、又自動

車の速度の取締と云ふものは、今高崎君が云ふ

たのは最高速度のことで、道路及び交通の状況に應じて公共に危害を及ぼす虞のある速度は例へ二十キロであつても違反です。そこを交通巡查は心得て置くんです、取締令五十二條が一番大切です。

古川警部 成程なア。矢つ張り専門家にや勝てんなア。

高崎巡査 松野さん有難うござぬました、私は参考になりました。

松野巡査 はゝゝゝ、大したこたないですよ。何んでもぼつゝ判りますよはゝゝ。

古川警部 あゝ今日は有益だつた、皆さん御苦勞。

い、お互がしつかりして居ればよいのじや。

その時横の机にペンを走らせて居つた川崎警部補も急にペンを置いて古川警部の前に出た。

川崎警部補 大にやります、世間の人々も淺聞しいですが保安課の者も意氣地がないんですよ。

其の時特別室から書類を持つて上つて來た山川部長も古川警部の前に出て、

山川部長 仲々景氣のよい話がありりますなア。

私共何がどうならうと自分の仕事を全ふして行けばよいと思つて居ります。課僚殿あなたは随分お堅い方と聞いて居りますが、規律嚴肅は結構です。出勤時間など勿論勵行します。その代り退勤時間も相當考へて貰ひたいです。

折柄課長席より引締つた聲で。

矢川課長 古川警部ッ。

古川警部 はい。(立ち上つて課長席に近づく)

四三 警察と願ひ人

官服いかめしい保安課の事務室、古川警部の前に立つて昂奮した面持の高根部長は、

高根部長 實際こう運動屋が來ては仕事はされませんよ。而も某々等は威迫めいた言葉すら遣ひますよ。こんど、あなたが此の課に來られたのでみんな喜んで居りますよ、力を得て愈々強くやりたいと思ふのです。

古川警部 僕もこの保安課と云ふところは利權屋が相當に出入することを知つて居る。心の弱い警察官も悪るいが、あらゆる手段をもつて誘惑せんとする連中は實際憎いねえ。憤慨せんでもよ

矢川課長 君、御苦勞だがね、青木の検査場に一寸
行つてくれんか、そしてあの埋立分の監督をし
て置いてくれ。

古川警部 はい、承知しました、早速参ります。

矢川課長 あ、それからねえ、もう時間も遅いから
向ふで用が済んだらその儘退勤することにして
置いて、迷惑だが、今晚僕の官舎に来てくれん
か。初めてだから飯は官舎で一緒にやろう、一
寸話もあるからねえ。

古川警部 はあ、それはどうも済みません、それで
は検査場から歸りに寄らせて頂きます。

自動車検査場の用務を終へて午後六時頃、縣廳
裏の保安課長官舎に訪れた、二階の座敷に通され
て一應の挨拶は終る。

矢川課長 實はねえ古川君、一度奥さんも一緒に來
て貰はうと思つて居たんだが、子供衆も多いし

居ります。

課長夫人 古川さん、あなたが保安課に来て頂いて
主人も毎日のやうに喜んで居ります。奥様も大
層、出された方だそうで、わたしも喜んで居りま
す。女はねえヒビ、アカギレで働き、子供を賢
く育てるのが一番偉いのだと思ひます。

古川警部 家内のことも、どうぞ宜しくおたのみ致
します。

臈て用意の晚餐が始まる。初めは夫人のお酌で
盃を取交はして居つたが――

矢川課長 おいお前は、もう下に降りてもよいぞ、
一寸話もあるから。

課長夫人 はあ、それじゃ古川さん御ゆつくり、ど
うぞ。(夫人は階下に降りて行く)

矢川課長 古川君、遠慮なくやり給へ、君はいける
のだらう。

ねえ、また其の内折を見てすることにした。

古川警部 ほんとに御無禮とは思ひながら、寄りつ
きもしませんで相済みません。

課長夫人 古川さん、寄りつかんのが一番よいので
すよ。御無禮はお互ですよ。女と云ふ者はねえ
お掃除やお洗濯、御飯ごしらへは勿論のこと、
迎も忙しいですよ。自分の家を整へることが大
仕事ですよ。病氣や事變つた事のおつた時はお
互ですから直ぐに訪問したりお見舞したり、又
御加勢をすることもありますが、まあ普段は出
入しない方がよいです。

古川警部 いえ、私の方は特別失禮をして居ります
から、皆さんに濟まんと思つて居ります。

矢川課長 古川君、嬢の交際癖だけはつけんがい
ぞ。

古川警部 課長殿、私もあなたの高風をお慕ひして

古川警部 はい頂きます。

矢川課長 古川君、僕が先輩として君の爲めに些か
注意がましい事を云ふて置くがねえ、僕も若い
時失敗したことがあるからだよ。

古川警部 はい、どうぞ遠慮なく仰やつて下さい。

矢川課長 もう警部になつたらね、年は若くても相
當深い考へを以て事に處せねばならぬぞ。縣廳
の課僚はまだよいとして、警察の署僚警部でも
すれば重厚な態度が必要だね。署長の見習だ。

古川警部 實際そう思ひます。私は少し堅過ぎて困
ります。然し、正義的に仕事をせねばならぬと
腹は定めて居る積りですが。

矢川課長 さあその正義が問題じゃ。成程悪い者に
對しては、強く當らねばならぬし、正しいこと
を推し進めねばならぬのだが、此の頃の若い人
達の所謂正義なるものは、動もするとツンとす

ました規則一天張りのものがある。

古川警部 そうですなえ（と合づちを打ちつゝ、今日保安課での會話を思ひ浮べ、腋下に汗を覺へるのであつた）。

矢川課長 古川君、君は幾つか。

古川警部 三十七であります。つまらんです。

矢川課長 三十七か、若いなア。年は若いがい、元氣があるからよい。然し警部にでもなれば若い浮いた軽い心じやいかんぞ。役柄でなく、思想的に情理的に、下役に居る五十以上の者でも敬服せしめきらねばいかんのじや。それが出来て威ありて猛からず、無理もせねば手落もないよく世話が届いて、偏頗の處置がないやうに修養づかんと、署長、課長にはなれんよ。假りに間違ふた廻り合せで、人の出来て居らん者が署長や課長になつたら大變よ。考へて見ると眞の

皇道警察建設には人が要るよ、君達は立派な血あり涙ある署長になつてくれよ。

古川警部 はい御話の通りで、私共は兎角傲慢増長になり易く、又、私の様な者はどうかすると自分を偉らく見積りまして、直ぐ他人の調子に乗る性癖があります。課長殿に導かれ、大に修養して常に謙虚な姿で居りたいと思ひます。

矢川課長 うんまあ、飲み給へ。話は話、酒は酒じや。君は三升位飲むそうじやねえ。

古川警部 いえそんなことはありません、二升位飲んで居らうと思はれることもありますが、酔ふたことはありません。平氣で仕事も出来ます。

矢川課長 豪傑だなア、晩酌は幾ら飲むか。

古川警部 晩酌なんか少しも飲んだことはありません。

矢川課長 ふん、感心だなア。あ、それからねえ、

君が謙虚な姿の修養とか云ひよつたがねえ、若い者だ、スローじや駄目だぞ、頭はピン／＼敏感で、それをどう云ふか、どうするかゞ智慧と修養じや。そして理想の警察官といふものは姿勢

正しく嚴正な動作はとつても、鬼の顔をしちやいかん。要するに、外柔内剛じや。丁寧親切でも、やる時は秋霜烈日じや。

古川警部 課長殿がその様に見受けられますねえ。

矢川課長 いや／＼、儂などはつまらんのじや。へタに儂の眞似でもすると妙な人間が出来るぞ、ハ、ハ、ハ、。

古川警部 御趣旨に副ふて氣をつけてやります。

矢川課長 それからねえ。古川君、課員でもねえ、退勤時間のことを常に氣にやむやうな者は注意せえよ。日本の官吏の退勤時間は、午後四時とか云ふ型の時じやないよ、上官の在廳する間、

自分の無定量事務の完全を期す間、夜中になつても退勤はせんのが、吏道だとわしは思ふて居る。然し、そうばかりは行くまい。

古川警部 よく判りました、各自の事務を完全に果す爲には用のないと云ふ人はない筈と思ひます

矢川課長 儂が歸つてよいと云ふた時は歸すがよいよ。それからねえ、話は大變長くなるがねえ、保安課に出入する所謂、運動屋が多いが、何も氣にすることはないよ。第一お互が誘惑にかゝりさへせねばよいではないか。又願ごとについて尋ねに来たら、差支ない程度に話してやり、物事をよく納得させる機會を與へれば、來るのも結構じやないか。

古川警部 は、成程そうであります。

矢川課長 それからねえ、許可すると云ふことは知事とか署長とかゞするんだから、許可さるれば

許可するやうな、また許可されなければならぬ
いやうな事務立てをするのが下役の任務だ。昔
は、署長が許可しても俺が許可せん。課長が諒
解しても俺が承知せんなど、根據のない馬鹿
力みをした下役が可なり居つたんだよ。

古川警部 はあ、大變参考になりました。

課長官舎を辭した古川は天神町から電車に乗り
山道を官舎に歸る途中、電車の中で黙思長大息す
るのであつたが、不圖心に浮んだのは鐵涯老僧、
あゝそうだと、自宅に歸り着くや、玄關より走り
上りざま、急ぎ書箱を手探つて取り出した餞別第
三號

いさゝかの頭、もの知り役立たず
腹で知ること男なりけれ

鐵 涯 喝

署長室に於て署員一同の名刺を受けた後、階上
會議室に於て署員一同に對し着任挨拶旁々初訓示
を行つた。

署長 今回の警察異動に於て不圖も當署長を命ぜ
られ、全く其の重任を痛感して居ります。幸ひ
に諸君の心からなる御援助御忠勤に依り和親協
力管内治安の重責を果たしたいと存じます。署
長が變れば署員として何彼と氣を配るものであ
るが、私に關する限り、ほんとうに餘り心配を
せぬやうに毎日氣をラクにして、私に話したい
人があれば巡查の方も遠慮なく話して下さい。
また、署長が變つても警察の方針と云ふものが
變らう筈がない。警察の方針と云ふものは大體
定まつて居る。署長の變る度にドン／＼變ると
云ふことは間違ひである。私共の先輩の署長が
精魂盡して打建てた行跡が多少の考へ方は變る

古川警部 成程、いかなア。

房江 あなた、何か心配ごとが出来たの？

古川警部 いや、一寸之を見たんだよ、そら――

四四 署長と署員

あちこちに彼岸櫻は咲き誇り、大和心も香しき
昭和十×年四月五日、この日は古川春吉警部が八
田警察署長として榮へある赴任の吉辰であつた。
宇土島驛頭には地方有志、八田警察署員等多數の
出迎を受け、先づ八田町鎮守の宇土島天満神社に
詣でて後、出迎への一同に感謝の敬意を表し、導
かるゝまゝに自動車上の人となつて、八田警察署
に着任したのであつた。

ことがあつても、前任署長の計畫に基く引繼事
項はその儘踏襲してその実績を上ぐる事が私
に課せられた任務と思ふ。諸君何も心配はない、
萬事其の積りで私について來て貰ひたい。縁あ
つて署長となり署員となると云ふことは尊く嬉
しいことでもあります。この因縁を毎日有難く感
謝しつゝ只の一度でも憎しみの感情から喧嘩争
ひのないやうに、署員みんなが一環の珠數に緊
がれて亂るゝことのないやうに、特にお願ひし
て置きます。本日は私の着任に態々勿體ないお
出迎へ辱ふし、又官舎萬端のお世話を下さるこ
と厚くお禮を申し上げます。

次に首席警部補山川政義の署員代表挨拶があり、
一同散會後巡查部長以上幹部を署長室に集め、和
やかな茶話會を行つた。

署長 藤崎君、暫くだつたなア。君が此の署に居

ることを私は非常に心強く、又楽しみにして来たよ。頼むぜ。

藤崎部長 どうぞ宜しくお願ひします。御無沙汰ばかりして居りました申譯ありません。

署長 いや、御無沙汰はお互じや。時に山川君、君に云ふて置くがねえ、いやみんなに聞いて置いて貰ふのだがねえ。僕と藤崎君とは巡査の同期生で、而も今から十七年前二人一緒に隣の大橋署に着任したと云ふ懐しい縁を持つて居るのじや。今度僕が署長として此の署に来て、藤崎君が署員として居り、共に仕事をする事はほんとに因縁が深いと思ひ、又藤崎君を兄弟のやうに懐かしく思ふて居るから、着任早々話したいのだが、その點みんなよく諒解して置いて貰いたい。勿論公の職務關係に於て僕が毫も私情を挟まないことを諸君に聲明して置く。又藤

ひます。

署長 いや、痛み入るねえ。僕はつまらんよ。第一膽が小さいよ。随つて諸君に小言を云ふよ。

諸君、取越苦勞をする小心者と笑はずに、まあよく僕を輔けてくれ給へ。特に幹部諸君にお願して置くよ。

松本部長 僕も藤崎君と同感です。巡査でも正しい偉い者はその署長の本心を直ぐ讀んで仕舞ひますよ。署長殿、あなたが此の署に來られるので、多くの者は喜んで叱られて見やうと思ふて居るのです。みながその覺悟ですから、ドンドンやつて下さい。

山川警部補 ほんとにみんな其の氣で居ります、うんと小言を云ふて教へて下さい。

時田警部補 署長殿のやうな人から何ぼ小言を云はれても腹を立てる者は居りません。若し居つた

崎君自身も同期生の故を以て決して妙な行ひのある人ではない。兎に角同期生と云ふものはいもんだなア。

山川警部補 同期生でも署長殿は御出世の早い方でしよう。

署長 いや、其の出世がよいのやらわるいのやら僕のやうなものは餘程氣をつけぬといかん。藤崎君は巡査部長であつても立派な人物じや。縣下でも有数の人格警察官だから、僕が署長ではあつてもほんとうは藤崎君の方に僕が先に敬禮をしてよい。僕と云ふ奴は、まだ人間が出來て居らんからなア實際羞しいよ。

時田警部補 署長殿はそんなに云はれますけれど、署長殿の御人格は全縣下の者がよく知つて居りますよ。どうぞ、謙遜なさらんで、やゝもすれば横道なことをする我々にドンドン御鞭撻を願

ら其の者が厭でもない奴です。

署長 いや、前評判が良過ぎるが、後で失望するぞ、はゝゝゝ。

藤崎部長 署長殿は膽が小さい、取越苦勞をすると云はれましたが、警察官で職務的に取越苦勞をせんやうな者は駄目です。警察の本質が總て豫防行政でありまして、公安を害する虞がある、風俗を紊亂する虞がある、衛生に危害を及ぼす虞がある、従つて一般人から見れば警察がなんに云はんでも心配はないかと思ふことでも、豫防の萬全を期する爲めには、いや、かうして置かねばいかん、いや、あれではいかんぞと所謂、取越苦勞をして居らねば職務の完璧を期せられない譯です。署長でも巡査でも其の持分に於てそれ〴〵、虞れのあることの豫防につとめねば、警察官とは云はれません、一なるやうにし

かならんよ、なつたらなつた時のことよ」なんて、行當りばつたりの無責任では世間に對し申譯がないと思ひます。取越苦勞が取越苦勞に終れば結構なことです。

松本部長 藤崎君の云ふ通りだなア。

署長 藤崎君、ほんと、あんたにや頭が下がるよ。その時、署員の一人から氏神參拜の用意が整ふた旨の知らせがあつたので一同散會した。

四五 選舉取締のこと

八田警察署の階上會議室、一般署員の定期會として署長の訓授の後、選舉取締對策懇談會が催されたのであつた。

古川署長 これから來月中に施行せらるゝ縣會議員選舉の取締に就て懇談會を開きたいと思ふ。諸君選舉に關する限り何でも遠慮なく話してくれ給へ。

山川警部補 選舉取締に就ては從來まあ署長訓授を受け、高等主任から、取締計畫を達示せられてあとは諸君の視察内偵取締と云ふことであつたが、今度は署長殿のお考へもあり、こうして和やかに懇談會を開いて諸君の意見も聞き、また署長殿のお話もある譯だ。誰でも考へて居ることを話してくれ給へ。

藤本警部補 今度はね、もう從來のやうな警告もしないことにして居るよ。

署長 もう選舉に關しては特別の訓示はしないよ。此の懇談會で儂の考へを話して置くよ。

山本巡查 警告はやつぱりやつて貰つた方がいゝと

高橋巡查 警告しても、やつぱり違反する者がある

のですから、警告せんで置けばドン／＼やりませよ。

藤本警部補 違反をするやうな人はねえ、警告を聞いたからつてやるよ。事は判つて居るのだから知らんで違反に陥ると云ふことぢやないぞ。

時田警部補 町村單位で神様に肅正祈願をさせますか。

署長 それも警察から指圖はせん積りだ。町村で自發的にすればさして置くことにしよう。

荒木巡查 肅正祈願もいゝが、警察が連れて天満宮様に參り、神前で宣誓まで行はせて、其の歸り道にもう十五人も買収した候補者があつて、此の前弱りましたよ。

山川警部補 あれは弱つたねえ。神様まで瞞まかし選舉に勝たうとする人があるから困るよ。

思ひます。

署長 選舉と云へばねえ、何か罰則關係のことを書き並べた印刷物を配り、それを説明するやうな警告に定まつて居るがね。考へて見るとねえもう今頃になつて選舉について物をもらつちやいかん、酒を飲んぢやいかん、何を約束しちやいかんと云ふやうなことを知らん者はないよ。警告する方も馬鹿らしいが、警告を聞かされる人々も嫌氣がさす。事理は判りきつて居るから聞きに来る者は尠いよ。無理に狩出しまでしてどれだけの効果があるか問題ぢやねえ。警告するならもつと選舉の本義を説いて選舉人の自覺を促がし、幾らどう持ちかけられても、結局自己の信する人にしか投票せんと云ふ觀念の強調をするよ。それで儂は今度縣會議員選舉には警告をせんことにする。

署長 神様に祈願せんでも、眞に神様を敬ひ神様を恐れるやうな人なら違反はせんよ。

藤崎部長 まあ、選挙は出来るだけ豫防警戒に努めて違反せしめないやうにし、若し違反したものは厳罰にして今後を戒めることですか。

時田警部補 その通り、それに限る。

松本部長 協定はされた方がよいですか。

藤本警部補 協定はやらせた方がよい。相当切り詰めたものにしてやらせた方がよい。

春田巡査 切り詰めた協定もよいですが、思ひ切つて籤引で當選決定させてはどうですか。

藤本警部補 そう簡単に行けば結構だが、ムツかしがるう。

山田部長 こんどこそ、大いに馬力をかけてグングン押し進めて皇道警察の權威を示すんですなア。警察は力ですよ。

署長 君達の元氣には感心するよ。そう云ふ元氣

を十年ばかり前に全部の警察官が持つて皇道警察を貫いたら、警察の臨戦體制も萬全だつた。

今日では誰でも立派な事が云へる時世になつて居るから大丈夫だ。ただあまり妙な風に元氣を出しよると却つてやり損ふぞ。は、は、は。

時田警部補 全くそうですか。兎に角、今後は防犯第一主義ですか。

署長 選挙を大層心配する人があるが、僕のやうな臍の小さい者でも選挙はそう心配せんよ。

藤本警部補 署長さん方は大抵選挙を心配されるやうですか。呑氣な風をされて居つても實際は心配して居るやうですよ。

署長 僕が素人じゃから「盲、蛇に怖ぢず」で心配せんのかやろう。

藤崎部長 署長殿が、あの人この人を考へずに、虚心坦懐ですから、心配がないのですよ。

署長 僕の選挙哲學を話さうか。僕はなア、選挙と云ふものを、そうムツかしいものには思はんよ。まあ此處の天満宮様の夏祭と同じ事位に考へて居るよ。この神聖な御祭典は一人の怪我人も出さないやうに、警察官が願紐かけて巻脚絆で、人出の整理警戒をし、立派に終了させるのが警察の働きだよ。若しも自動車に轢かれるものが出来たり、喧嘩騒ぎで人を傷害するやうなことが起れば、警察の手落ちだ。然し自動車の運転手や、其の他の刑罰法令違反は嚴重に處断する。まあ、こう云ふ行き方でよかろうと思つて居るよ。諸君選挙と云ふものを、それ以上に考へんでもよいぞ、は、は、は。

山川警部補 はあ、よく判りました。

藤崎部長 あれこれ、氣を遣ふから、却つて悪いのよ。

署長 選挙に限らず何をするにも警察官であることを忘れんことだね。

四六 警察のお母ちゃん

署長官舎の奥座敷、机にもたれて書見して居つた古川署長は、何思つたか立ち上り、警察電話を始めたのであつた。

古川 あ、もし、署長ですがねえ、小使さんは居りませんか。

内勤巡査 はい、署長殿ですか、一寸お待ち下さい。

小使 あゝもし〜小使でござぬます、何か御用
でしようか。

古川 あゝ吉田君か、どうも私用で済まんがねえ
内の子供がまだ歸つて來ないから、一寸其の邊
を探してくれんかねえ。

小使 坊ちゃん方は、奥さんをお迎へとかで停車
場へ行かれましたが……。

古川 あゝそうかね。

小使 はあ、しかし三時頃でしたが……。

古川 三時頃？ はゝあ、待つとるね。

小使 一寸、私が停車場まで行つて参りましよう
か。

古川 まあよかろう。其の内歸つて來るだらう。
やあ、あり難う。

この電話が終ると間もなく、母子四人は表門か
ら賑やかに歸つて來た。

弘 只今。

通 只今。

綾子 お父ちゃん、只今。待つたらう。

房江 どうも濟みません。遅くなりまして、大倉
で四時の汽車に乗り遅れまして、ひもじかつた
でしよう。直ぐ御飯にしましょう。

古川 弘、黙つて驛に行つちやいかんぞ、心配す
るじやないか。十六にもなつて判らんか、中學
三年も駄目じやねえ。お母ちゃんより背の高く
なつたものは考えい。

弘 どうも濟みません、あんまり綾ちゃん達が
きたがるもんですから。

通 お父ちゃん、二汽車待つたんよ。

古川 馬鹿だねえ。お母ちゃんがどの汽車か判り
もせんのに、行つてたつて、仕方がないじやない
か、然しお母ちゃんが喜ぶことならまあいよ。

綾子 お母ちゃんに早う會ひたいから行つたんだ
よ。

古川 馬鹿だね。お母ちゃんが一晚位居らんだつ
てどうあるか、やつぱり、お母ちゃんがいゝん
だなアお父ちゃんよりも――。

綾子 さびしいのよ、ねえ兄ちゃん。

通 お父ちゃんが居らんでもさびしいことはない
けど、お母ちゃんが居らんとさびしいねえ。

古川 よし、それならお父ちゃんはどう死んでも
いゝか。

通 そりやいかんよ、死んぢやいやよ。警察に出
て居らんのならさびしくないと云ふのよ。

古川 よし、それならもうお父ちゃんはよいもの
があつてもやらんぞ。

通 うん、やらんでもいゝ、お母ちゃんに貰ふか
らいよ。

古川 よし、綾子もそうか。

綾子 お父ちゃんがやらんでもお母ちゃんがやる
からいゝよ。

古川 何や、よし〜。

房江 さあみんな御飯よ。(一家族五人食卓につ
く)

弘 お母ちゃん、あのお壽司はどうする。

房江 あゝそう〜、早くお父ちゃんにあげれば
よかつたね。

通 うちもお壽司おくれ。

綾子 あたかもお壽司頂戴。

房江 あのねえ、みんな分けてあげる。お父ちや
んはお留守番だから澤山あげるよ。其の次に大
きい兄ちゃんに三つ、通さんと綾ちゃんは二つ
づゝよ。其の代りあれをねえ。

綾子 うん、いゝよ、お母ちゃんはないの。

房江 お母ちゃんはいらんのよ。

弘 お母ちゃん、私のをあげる。(弘は三つの内二つを箸で母親の皿に移す)

房江 弘ちゃん、お母ちゃんは、そんなにいらんよ。(母親は又一つを弘の皿に返す)

古川 仲々母ちゃん人気ぢやねえ。うむ、この壽司はうまいねえ。

綾子 お母ちゃんが買ふて来たからよ。

房江 あなた此の人達は三時頃から驛に来て、二汽車も私を待つてくれたそうですよ。あり難いわ。驛に着いた時嬉しかったわ。

通 こつちが嬉しかったよ、お母ちゃんが何かお土産持つて来よつたから。

古川 通、お前、お土産を待つたんぢやないか。

通 違ふよお母ちゃんを待つたのよ。お土産を持つとつたから、なほさら嬉しかったよ。

古川 何か又いろ／＼買ふて来たんだろう。

綾子 お父ちゃんは、こすいからねえ、滅多と買ふてくれんのよ。

房江 あのねえ、お母ちゃんが買つて来ても、みんなお父ちゃんのお金よ、だから、お父ちゃんから買つて頂いたと同じよ。

通 そんなら、お父ちゃんも買ふて来りやいゝのに。

弘 通、あれか？

通 うん、いつかも署長會議の時福坂からお土産を買ふて来てやると云ふと置いて、買ふて来なかつたもんのう。

古川 今日は何を買つて来たかね。

房江 御飯が済んでから、お目にかけましょう。(食事は終り後片附も済む)

綾子 お母ちゃん、早うお見せよ。

房江 これはね、大きい兄ちゃんのシャツと靴下、

これが通さんの洋服と筆入れ、これは、綾ちゃんの洋服と輪櫛、これはお父ちゃんの靴下。

通 お母ちゃんのは無いの？

房江 お母ちゃんは又お父ちゃんから買つて貰ひます。

綾子 お父ちゃんも儲かつたねえ。

古川 うん、靴下を儲かつたねえ、お母ちゃん有難う。

房江 みんなよかろう。

古川 通、内で誰が一番偉いか。

通 又あれか、判つてる、お父ちゃんが一番偉いのよ。

綾子 お父ちゃんが一番偉いけれど、一番好きなのはお母ちゃんねえ。

房江 お母ちゃんをみんなして好いてくれるのは

有難いわ。お母ちゃんはねえ、あなた方が良い

事をしてくれよばほんとに嬉しいのよ。お父ちゃんにも孝行になりますよ。あなた方の内誰か

一人でも悪るい事をする人があると、お母ちゃんは悲しくなりますよ。

綾子 お母ちゃん、悲しくなると泣くでしょう。

房江 え、お母ちゃん泣くよ。あなた方はお父ちゃんの言ふ事を聞いて立派な人になり、正しいことをして下さいねえ。あなた方が正しい事をする爲めに、どんな事があつたつて、例へ死んだつてお母ちゃんは決して泣きませんよ。

署長古川警部は今更ながら後妻房江に對する信愛の情切なるものを感じるのであつた。

四七 念佛巡査

八田警察署三毛門村巡査駐在所に巡視に立寄つた古川署長、隨行草村刑事と同村駐在池田巡査の三人。

署長 今、儂が自轉車で此方の方へ來ると小學兒童に會つたが、儂に手を合はして拜んだよ。あれが昔の念佛巡査林田爲吉君の遺訓ではないかね。

池田巡査 はア、そうです。林田巡査が官を退いて十年にもなりますが、いまだにあの合掌の禮が残つて居ります。

草村刑事 實際、念佛巡査のことは大したものです

よ。此の村では現在どの家でも林田巡査の寫眞を佛壇に祭つて、心の守りとして尊び敬ふて居るのです。

署長 どの家でも寫眞を祭つて居るかね。

池田巡査 はい一村全戸祭つて居ります。林田巡査は此の村だけに十八年間勤続したのでありますが、官を退いて十年後、田川郡の川崎村で七十五歳で他界したのでありますが、本村の人は同君生前の高徳を慕ふて、村費を以て盛大な追悼會を營み、記念として、同君在りし日の寫眞を多數複製して、各戸に配つたのでありました。

草村刑事 人間も此處まで尊敬されるやうになれば神様、佛様だねえ。

署長 實際神様だねえ。

池田巡査 私がまだ新任駐在として仕事のことによ

く判らん時、よく林田巡査に教へを受けたものですが、仲々親切に後輩を指導してくれましたよ。そして、歳の六十以上とも覺へぬ元氣がありましたよ。よく自轉車に乗り、足力の強いことには若手巡査も舌を卷いたもんですよ。

署長 大そう執行力が強よかつたそうだね。

池田巡査 執行力は確かに強ふりました。

署長 そして又やさしかつたそうだね。

池田巡査 つまり悪黨に對しては何處迄も強く、善良な人々には何處迄も親切に保護してやり、貧民に對しては又、格別世話が行き届いたもんです。

署長 金や品物を恵んでやつたり、田植の加勢までしてやつたそうだね。

池田巡査 一寸一口には言へませんねえ、全く生菩薩ですよ。

草村刑事 大變、佛教信者であつたそうだねえ。

池田巡査 そりやあ。御經のやうなものでもよく覺へて居りまして、御寺の坊さん方に説教が出来た様でした。そして御慈悲御慈悲と毎日喜んで居りました。妻のカツノさんは二十年來の盲目でありましたやうでしたが、林田巡査はよく手まで引いて面倒を見てやりました。

草村刑事 そのカツノさんも佛教信者で相當深い信仰を持つて居つたやうですねえ。

池田巡査 そうらしかつたですが、高等教育までさせて之から愈々頼りになると云ふ一人息子に死なれた時には、カツノさんも信仰心が亂れ愚痴が出て、此の世には神様も佛様もない、こんなに酷いことがあるもんかと泣き悲しんだそうですが、流石は當の林田巡査は悟つたもので「何を愚痴なことを言ふか、罰が當るぞ、ようも今

日迄長い間自分達夫婦に力と楽しみとを與へて下さつた、お蔭で、お前も僕も喜んで毎日の有難い日暮しが出来たじやないかね、神様や佛様に怨みごとでも言ふと、ほんとに罰が當るぞ。大體お前は無常觀がわかつて居らんやうだね、年の若い者が長生きをする、子は親より必ず後に死ぬると考へ込んで居るから、それが間違つた時に狂ひ騒ぐのじや。人間は老少不定全く無常の命じや、いゝかな、ちやんと決定しとかんと之から先が不安になるじやないかねと、諄々と説き聞かせたさうです。

署長 徹底したもんだねえ。それから學校の生徒たちにもよく道を説き親孝行をすゝめたさうだねえ。

池田巡查 此の村の學校生徒も、林田巡查の駐在する前までは途中で官公吏に會つてもお辭儀をす

る者は少なかつたのでしたが、林田巡查が先生の諒解を得て時々學校に行つて教壇から修養を説き、よき人々に對する敬禮のことなど諭して居りましたが、林田巡查は公式の擧手敬禮の外常に念佛合掌の敬禮をして居りました。生徒達に對しましても「みんな佛様じや」と合掌して居りましたので、自然學校生徒も村人も林田巡查に對しての敬禮は念佛合掌となつたさうです。

草村刑事 念佛巡查と云へば何か消極的のお人好し巡查だと直ぐ想像するのでありますが、此の林田巡查の如きは、所謂鬼手佛心の警察官ですなえ。

池田巡查 殊に私共が感心して居ることは、林田巡查が此の村に駐在して居る間、常に村の治安に心を遣ひ「僕の村には酒を飲んではグズグズ云つて人に迷惑をかける者や、生業なくしてブラ

ブラする奴は斷じて置かんぞ」と高唱して、若

しも不逞の者があれば、佛教を説いて改心せしめ、心良からぬ輩は時を構はず本署へ引致して拘束して貰ふと云ふ強い執行をした爲め、遂に此の村には警察の御厄介になる者がなくなつたと云ふことです。又傳染病や火災の豫防にも精魂をつくし、村人の保護には全く到れり盡せりで、退職して死んだ後までも里の護り神のやうに尊敬せられるのも全く本人の餘徳の輝きと思ひます。

署長 あゝ今日はいい話を聞いた。我々もうんと修養して國の爲め人の爲め大御心に副ふやうな行ひを致したいもんだなア。草村刑事、君は毎日門戸に國旗を掲げて皇道警察を修養して居るさうだが結構だねえ。

草村刑事 いゝえ、私なんざあ全くつまりませんで

す。

署長 いやお互ひに氣をつけて行かうねえ。

四八 聖戰と警察官

昭和十二年七月七日、北支蘆溝橋附近に於て我軍は支那軍の不法射撃を受けたる事に端を發し、日支兩國軍の現地衝突を見たのであつたが我國は極力事變不擴大方針を以て之に臨んだのであつたが、暴戾なる支那は却て抗日の好機到れりとし、益々不逞を續行するので遂に餘儀なき支那事變の展開となり、全國各師團に動員令は下され天に代つて不義を討つ、忠勇無双の我兵は歡呼の聲に送られて聖戰の庭に立ちつゝあつたその頃、八田警

察署からも次々に署員の應召者を見るに至つたのであつた。

署長 あゝそうでしたか、全くお見それしまして恐縮でした。あの時は何から何まで大層お世話になりました。

今村藤吉 實は伴がお世話になつて居りますので、早く一度御挨拶に出よう出ようと思つて居る内ツイ今日になつて済みません。

署長 いやこちらこそ、まあ兎に角お目出度いとです。一寸藤崎君を呼びましょう。(呼鈴を押すと藤崎部長が這入つて来る)

署長 藤崎君忘れて居るだらう。大橋署時代の下宿屋のおぢいさんだ。

藤崎 はあ、そうでしたか、全く御無沙汰して済みません。

今村 いゝえ、私こそ御無禮して申譯ありません。

伴が御世話になつて居りますので、御消息はすつと承知して居りました。

署長 今村巡査のお父さんだつたそうな。

藤崎 はあ、そうですか、全く知らんもんでねえ。

今村 今私方は尾倉に居りますが、伴に召集令が來ましたので、今日持つて來ました、何分宜しくお頼みます。

藤崎 ヤア、そりやお目出度うござめます。今村君には知らせてありますか。

今村 はい、もう知らせました。

署長 今度の戦は我國にとつて極めて重大なものであるばかりでなく、東洋平和、世界平和の爲めの人道戦であります。此の聖戦は天つ神の治るしめす神國日本に課せられた戦です。此の聖戦の目的を達成する迄は國民は打つて一丸となつて行進せねばならぬのです。

今村 警察の方も次々と應召者がありまして、お忙しいでしょう。

署長 なあに構はんです、銃後の警察は愈々不眠不休で聖戦参加の意氣込みで残つた人々で重荷を背負ふて行きますよ。

藤崎 今村さん、息子さんが出征したら尙更のこと緊張して銃後の御奉公しましょうぜ。

今村 しつかりやります。(伴の榮吉這入つて来る)

今村巡査 今村巡査は召集令を受けました。命令の通り指定の日時迄配屬聯隊に入營致します。

署長 やあお目出度う、御苦勞感謝します。

藤崎 今村巡査、君が大橋の今村さんの令息とは全く知らなかつたぞ、君が言はんもんじゃから。

署長 今村巡査、警察官は戦線に立つても他の一般の者に優れて軍人精神を發揮して充分に戦功

を樹てゝくれよ。家庭のことは何も心配するな。儂が一切引受けた。

藤崎 奥さん方は大倉に引移るかね、それともこちらに居らるかかね。

今村巡査 實は私共は何處に居つてもよいのですから、話合ひで今の家に一しよに暮すことにして居ります。

署長 さうですか、儂も充分お世話してあげる。

藤崎 何れ署長殿と相談してあんたの歡送會をしませう。

署長 あゝそうしようね。今村巡査、君は今支那事變を何う思ふ？ 支那國民政府のやり方はまつたく酷いよ。蔣介石と云ふ軍閥と宋子文と云ふ浙江賊閥とが相結んで支那四億の民人を苛斂誅求し、自派一黨の者が榮耀榮華を極めようと云ふ神人共に許さない霸道政治を強行しよう

と云ふ腹の黒い連中だよ。だから日本と提携して行けば其の不當が出来ないから寧ろ反對に抗日教育、排日教育を續けて、皇道の大陸への輝きを妨げて居るんだよ。今度と云ふ今度は、斷乎臍懲して其の根源を正し、支那四億の民人を塗炭の苦みから救ひ出さねばならないのだよ。

今村巡査 はい、よく判りました。神の戦士警察官兵士として恥かしからぬ奮闘を致します。

今村藤吉 支那の一般民は可愛そうですねえ。

署長 我が軍の敵は抗日國民政府であります、支那の一般民衆ではないのです。

明治天皇の御製に

國の爲め仇なす仇はくたくとも

いつくしむべきことなわすれそ

——と御詠みになつたのであります。

今村巡査 誓つて大御心に副ひ奉ります。

署長 此の聖戦の目的が、完成されれば、東亞の天地には善隣友好、共同防共、經濟提携と云ふ新秩序が立ち、日本人は固より滿洲人も支那人も東洋人の全部がより平和なる、より幸福なる所謂東亞共榮圈の新生活が始まり、皇道政治を讃仰して眞の世界平和の基をなすことを喜ばねばならんよ。まあお茶をお上り、さあ。

四九 蔭膳する妻

八田警察署の署長官舎の奥座敷、房江夫人は來訪の警察幹部夫人等に澁茶をすゝめながら

房江 皆さん、お揃ひでよくお出で下さつたのねえ。藤本さん先日は御苦勞でした。

藤本警部補夫人 いゝえどう致しまして、何時か又

お供をさしていたゞきます。

房江 わたしはねえ、大抵一人でお訪ねするのですが、この署にも出征家族のお宅が五軒ありますから、みんなで時々お訪ねをしてあげるとよいと思ひます。

山川警部補夫人 やつぱりねえ、出征家族のお方はお淋しいやうですよ。何しろ私共の代りに出征して下さつて、激しい戦や警備について居つて下さればこそ、其のお蔭で銃後は安穩に暮して居られるんですからねえ。

時田警部補夫人 わたしはねえ、此の頃荒木さんのお宅にお訪ねを致しましたが、あの奥様は感心ですねえ、お食事たんびに御主人の蔭膳をなさつて居られますよ。お膳にねえ、お寫眞を置いてねえ、温かいものをお茶碗に盛つて供へます

のよ。

房江 感心ねえ、あの奥様は。

松本部長夫人 あのね、澤田さんところの奥様も蔭膳を毎日して居りますよ。

房江 ほんとうに、尊いことですねえ「蔭膳に團扇の動く操かな」と云ふ句がござりますが、皆さん、蔭膳はいゝですねえ。

山川夫人 そんな尊い心づくしは、屹度戦地の御主人に通じますよ。

時田夫人 澤田さんところの奥さんはねえ、ずつと前からですよ。三年位前に大演習の時、御警衛に四五日出張された時も、御主人の蔭膳して留守を謹んで居られましたのよ。

房江 ほんとに、私共幹部の家族達はもつとく、修養して行きませんといけませんよ。

藤本夫人 兎に角今までは餘り行つたり來たりして

居ませんでも出征した家族のお方々には特に懇切にしてあげ慰めてあげたり勵ましてあげたりして、淋しい氣持の起らないやうに、私共一同で護つてあげまじやうね。

房江 わたしの方は、主人が女の交際ごとを非常にやかましく中しますので、お互ひにつまらぬ交際をやめて、いつも家の内を整へ、子供を立派に育てることを心がけて居りますが、今度のやうに戦さに出られた家庭の方々をお訪ねするやうな事は、例へ自分の家の用を缺いでもせねばならんと思ひます。

山川夫人 そうでござゐます。近所に住むものは尙更のこと、何彼と氣をつけて慰めたいと思ひます。

藤崎部長夫人 その内一度警察でも出征家族の慰安會を催されるとよいのですがねえ。

房江 それは又署の方で何とか工面がありましたやうよ。

山川夫人 これは今日、一寸聞いた事でござゐますが、ある出征家族の奥様は大層憤慨されて居るやうですよ、尤もそれは警察官の家族ではありませんが、どうしてでしやうかねえ。わたくしもよくは知りませんが、その奥様の言はれるのは「主人が出征した當時は人がよく訪ねて下さつて、又加勢までして下さつたが、段々と日が立つと自然と來る人もなくなり、今では全く忘れられたやうな氣がする」と云ふことです。

房江 成程ね、そんなに思はれてはいけませんね。

山川夫人 それだから私どもも考へて、ずつとお訪ねしてあげることが忘れないやうにせねばなりませんので、先程も皆さんに御相談しました譯

です。

房江 わたしは思ひます、今の時局では銃後の人人は戦線の將兵のお蔭でこの暮しが出来る、有難いことじやと感謝し、戦線の人は銃後がしつかりやつてくれるから、何の心配もない有難いことじやと、銃後に感謝し双方から拜み合の生活をするのでなければならぬやうに出征家族の方には「世間の人々がかう親切にして下さることは誠に有難いことです」と感謝されるやう一般の方々は何は措いても出征將兵の遺家族をお世話せねばならん、双方同じ心になつて、御國の爲めに毎日精々働くことが肝要と思ひます。

藤本夫人 わたしもそう思ひますのよ。

明治天皇様の御製に

國を思ふ道に二つはなかりけり

戦の場に立つも立たぬも

と御詠みになつたのがござゐますねえ、此の際は國民全部が聖戦に参加して居るのでござゐますから、皆さん一層自重しましょうよ。それからねえ、今日のやうに揃つて官舎にお伺ひして奥様といろ／＼お話をする機會もあまりありませんので、皆さんあのことを話して見まじやうね。

房江 あゝ、あの、家庭防空のことでしょう。

時田夫人 家庭防空のことですか、わたしもねえ、

此處の組合に出てやつて居りますのよ。

山川夫人 わたしも組合に加はつて居るのですが、世間ではいろ／＼と問題になつて居るのですよ。

房江 どう云ふ問題になつて居りますのよ。

山川夫人 いろ／＼云ふて居りますが、まあ、一口

に言ひますと、女どもが家を放つたらかしてバ

ケツ遊戯をして見たからつて、大した効果もない、女は家で老人子供の世話さへして居ればよいと云ふことですね。

藤本夫人 それは家庭防空のことがよく判らん人々の云ふことですよ。一家の主婦が中心になつてどんな非常の場合でも落着いて老人子供の世話をして、我家を守ると云ふ訓練を持つて置くことは此の際絶対必要と思ひます。

房江 わたしはねえ、常に考へて居りますのよ。

なんでも警察が主になつて世間を指導して居ることは、一寸世間の問題になつても、それはその眞意が判らない爲めの誤解に基くことでありませす。警察の指導して居る事柄は家庭防空のこととは勿論、其の他の衛生のことでも何んでも先づ警察官の家族が率先して實行して世間に範を

示す心がけが大切と思ひます。

五〇 早魃騒ぎと警察

三崎警察署の署長室、地方有志らしい五人の一行は署長古川警部に面談を申入れたので、署長は直ちに應接室に引見して其の要談を聴くことにした。

山田 私は原田村長ですが、此の早魃では茲五日も雨がなければ、この多羅川下流の水稲は全滅しようと思ひますので……。

安武 私は吉武村長ですが、今日お伺ひ致しましたのは、駐在所から御報告もありましたことと思ひますが、上流の山川村の本田區で川を堰い

て終ひましたもんですから一昨日からトンと流

れ水が減りました、私の方に限らず今日参りました関係の村々はどこでもポンプで水を揚げることにすら出来ませんので、甚だ難澁して居るやうな譯でございます。何とか御署の御力に頼り全然水を堰止めないやうに御裁きが願ひたい爲めに一同罷り出た次第でございます。

前田村長 署長さんの前で申しにくいですが、今も四五十人待機して空気は悪いのです。何とか警察の方でお世話が願ひたいのです。

古川署長 承知しました。然しあなた方は村の最高權威者として又指導者として、このことで間違ひを起させないやうに、早速歸つて若い者のお鎮めを願ひたいです。

山田 それでは歸ります。何分宜しくお頼みします。(村長一同は退署する。引きかへに高等主

任花田警部補が這入つて来る)

花田主任 署長殿、只今山川から電話がありました、村の三四十名が鋏、鎌携帯で本田堰のところに陣取つて、下から來たらやつつけてしまへと昂奮して居るそうでござぬます。今から行つて解散を命じましょうか、危険ですから。

署長 まあよかるう。喧嘩相手が來んでは鋏鎌も危なげはなかるう。まあいゝ、儂が行かう。君はね、一足先に行つて本田の區長方に組合長や主な幹部を集めて置いてくれ給へ、儂が話があると云ふてねえ。

花田 承知しました。直ぐ参ります。

(署長は久野警部補、高江部長外巡査三名と自轉車で山川村に到着、區長宅の奥座敷に區長と相談。)

署長 お集まりを願つて恐縮です。水に惱んで居

られることは千萬承知して居りますが、若干下の方にも水が落ちるやう御相談したいのです。下の方のものが騒いでつまらん間違でも起せば此の村の人にも不幸なことが起ります。區長さんどうです、堰板を二寸ばかり下げてくださいませんか。

春山區長 折角署長さんの御心配ですが、此の事だけは私共だけで計らひ兼ねます。何しろ寶曆年間からチャンとした非常水利権があるのですから。

署長 古い庄屋證文のあることも儂は知つて居ります。又下の方の村の者も知つて居ります。然し、現在築いて居るやうな堤防はどうかと思ひます。下に水が何んぼか流るゝやうに「掻き立堰」と證文になつて居るでしょう。

長野組合長 そんなことは前例がありまして、土木

管區の方でも十年ばかり前の非常堰で認められて居るのです。

署長 それでは、どうしても少しも下に水は流さんと云ふのですか、萬事は神様が裁かれますぞよろしい、それじゃ、儂も考へやう、あなた方も考へて貰ひたいです。水利権があると云ふても自分勝手なことは許されるものではない。本來我國の水と云ふ水は悉く上 天皇陛下の御水であります。特別の場合可愛想だから其の水の使用に優先を許されて居る迄のことです。お上は一部の人々のみ可愛がつて他の者はどうなつてもよいと云ふやうな大御心はない、御仁慈は廣大無邊です。自分達さへよければ人はどうなつても構はんと云ふやうな横道なことは斷じて許されません。日本人はみんなが仕合せにあづからねばなりません。

此の非常時に利己心の發揮はどうですか、深刻に考へて貰ひたいです。

春山區長 天皇陛下の御水のこととは判つて居ります。その御水を有効に使はして頂いて一粒でも多くお米を造ろうと思ふのであります。

署長 御考は誠に結構です。然し御水の有効使用には限度がありますぞ、不必要な獨占的使用は恐れ多いことですが、大御心に叶ひませんで。皆さん、どうかものを正しく考へて下さい、頼みます。

長野組合長 署長さんが頼むと云はれるのには弱ります。

署長 弱ることはありません。堰の仕方については良心的判断が願ひたいです。(此の時高等係巡查が急使として署長の耳元に何かの重大事を囁いた)

署長 よし、判つた。吉田に待機して居る荒卷警部補の一隊は富坂に於いて川下の農民隊を喰ひ止める。久野警部補、君は本田の警備隊を指揮して現場より一步も出さな。儂は富坂で川下の農民隊に會はう。

春山區長 署長さん、大變になりましたなア、宜しくお願ひ致します。

署長 あんた方は此處に居つて下さい、動いては危いぞ。此の際、儂の云ふことを聞かんといかん。天に代つて公正に處置する者は儂だ、いゝかね。山根巡查、君は此處に残つて居れ。(署長は高江部長、吉田巡查を伴ひ願紐凜々しく富坂に向ふ。途中網代笠を深く被つた一人の旅僧を追越した。富坂ではトラック二臺に乗じた川下の農民隊が、荒卷警部補隊に遮られ怒號しつつあるところであつた。古川署長は道端の小高

き岸の上に立ち引緊つた語調で)

署長 諸君、儂は三崎署長だ。諸君は何んの爲めに此處まで上つて來た。喧嘩をする爲めか、水を貰ふ爲めかツ。

農民 水を流しや文句はない。

署長 水を貰へばよいんだらう。そんなことぢや水は一滴も貰へんぞ。儂に任して引上げてくれ給へ、

農民 引上ぐる前に水を流して下さい。

農民 もうこうなりや覺悟の前です。

署長 此の非常時局に當面して覺悟と云ふことは聖戰目的完遂のことだ。全國民が一つ心になつて國の爲めに命を捨てることだ。國民同志が相構へて腕力争ひをすることが何の覺悟だ。さア萬事は儂に任せて引上げてくれ給へ。

松井村長 どうも署長さん濟みません。こんなこと

になりまして、あなたのお世話で少しでも川上

の人々が誠意を示してくれれば、皆安心致します。

署長 よろしい、水は必ず流す、明日の朝までには應分の水を落すから引上げて下さい。

農民 若し話が違つたらどうしますか。

署長 うん、その時はこれだ(腹を切る眞似をして見せる。その時、その邊りに佇んで居た旅僧は突然「はッはッはッはッはッ」と爆笑する。一同は呆氣に取られて旅僧に對し怪奇の注目をする)

旅僧 天の水は天に委せる、何を小細工するか。天意をうけて愚僧が解決してやる。(空を仰いで合掌瞑目する、その横顔をチラと眺めた瞬間古川警部は驚いて)

署長 あッ、和尚様ッ。

旅僧 まあ、ゆつくり話さう、危いところじやつたのう、はムムム、早く皆を追歸すがよい。

署長 さあ、皆引上げてくれ、儂の云ふことを聞かず儂を信用せんなら儂も諸君を信用せんぞ。斷乎たる處置をとるぞ。

松井村長 さあ、みな署長さんにお願ひして無事に歸ろう、歸ろう。(と一同又トラックにて引上ぐる。堰の方では、久野警部補等が、區民の鎮靜につとめて居る。古川署長と鐵涯老僧は堰に近よる)

署長 諸君、御苦勞でした。川下も引上げたから川上も皆引上げてくれ給へ。堰の警戒は警察官が公平にやるから水に心配なく全部引上げてくれ給へ。それに不服のある者は本署まで來て貰ひたい。

鐵涯老僧 天の水は天が裁く、安心するがよい。そ

ら空を見なさい。あれ、あの通りじや。

(一同退散する)

署長 和尚様、どうして此處まで來られましたか、全く驚きましたよ。

鐵涯 坊主は三界に家なしじや、どこにでも居るよ。四五日前になア新聞を見たら、此の問題が悪化しそうに感じたから、もう三日も前から木賃ホテルに泊まつて形勢を觀望したよ。それが今日の藝當になつたのよ。然し古川君儂も安心したよ、君が割合にやるからなア、はムム。

署長 全く痛み入ります。いざと云ふ時にうるたへます。和尚様、御後援あり難うござります。

鐵涯 儂はなア、君が死んだら現場供養をしようと思つたよ。(此の時警察署の自動車迎へに來る)

署長 さあ和尚様、これにお乗り下さい。歸りま

しよう。

鐵漕 あ、これは警察の自動車か、役人と云ふものは結構なものじゃなア。(と署長と和尚は同乗して三崎に歸る)

署長 あ、和尚様、ポツリポツリ降つて來ましたよ。

鐵漕 ふん、降るだらう。堰も何も流れてしまふがよい。君も腹を切らずに済むからなア、はゝゝゝ。

五一 遊興の非常時取締

三崎公會堂に於ける時局座談會、集り來る人々は町長、町會議員、大學教授、神官、小學校長、

各種團體長、組合長、婦人會幹部の人々五十人。

時局認識強化に關する種々なる座談が交されて居つたが坂田青年團長は、

坂田團長 署長さん、何時かもあなたと話しましたが實際此の頃の花柳界はいかんですなア。幾ら自分の金でも此の重大時局に藝者遊びする者の多いのは困つたもんですなア。

山本校長 あれは警察の方でグングン取締つて頂けば慎しむことゝ思ひますがねえ。

藤野議員 困つたもんですが、あれは三崎ばかりじゃないよ、博田あたりへ行つて見なさい、ひどいです、每晚八時頃は藝者の箱切です。

古川署長 全く御同感です。警察も適當に取締つて居るのですが、もつと締めますかなア。

高田婦人幹部 署長さん、あゝ云ふことはウンと取締まつて下さい、町の恥です。平常は兎に角こ

のあなた非常の時に、あんなことでは困りますよ。

署長 一方には戦線に於て一命を捧げて國につきす軍人さんがあるのに、一方では酒池肉林の快樂に耽ると云ふ人々があるとは、誠に相濟まんですねえ。

谷山町長 翼賛運動も、まあこうしたことから改まつて行かねば駄目ですよ。

坂田團長 署長、警察も嚴重に取締つて下さい。若し警察が手不足でしたら警防團でも青年團でもお手傳ひしますよ。

花田婦人幹部 料理屋の近所に出征家族も戦死者の遺族の方も居りますが、申譯ないと思ひますわねえ。

署長 皆さん、御注意有難く思ひます。私も全く同感ですが、茲に皆さんと特に考へて見ねばな

らんことがあります。お話の料理屋騒は三崎のことですが、客は一體どこから來る人々でしようかねえ。

山本校長 そうですねえ。仁屋の田舎から何ぼか來ましようが、大部分は此の町の人々ですよ。

署長 さあ、それが困つたもんですねえ。

坂田團長 それですから署長さん、グングン取締つて下さい。先月警察で酒を飲んで街をぶらつく若い者を檢束されたのは大變よかつたですよ。

山本校長 今度は不良老年を取締つて下さい。

谷山町長 不良老年も居るね、僕も其の一人じゃなにかね。然し僕達は考へて飲んどるよ、已むを得ん公の交際でねえ。

署長 私は此の問題の取締もして居りますが、根本から清まらねば駄目と思ひ、翼賛運動に期待して居るやうな譯です。警察から権力で抑へら